

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集

尿前II遺跡B地区発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

尻前II遺跡B地区発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成10年度の岩手県教育委員会のまとめでは、10,500箇所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な一施策であります。特に本調査の原因となりました胆沢ダム建設事業を例に挙げるまでもなく、治山・治水・利水及びエネルギー開発は、多方面から期待されるところであります。このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとって参りました。

胆沢町原前II遺跡は、胆沢川左岸の崖錐上に立地し、本報告のB地区は、平成9年のA地区に続き、平成11年に発掘調査を行つたものであり、これにより縄文時代の集落跡であることが明らかになりました。縄文時代の住居跡や土坑の発見は、当時の生活を考える上で貴重な資料となるものであります。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力、ご援助を賜りました建設省胆沢ダム工事事務所、胆沢町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成12年8月

財團法人 岩手県文化振興事業団

理事長 千葉 浩一

例　　言

1. 本報告書は、胆沢町若柳字尻前9番地に所在する尻前II遺跡B地区の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は、次のとおりである。
遺跡番号　NE2I-2236　　調査番号　SMII-99
3. 本遺跡の調査は、胆沢ダム建設に伴う緊急発掘である。調査は建設省胆沢ダム工事事務所と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 野外調査の期間と調査面積、調査及び整理担当者は次のとおりである。
期間　平成11年6月8日～10月29日
調査対象面積　7,500m²
調査終了面積　7,500m²
調査・整理担当者　小原眞一・布谷義彦
5. 室内整理は平成11年11月1日～平成12年3月31日まで行った。本書の執筆、編集、校正は、小原が担当した。
6. 出土品の鑑定は、次の機関及び方々に依頼した。(敬称略)
石器・石製品の材質鑑定………花崗岩研究会(矢内桂三・柳沢忠昭)
黒曜石の産地同定………佐々木繁喜(宮城県立若柳高等学校)
7. 基準点の測量及び空中写真的撮影は次の機関に委託した。
基準点の測量………㈱東邦技術(本年度は97年に設定した杭の確認・補正をした)
空中写真撮影………㈱東邦航空
8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。
胆沢町教育委員会
9. 発掘調査及び整理・報告書の作成には、次の方の協力・指導をいただいた。(敬称略)
佐々木いく子(胆沢町教育委員会)　酒井宗孝(花巻市教育委員会)
10. 野外作業では、若柳地区をはじめとする地元作業員の方々の協力をいただいた。また、室内整理においては、当センター臨時職員のみなさまの協力をいただいた。
11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

本文目次

序

例言

日次（本文・図版・表・写真図版）

報告書抄録

I、調査に至る経過	3
II、遺跡の立地と環境	3
1. 地形と地質	3
2. 周辺の遺跡	5
III、調査の方法と室内整理	9
1. 調査の方法	9
2. 室内整理	10
IV、検出された遺構と遺物	11
1. 竪穴住居跡	11
2. 燃土遺構	15
3. 土器埋設遺構	15
4. 土坑	16
5. 溝跡	20
6. 段状遺構	21
7. 遺構外出土遺物	33
(1) 土器	33
(2) 土製品	34
(3) 石器・石製品	34
(4) 古錢	34
V、まとめ	73
1. 遺構	73
(1) 住居跡・土器埋設遺構・燃土	73
(2) 土坑	73
(3) 溝跡・段状遺構	73
2. 遺物	74
(1) 土器・土製品	74
(2) 石器・石製品	78
(3) 古錢	78
表	
土器・土製品觀察表	62
石器・石製品觀察表	69
古錢觀察表	72

図版・表目次

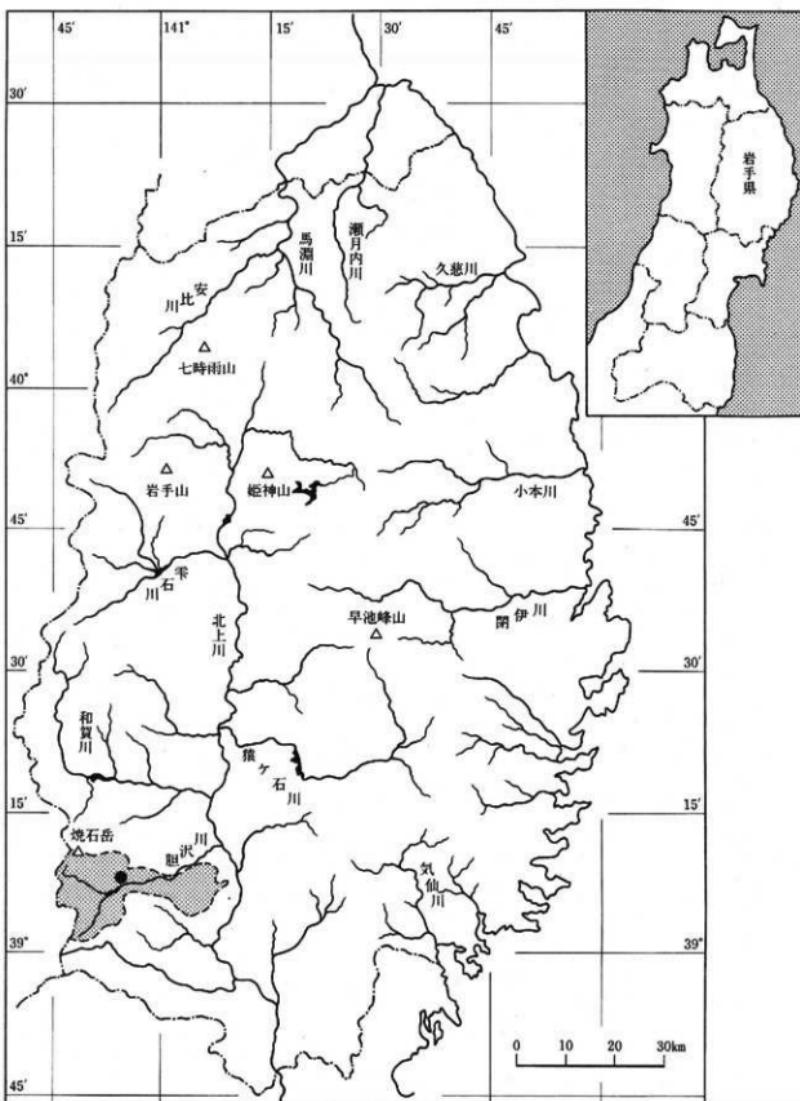
第1図 岩手県における遺跡の位置図	1	第34図 遺構外出土石器(3)	51
第2図 遺跡周辺地形図	2	第35図 遺構外出土石器(4)	52
第3図 遺跡周辺地形分類図	4	第36図 遺構外出土石器(5)	53
第4図 基本土層柱状図	5	第37図 遺構外出土石器(6)	54
第5図 周辺の遺跡分布図	6	第38図 遺構外出土石器(7)	55
第6図 グリッド配置図	9	第39図 遺構外出土石器(8)	56
第7図 実測図凡例	10	第40図 遺構外出土石器(9)	57
第8図 II C 1 e · II C 4 f · II C 8 j · II C 9 e 住居跡	22	第41図 遺構外出土石器(10)	58
第9図 II C 9 j · III C 0 e 住居跡	23	第42図 遺構外出土石器(11)	59
第10図 III C 3 d · II C 3 g 住居跡	24	第43図 遺構外出土石器(12) · 石製品	60
第11図 II C 4 a · II C 7 e 焼土 III C 4 f 土器埋設遺構 · 土坑(1)	25	第44図 古錢	61
第12図 土坑(2)	26	第45図 土器分布図	76
第13図 土坑(3)	27	第46図 刻片分布図	77
第14図 II B 6 i 溝跡	28	表1 周辺の遺跡一覧	8
第15図 III D 5 g 溝跡 · III D 0 e 段状遺構	29	表2 遺構一覧表	21
第16図 IV C 3 g 溝跡	30	表3 住居跡一覧表	32
第17図 遺構配置図	31	表4 土坑一覧表	32
第18図 住居内出土遺物(1)	35	表5 土器分布表	75
第19図 住居内出土遺物(2)	36	表6 刻片分布表	75
第20図 住居内出土遺物(3)	37		
第21図 住居内出土遺物(4) · 埋設土器 · 土坑内出土土器(1)	38		
第22図 土坑内出土土器(2) · 溝跡出土遺物	39		
第23図 遺構外出土土器(1)	40		
第24図 遺構外出土土器(2)	41		
第25図 遺構外出土土器(3)	42		
第26図 遺構外出土土器(4)	43		
第27図 遺構外出土土器(5)	44		
第28図 遺構外出土土器(6)	45		
第29図 遺構外出土土器(7)	46		
第30図 遺構外出土土器(8)	47		
第31図 遺構外出土土器(9) · 石製品	48		
第32図 遺構外出土石器(1)	49		
第33図 遺構外出土石器(2)	50		

写真図版目次

写真図版1	空中写真1	81	写真図版35	遺構外出土石器7	115
写真図版2	空中写真2・基本土層・作業風景	82	写真図版36	遺構外出土石器8・石製品 ・古錢	116
写真図版3	II C 1 e 住居跡	83			
写真図版4	II C 4 f 住居跡	84			
写真図版5	II C 8 j 住居跡	85			
写真図版6	II C 9 e 住居跡	86			
写真図版7	II C 9 j 住居跡	87			
写真図版8	III C 0 e 住居跡	88			
写真図版9	III C 3 d 住居跡	89			
写真図版10	III C 3 g 住居跡	90			
写真図版11	土坑1	91			
写真図版12	土坑2	92			
写真図版13	土坑3	93			
写真図版14	土坑4	94			
写真図版15	土坑5	95			
写真図版16	焼土・土器埋設遺構・段状遺構	96			
写真図版17	溝跡1	97			
写真図版18	溝跡2	98			
写真図版19	住居内出土遺物1	99			
写真図版20	住居内出土遺物2	100			
写真図版21	住居内出土遺物3・埋設土器 ・土坑内出土遺物1	101			
写真図版22	土坑内出土遺物2・溝跡出土遺物 ・遺構外出土土器1	102			
写真図版23	遺構外出土土器2	103			
写真図版24	遺構外出土土器3	104			
写真図版25	遺構外出土土器4	105			
写真図版26	遺構外出土土器5	106			
写真図版27	遺構外出土土器6	107			
写真図版28	遺構外出土土器7・土製品	108			
写真図版29	遺構外出土石器1	109			
写真図版30	遺構外出土石器2	110			
写真図版31	遺構外出土石器3	111			
写真図版32	遺構外出土石器4	112			
写真図版33	遺構外出土石器5	113			
写真図版34	遺構外出土石器6	114			

報告書抄録

ふりがな	しとまえⅡいせきBちくはつくつちようさほうこくしょ								
書名	戸前II遺跡B地区発掘調査報告書								
副書名	胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査								
巻次									
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第343集								
編著者名	小原真一								
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター								
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下郷岡11-185 Tel.019-638-9001								
発行年月日	西暦2000年9月30日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
戸前II遺跡 岩手県胆沢町 若柳字戸前 9番地	岩手県胆沢町	03383	NE21-2236	39度 06分 54秒	140度 54分 32秒	19990608 ~ 19990922	7500m ²	「胆沢ダム 建設」に伴 う緊急発掘 調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
戸前II遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 焼土遺構 土器埋設遺構 上坑 溝跡 段状遺構	8棟 2基 1基 23基 3条 1基	縄文土器(前・後・晩) 【後期前葉期主体】 石器(石器・石刀・石斧) 状石器・磨石類(ほか)				



第1図 岩手県における遺跡の位置図



第2図 遺跡周辺地形図

I. 調査に至る経過

戸前Ⅱ遺跡は「胆沢ダム建設事業」に伴って、その事業区域内に位置することから発掘調査を実施することとなつたものである。

胆沢ダムは、北上川右支川の胆沢川に建設される高さ132m、長さ745m、総貯水量1億4,300万m³の中央コア型ロックフィルダムであり、水没面積は4,400Tm²である。

北上川水系は、本川の流況に影響を与える大支川が各所で合流するため洪水流出が急激な特性を持つていること。また一関市孤禪寺下流の挟窄部により洪水の流下が著しく妨げられその上流に遊水現象が生じる等のため、過去幾多の洪水で多大な損害を受けてきた。

このため、上流部（岩手県内）において昭和16年より洪水調節のため多目的ダム群の建設を骨子とした治水事業に着手してきた。しかし、近年の北上川流域の社会経済の発展に伴う人口、資産の増加等から昭和48年4月に改定された「北上川水系工事実施基本計画」に基づき上流ダム群の一つとして「胆沢ダム」を建設するもので、その目的は洪水調節・流水の正常な機能の維持・かんかい用水・水道用水・水力発電を行う多目的ダムであり、平成2年5月11日に「胆沢ダム建設に関する基本計画」が官報告示され今日に至っている。

埋蔵文化財の取り扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省新石器調査事務所（昭和63年4月 胆沢ダム工事事務所と名称変更）から、ダム事業区域内の埋蔵文化財の有無の照会が岩手県教育委員会に出され、周知地区864,000m³、可能性有地区490,000m³が確認された。その後、水没面積を含む施行区域内の埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて、毎年度各工事等の実施に先立つて、岩手県教育委員会と協議を行ながる計画的に調査を実施しているところである。

戸前Ⅱ遺跡については、平成8年6月5日付け「建東胆工第92号」により胆沢ダム工事事務所から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼がなされた。依頼を受けた岩手県教育委員会は平成8年9月25日～27日の3日間試掘調査を実施しその結果トレンチ2箇所から繩文土器が検出され遺構が存在する可能性が高いことが判明、平成8年10月22日付け「教文第618号」で発掘調査が必要の旨の回答を胆沢ダム工事事務所に報告された。

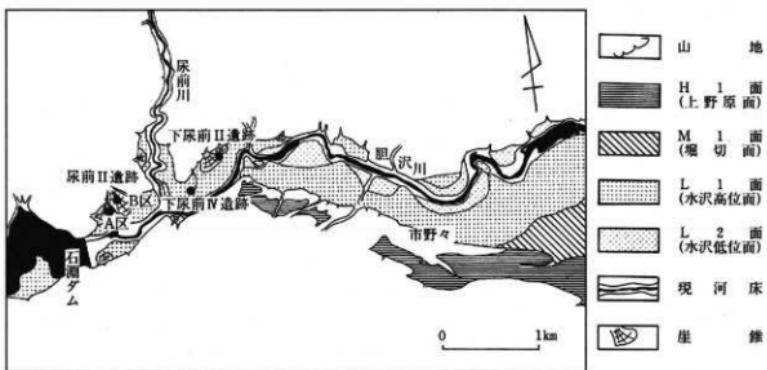
これに基づき両者が協議を行い、消滅する遺跡について事前に発掘調査を実施することとし、発掘調査事業については財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。なお、この箇所は平成9年度に発掘調査を8,800m²実施済であり、引き続き、残りの部分7,500m²を平成11年度に実施することとしたものである。

II. 遺跡の立地と環境

1. 地形と地質

胆沢川の上・中流域をその範囲とする胆沢町は、岩手県の南西部に位置し、北は金ヶ崎町・北上市・湯田町、東は水沢市・前沢町、南は衣川村、西は秋田県東成瀬村に接している。

奥羽山系の焼石岳（1,548m）南西麓に源を発する胆沢川は、山岳部で小出川・前川・戸前川を合わせて東流する。市野々地区で山地を離れた流れは、当地区を扇頂として扇長約18km、扇端幅約19km、面積約200km²の県内最大の扇状地（胆沢扇状地）を形成し、北西から下る永沢川・黒沢川を合わせて、水沢市佐倉河付近で北上川に合流する。流路延長45km、流域面積320km²の1級河川である。



第3図 遺跡周辺地形分類図

胆沢扇状地は、更新世中期から後期にかけて形成されたと考えられ、胆沢川の開析を受けて段丘化している。これらの段丘については、中川ほか (1963 b)、齊藤 (1978)、大上・吉田 (1984)、渡辺 (1991) の研究があるが⁵、渡辺と大上・吉田の区分を参考にすると、胆沢扇状地は、高位から T 1 (大歩面)・T 2 (一段坂面)・T 3 (西根面)、H 1 (上野原面)・H 2 (横道面)、M 1 (堀切面)・M 2 (福原面)、L 1 (水沢高位面)・L 2 (水沢低位面)の9面に区分されている。各段丘は、本流である北上川の流下方向とは逆に高位から漸次北に配列され、現在の胆沢川は北端の扇側部に沿って流れている。なお、山岳部での隣接市町村境界は峰々の分水嶺となっており、扇状地を形成した集水域とほぼ一致する。

東北地方の脊梁をなす奥羽山脈は、中新世以降のグリーンタフ変動によって形成され、新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地で、現在でも活動している火山もある。形成期が比較的新しいため、この山地に源を持つ北上川の西側支流に多量の土砂を供給し、中流域西岸では前述の胆沢扇状地をはじめとする大小の扇状地が発達し、広い平野部を作り出している。

尿前II遺跡は、北緯39°06'54"、東経140°54'32"付近、石淵ダムの北東約500mの距離にあり、国土地理院の1:25,000の地形図では「石淵ダム」の図幅に含まれる。ダムから扇頂となる市野々地区までは約3kmで、この間は谷底平野地形を呈し、両岸には40~45°の比較的急峻な斜面が迫る。また、胆沢川に沿って小規模な河岸段丘が発達し、山地と接する部分は崖錐性堆積物が覆い緩斜面地形をなしている。周辺の基盤は、新第三系紀尿前層の石英安山岩類である。

本遺跡周辺（第3図）には、3段の段丘が観察される。最も高位の段丘はT 3面（西根面）で、馬留地区右岸の標高330m付近に僅かに平坦面を残す。谷底部で最も広がるのはL 1面（水沢高位面）で、L 2面（水沢低位面）は馬留橋より下流に分布する。胆沢川と尿前川の合流地点付近にはL 1面より約2m高い面がある。

また、L 1面を崖錐が覆っている。遺跡は、胆沢川左岸のL 1面を覆う崖錐上に立地している。

標高は330～350mで、勾配16°前後の傾斜がある。1997年度に調査したA調査区は、沢をはさんで西側に位置している。現河床面からの比高は60mで、現状は山林であった。

第4図は、B調査区における標高345m地点の深掘の土層断面で、これを基本層序とした。なお、B調査区は、1997年の調査の時点で表土除去を行っているので、表土より下位の土層について記載する。

第I層 黒褐色土（層厚：10～15cm） 地点によって欠如するが、住居・土坑、風倒木といった窪みの上部に灰白色の火山灰（十和田a火山灰）が厚く堆積している。縄文時代の遺物を含む。

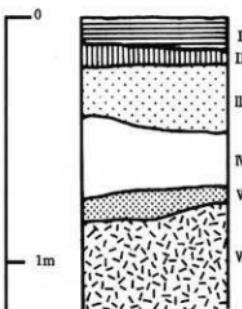
第II層 暗褐色土（層厚：5～10cm） I層との漸移層的層相を示す。縄文時代の遺物を含む。

第III層 黄褐色砂質土（層厚：20～30cm） ローム質で火山灰と思われるが、砂礫の混入が多く、再堆積層であろう。当層が、最終遺構検出面である。

第IV層 明黄褐色砂質土（層厚：25～35cm） III層とほぼ同じだが、石英安山岩の礫を多數含む。

第V層 褐色粘土（層厚：5～10cm） ローム質で火山灰と思われるが、詳細は不明である。

第VI層 褐色～明褐色砂質土（層厚：40cm以上） 崖錐性堆積物。石英安山岩の大きな礫を含む。含まれる礫は風化が進んでいて脆い。



第4図 基本土層柱状図

2. 周辺の遺跡

平成11年度の岩手県教育委員会のまとめでは、胆沢町内には171ヶ所の遺跡が登録されている。第5図には周辺区域における遺跡（表1）の分布を示した。ここでは近年調査された遺跡を中心に、町内の遺跡を概観してみたい。

旧石器時代の遺跡としては上萩森遺跡があり、昭和50年～52年に3次にわたって発掘調査が行われた。調査の結果2面の文化層が確認され、ナイフ形石器、彫器、スクレイパー等の石器が出土している。いずれも後期旧石器時代にあたり、下部のII b文化層は前半期～中葉期に位置づけられている。この他に山神遺跡から石刃、上佐布遺跡から尖頭器が発見されている。

縄文時代の遺跡は多く、全体の8割を占め、沖積面を除く各段丘に分布する。草創期に位置づけられる遺跡は確認されていないが、下尻前IV遺跡から小瀬ヶ沢型に類似する有舌尖頭器2点が出土している。

早期の遺跡は比較的多く、相当数の遺跡から上器破片が発見されている。調査された遺跡では尼坂遺跡があり、貝殻沈線文、貝殻条痕文、縄文条痕文、縄文縄文期の各住居跡が検出されている。

前期の土器も広範囲に分布している。芦の隨遺跡では前葉期の住居跡群、大清水上遺跡では末葉期（大木6式）の大型住居跡を含む住居跡群が検出されており、集落跡であることが確認された。また、浅野遺跡からも末葉期の住居が検出されている。

中期の遺跡では宮沢原遺跡群があり、前葉～末葉（大木7a～10式）にわたる住居跡が多数検出されている。このうち、宮沢原A・E・E東遺跡における大木9～10式期の住居跡では、「上原型複式炉」と呼ばれる土器埋設石圓部と石敷き石組部からなる複式炉をもつものが多く、注目に値する。



第5図 周辺の遺跡分布図

後期になると扇状地地帯では、早～中期より下位の段丘面に分布する傾向が窺われるが、遺構を確認している遺跡は少なく、わずかに宮沢原D遺跡から初頭期（門前式期）の可能性がある立石を伴う土坑が検出されているだけである。なお、同C遺跡からは、門前式期の人面付き土器が発見されている。また、当遺跡A地区および下原前II遺跡からは、後期前葉～中葉期に位置づけられる可能性をもつ住居跡と土坑が検出されている。

晩期の遺跡も後期と同様な分布域を示すようであるが、詳細が不明なものが多い。隣接する水沢市、前沢町の低位段丘縁辺部には、根岸遺跡・杉の堂遺跡・川岸場遺跡等があり、より河浜に寄った立地が窺われる。町内では、後葉期（大洞A式）の墓壙と火葬跡が検出されている南中沢遺跡がある。

弥生時代前期～後期の遺物は町内各地から出土しているが、量的には少なく遺跡の調査例も無い。しかし、昭和52年に大清水下遺跡から県内で初めて石包丁2個が発見され、当地方において稻作が確実に行なわれていたことが実証された。

古墳時代には、県内で最大最古の古墳であると共に、埴輪を伴う国内最北端の前方後円墳である角塚古墳があり、国の指定遺跡となっている。造営年代としては5世紀末～6世紀初頭が考えられており、北方約2kmに立地する中半入遺跡では、これとほぼ同時期の方形に区画された濠をもつ集落跡や水田遺構が確認され、角塚古墳との関連も考えられる。この中半入遺跡の住居跡からは最初期の須恵器・甌が出土している。

奈良・平安時代の当地域は、律令制古代国家と在地勢力である「蝦夷」との間に繰り広げられる「蝦夷征伐」と「反抗」の表舞台となり、「胆沢城」をはじめとして「胆沢」の名称はしばしば文献上に登場する。町内での該期遺跡の調査例は少ないが、扇状地地帯には多くの遺跡が登録されている。8世紀代の遺跡としては、沢田遺跡・要害遺跡等、9世紀以降の遺跡としては同沢田遺跡・宇南田遺跡・小十文字遺跡等から住居跡が検出されている。

中世・近世の城館跡は9箇所が登録されている。このうち柏山氏の家臣高橋盛富の居館との伝承がある鹿合館は、本丸（主郭部）と物見台（出郭部）から構成される典型的な山城である。調査により主郭部から空堀、土塁、掘立柱建物跡等の遺構が検出され、小札、鐵等の鉄製品や陶磁器類が出土している。

（参考・引用文献）

- (1) 中川久夫ほか (1963b) ; 「北上川中流域の第四系および地形～北上川流域の第四紀地史(2)」
『地質学雑誌』第95巻第811号
- (2) 斎藤寧治 (1978) ; 「岩手県胆沢川流域における段丘形成」、『地理学評論』, 51, p.852～863.
- (3) 大上和良・吉田充 (1984) ; 「北上川、胆沢扇状地における火山灰層序」。
『岩手大学工学部研究報告』, 37, p.69～81.
- (4) 渡辺廣久 (1991) ; 「北上低地帯における河成段丘面の編年及び後期更新世における岩屑供給」,
『第四紀研究』, 30, (1).
- (5) 中川久夫 (1981) ; 「第四系」、『北上川流域地質図(二十万分之一) 説明書』、株長谷地質事務所。
- (6) 建設省 (1990) ; 「ダムサイトの地形と地質」、『胆沢ダム』、胆沢ダム工事事務所。
- (7) 岩手県教育委員会 (1999) ; 「岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧」。
- (8) 胆沢町 (1981) ; 「原始古代編」、『胆沢町史』1。
- (9) 胆沢町教育委員会 (1992) ; 「尼坂遺跡 第二次緊急発掘調査報告書」。
- (10) 胆沢町教育委員会 (1990) ; 「鹿合館跡 調査報告書」。

表1 周辺の遺跡一覧

No	遺跡名	種別	時代・備考	No	遺跡名	種別	時代・備考
1	大平野I	散布地	縄文土器	28	人清水	散布地	縄文土器(早・前・後・晚期)石 槍 柄 他
2	平視原I	散布地	縄文土器	29	林尻	散布地	縄文土器
3	平視原II	散布地	縄文土器	30	三本柳	散布地	縄文土器(後・晚期)上柄
4	坪瀬I	散布地	縄文土器	31	横沢原II	散布地	縄文土器
5	坪瀬II	散布地	縄文土器(中期)	32	横沢原III	散布地	縄文土器
6	坪瀬III	散布地	縄文土器	33	横沢原IV	散布地	縄文土器
7	下嵐江I	散布地	縄文土器	34	高沢原II	散布地	縄文土器
8	下嵐江II	散布地	縄文土器	35	萱刈塚II	散布地	縄文土器
9	下嵐江III	散布地	縄文土器	36	萩袋	散布地	縄文土器(後期)土偶 土師器 弥生土器 石匙 石鐵
10	谷子沢	散布地	縄文土器	37	上愛宕原	散布地	縄文土器(後期)土偶 土師器 弥生土器 石匙 石鐵
11	綿谷	散布地	縄文土器 石器	38	鳴合館(山居館)	城館跡	中世末期 空堀 振立柱建物跡 小札 刃器 石匙 石鐵
12	原前I	散布地	縄文土器	39	南中沢	散布地	縄文土器(後・晚期)石匙 石鐵 石斧 石神一部調査
13	原前II	集落跡	縄文土器(早・前・後・晚期)石 器生居跡坑 報告書跡	40	上鹿合	集落跡	縄文土器 石器
14	下原前I	集落跡	縄文:住居跡(中・後期)土坑 上湖(早~晚期)石器弥生:土 器 中・近世 下原前II IIIを統合 H5~7調査	41	岳山	散布地	縄文/古代 縄文土器(後・晚期) 上解器
15	下原前II	散布地	縄文:土器(早・前期)有舌尖頭 器 弥生:土器アメリカ式石鍬 下原前IVを改名 H8調査	42	上横沢原	散布地	縄文土器(後・晚期)土偶
16	穴山塚跡	用水塚跡	江戸末期~石横 水門 水門通 木板 H10調査	43	上萩森	散布地	財石器 ナイフ形石器スクレー バー石板一部調査
17	馬宿	散布地	縄文土器	44	松山寺	寺院跡	中世 石垣
18	市野々	散布地	縄文土器 須恵器	45	小谷館	城館跡	中世
19	なめだけI	散布地	縄文土器	46	萩森北	散布地	縄文土器(前・中期)石斧 鋒具
20	なめだけII	散布地	縄文土器	47	前秋森	散布地	縄文土器(前・中期)石斧 鋒具
21	なめだけIII	散布地	縄文土器	48	大平	散布地	縄文土器
22	體寺	散布地	縄文土器	49	中山	散布地	縄文土器(中・晚期)
23	大清水上	散布地	縄文土器(早・前・後・晚期)石 槍 柄 一部調査	50	下鹿合東	散布地	縄文土器(晚期)
24	大清水上II	散布地	縄文土器	51	下鹿合東II	散布地	縄文土器(晚期)
25	猪の鼻館	(柴の基館)	近世 二郭空堀 土塁	52	かどつしょ	散布地	縄文/古代 縄文土器 土師器
26	宮坂	散布地	縄文土器(後期)石鐵	53	門ヶ城	城館跡	中世 三郭
27	横沢原	散布地	縄文土器	54	萱刈塚	散布地	縄文土器(晚期)石匙 石斧 石 鐵 石槍 石劍
				55	宮沢原成沢	散布地	縄文土器(前・中期)石匙 石斧

III. 調査の方法と室内整理

1. 調査の方法

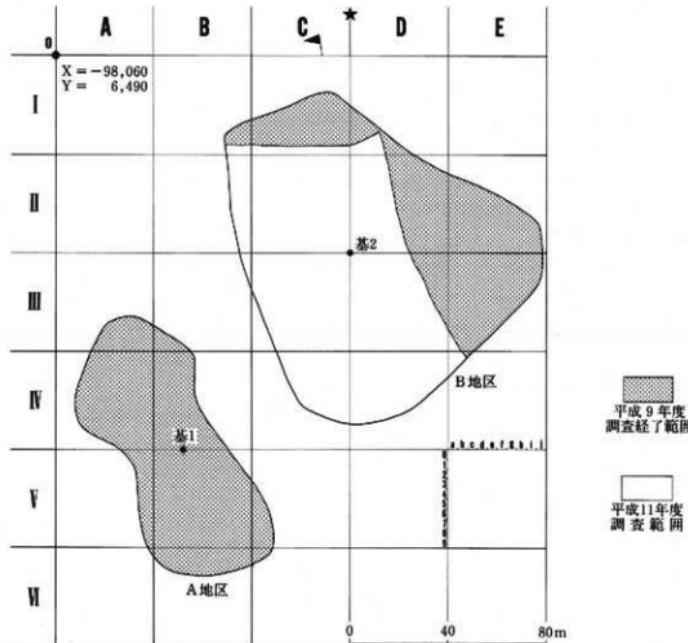
(1) グリッドの設定と遺構名

グリッドは平面直角座標系(第X系)に合わせA・B地区同時に設定した。調査区の北西に起点O(X = 98,060, Y = 6,490)を設け、Oから南東方向に40×40mのメッシュで調査区全体を大きく区割した。この大区画には、起点Oから南にI・II・III…の番号、東にA・B・C…のアルファベットを付してIA・II Aと呼称した。さらに大区画を10等分して4×4mに小区画し、北から0～9、西からa～jを付してIA 1 a・II B 3 e等の小グリッドを設定した。調査区内には、小グリッドに沿った地点に基1(X = -98,220, Y = 6,542)、基2(X = -98,140, Y = 6,610)と補1～補8を設置して、区割り及び実測の基準点とした。(第6図)

遺構名は、検出された順に小グリッド名を付し、同一グリッド内に同様な遺構が複数ある場合は①、②をつけて、IA 2 b住居跡、II B 3 c①土坑等と呼称した。遺構が複数のグリッドにかかる場合は、より若い区画名を取つたが厳密なものではない。

(2) 粗錆と検出・遺構の精査と遺物の取り上げ

平成9年度の遺跡調査の際、遺構検出面までの深さおよび層序の確認のため、調査区全体に幅約2mのト



第6図 グリッド配置図

レンチを設定している。その結果、表土より下の層には縄文時代の遺物が包含されていることが確認され、表土のみ重機（パワーショベル）を使用して除去を行なった。

今回の調査は、この表土除去後からの行程となり、すべて人力によって遺構の有無を確認しながら掘り下げ、検出を行なった。検出された遺構は住居跡は4分法、土坑類は2分法を原則として精査を行なつたが、必要に応じてその他の方法も併用した。精査の各段階において図面の作成や写真撮影を適宜行なった。

遺構内出土遺物は、埋土では層位に分けて取り上げ、床面や底面出土の遺物は、必要に応じて写真撮影、図面作成の後に取り上げた。遺構外出土遺物については、グリッド毎に出土した層位を記して取り上げた。

(3) 実測と写真撮影

遺構の平面実測にあたっては、トータル・ステーションを用い基準点を設定する簡易的な遺り方測量を行なった。実測図は平面図・断面図とも1/20縮尺での作成を原則としたが、住居内の炉の断面や焼土遺構・配石遺構は1/10の縮尺で図面を作成した。

写真撮影は6×7cm判カメラ（モノクロ）をメインとし、これに35mm判カメラ2台（モノクロ・カラーリバーサル）を補助カメラ、ボラロイドカメラ1台をメモ的な用途として使用した。また、調査終了前に小型飛行機による空中写真（6×7cm判モノクロ・カラー）の撮影を行なった。

2. 室内整理

室内での作業は、野外調査で作成した遺構図面の点検と補正およびトレース、遺物の接合・復原・仕分けなどを行ない、次に実測・計量・拓本・写真撮影・トレースを並行して進め、図版を作成した。個々の整理方法および縮尺は次のとおりである。

(1) 遺構

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基に1/200の縮尺図を作成し、仕上がり1/600で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。住居跡の平・断面図…1/50、炉の断面図…1/25、土坑の平・断面図…1/50、焼土遺構・配石遺構の平・断面図…1/25。なお、平面図における北印は座標北を示す（基1における真北方向角は0°02'52"西偏する）。

(2) 遺物

土器の実測は原則として、反転実測が可能なものの（口縁部・底部が1/4以上残存するもの）に限つたが、器面に凹凸が著しく、拓本では表現出来ないものや、大型の破片については平面実測して掲載した。また、地紋のみが施されているものや、文様が単純なものは、中軸線の左側1/2のみを図化した。掲載遺物の縮尺率は次のとおりであるが、遺物によつてはこの限りではない。土器の実測図・拓本…1/3、剥片石器・石製品…1/2、磨製石斧・砾石器…1/3、大型の土器…1/5。

遺物写真的縮尺については、ほぼ実測図に準じている。また、実測図中の遺構・遺物の表現や、使用した記号・スクリーントーンについては、凡例を第7図に示した。



第7図 実測図凡例

IV. 検出された遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡8棟、焼土遺構2基、土器埋設遺構1基、土坑23基、溝跡3条、段状遺構1基である。竪穴住居跡、焼土遺構、土器埋設遺構、調査区南端の、D 1 b①・②土坑を除くその他の土坑は、検出面及び出土土器から縄文時代の遺構である。その他の土坑と溝跡、段状遺構については、時期を決定づける遺物の出土はない。

遺物は、全部で大コンテナ10箱で、その内土器は縄文時代の土器を中心で9箱、石器が1箱である。石器の主なものとしては、石鏡、石匙、箋状石器、磨製石斧、磨石類である。そのほかに、古鏡が5枚出土している。

1. 竪穴住居跡

II C 1 e 住居跡

遺構（第8図・写真図版3）

〈検出状況・重複関係〉調査区北端、標高347m付近に位置する。II C 2 e ①・②土坑の精査中に床面を検出した。土坑と重複するが、本住居跡の方が古い。

〈規模・平面形〉東西23m、南北31mのいびつな隅丸方形を呈する。

〈埋土〉炭化できなかつたが、炭化物を含む黄褐色・褐色土であった。

〈壁・床面〉壁は緩く外傾し、北壁の壁高は30~40cm位である。南壁から東壁にかけてはII C 2 e ①・②土坑に切られている。床面北西隅に20×4×26cmの角砾が立ててある。

〈柱穴〉検出されなかつた。

〈炉〉床面中央付近まで土坑によって切られているので、不明である。

遺物（第18図 1）

〈出土状況〉埋土中から土器数点が出土している。石器の出土はない。

〈土器〉Iは深鉢の口縁部で、単節の原体を横に回転している。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

III C 4 f 住居跡

遺構（第8図・写真図版4）

〈検出状況・重複関係〉調査区北側標高345m付近で風倒木の黒褐色土を除去中、炉の焼土を検出した。当初、重複関係にあるII C 4 f 土坑中の投げ込みの焼土と誤認して、先に土坑を精査してしまつたが、その後焼土が土坑外にも続くことが確認され、本住居は土坑埋没後に構築されたことがわかつた。東側と南側は風倒木によって攪乱を受けている。

〈規模・平面形〉検出されたのが、炉と柱穴のみであるので、規模や平面形については不明である。炉と柱穴との距離が2m前後あるので、規模は約4m程度と推定される。

〈壁・床面〉壁は検出できなかつた。床面は柱穴が検出された面よりも、焼土が検出された地点が低くなる浅い窪み状をなしている。

〈柱穴〉3基検出した。規模は、径が60cm、深さが50~60cmである。いずれも炉と見なした焼土の北西側に位置している。東側と南側は風倒木によって破壊されたものと思われる。

〈炉〉 地床炉で、焼土の範囲は96×30cm、厚さ15cmのひょうたんのような形をしている。東側が、検出面より高くなっているのは、風倒木によって盛り上げられたためと思われる。

遺物（第18図 2～5）

〈出土状況〉 土器4点がいずれも柱穴P1・2から出土している。

〈土器〉 2、3は深鉢で沈線を主体とする文様をしている。2は波状口縁の波頂部にC字文、頸部は崩消、肩部には横長の梢円形文、その文様の間には1ないし2個の刺突がある。頸部には、下部が開いた沈線区画に磨消を行っている。3も頸部下半のみだが、縱長の沈線によって施文される。4は頸部に速鎖状隆帯がある。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

II C 8 j 住居跡

遺構（第8図・写真図版5）

〈検出状況・重複関係〉 調査区中央標高341m付近で、黒褐色土の広がりで検出した。重複関係はないが、南側に位置するII C 9 j 住居との距離は、14mと近接している。

〈規模・平面形〉 23×20mの円形に近い梢円形を呈する。北西に張り出しがあるが住居に伴うものか不明である。

〈埋土〉 燃土や炭化物を含む黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土の3層からなる。

〈壁・床面〉 壁は僅かに外傾する。床面は斜面下方に向かって僅かに傾き、締まりがある。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈炉〉 地床炉と思われる焼土が、床面南西寄りから検出された。焼土形成後に設置された砾のため切られているが残存する部分では、厚さ5cm、30×30cmの範囲を持つ。焼土の南西側に、32×20×10cmの円礫が側面を上下になるように立ててある。設置されたのは、焼土形成後である。

遺物（第18図 6・7）

〈出土状況〉 埋土中から土器1点と円盤状土製品1点、剝片1点が出土している。剝片には使用痕が認められなかつたので図化及び記述は省略した。

〈土器〉 6は頸部破片で、3状の平行沈線で倒卵状のモチーフの中に渦巻文を施文するものと見られる。7は径が50×45cm、厚さ7mm、重量203gの円盤状土製品である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

II C 9 e 住居跡

遺構（第8図・写真図版6）

〈検出状況・重複関係〉 調査区中央標高343m付近で、炭化物・焼土を含む黒褐色土、暗褐色土の広がりとして検出した。重複関係はないが、南側に隣接するIII C 0 e 住居とは、25mしか離れていない。

〈規模・平面形〉 斜面下方にあたる南壁は残存していないが、東西22m、南北2mの隅丸方形に近い梢円形を呈すると見られる。

〈埋土〉 炭化物・焼土・褐色土の混在する黒褐色土、暗褐色土からなり、人為的に埋め戻されたような堆積状況である。床面から炭化物が検出できなかつたが、焼失住居の可能性がある。

〈壁・床面〉 壁は緩く外傾する。床面は、斜面下方に僅かに傾斜し、比較的締まりがある。

〈柱穴〉検出されなかつた。

〈炉〉床面中央東寄りで、 $24 \times 10 \times 27\text{cm}$ の扁平な円礫の立石を検出した。床面中央側に僅かに傾いている。石囲炉として精査を進めたが、その他の石の抜き取り痕や焼土は検出されなかつた。炉とは別な意味を持つ遺構と考えられる。

遺物（第18図 8～10）

〈出土状況〉埋土中から3点の土器が出土した。

〈土器〉8・9は頸部で陸帯か沈線で文様帯を区画し、口縁部は磨消され無文になる。いずれも口唇から刻みのある陸線が懸垂する。腹部の文様は沈線文が主体となる。10は波状口縁をなす深鉢である。波頂部から下がる陸帯が口縁を巡る。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

II C 9 j 住居跡

遺構（第9図・写真図版7）

〈検出状況・重複関係〉調査区中央標高401m付近で、黒褐色土の広がりとして検出した。北西壁側で、II C 9 j 土坑と重複する。また、本住居の北側に位置するII C 8 j 住とは、14mしか離れていない。

〈規模・平面形〉長径3.7m、短径3.2mの不整な橢円形を呈する。

〈埋土〉上から微量の炭化物を含む黒色土、暗褐色土と斜面上方側に埋積した炭化物を含む褐色土で構成される。褐色土と暗褐色土の間に焼土のブロックを含む。

〈壁・床面〉北壁は直立するように立ち上がるが、その他の壁は緩く外傾する。床面は継まりがあり、中央付近が周辺より6～12cmほど低くなり深んでいる。床面には、径が20～50cm位の亜角礫が数個散在している。また、南西壁の埋土上部から、コの字状の配石を検出した。住居に伴うものは確認できなかつた。

〈柱穴〉P 1～P 8の8本を検出した。P 2、P 3、P 6は深さや形状から柱穴にしてもよいと見られるが、配置等は不明である。

〈炉〉床面中央西寄りの位置に、焼土を検出した。規模は $30 \times 30\text{cm}$ の範囲で、厚さは11cmである。あまり焼成が良くない。

遺物（第18・19図 11～19）

〈出土状況〉埋土中から土器8点、石器1点および剝片8点が出土している。剝片は図化・記述を省略した。

〈土器〉11・12はいずれも波状口縁をなす地文のみの深鉢で、13も含めて上部は縄文原体を横回転させたのち継回転して羽状縄文のようをしている。14は沈線文、15～18は地文のみの深鉢である。

〈石器〉19は微少剥離痕を有する剝片石器で、内湾した刃部の両端には付着物が見られる。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

III C 0 e 住居跡

遺構（第9図・写真図版8）

〈検出状況・重複関係〉調査区中央やや西寄り標高342m付近で、遺構検出作業中石囲炉を検出した。他の遺構との重複はないが、II C 9 e 住居とは25mの距離にある。

〈規模・平面形〉石囲炉より北側のみの検出であるので、正確な規模・平面形は不明だが、検出された部分

から推測すると、長径が4m弱、短径が3mの楕円形を呈すると見られる。

〈埋土〉 多量の炭化物や焼土を含む黒褐色土、暗褐色土で構成される。特に北壁よりの3層には焼土のプロックや炭化材が多いので、焼失住居の可能性がある。また、北壁に近い2層中から、長径が10~50cmの円窓がまとめて検出された。本住居が焼失したか廃棄した後に、入り込んだものと思われるが元々住居の周囲にあったものと思われる。

〈壁・床面〉 住居の北西側のみの検出であるが、壁は緩く外傾し、床は平坦で綺麗である。炉より南東側は削平を受けている。

〈柱穴〉 P 1~11の11本が検出しているが、配置、深さ、形状からP 1、P 2、P 3、P 7、P 8、P 9の6本が主柱穴と見られる。比較的壁に近い位置に構築されている。また、P 6、P 10、P 11は立て替え以前の柱穴の可能性がある。

〈炉〉 柱穴の位置が住居の壁と接しているのであれば、炉は床面中央よりやや南西に寄っている。規模は、東西64cm、南北60cmのほぼ円形に近い楕円形を呈し、焼土は最大で厚さ5cmであるが、あまり焼成は良くない。長径が10~30cmの11個の円窓によって構築されており、南西側に隙間があるが、抜き取り痕はなかった。

遺物（第19図 20~23）

〈出土状況〉 墓七、床面、柱穴から土器3点、石器1点、剝片5点が出土した。

〈土器〉 20は小型の壺で床面直上から出土した、頸部と胸部には縦に貫通孔のある突起が2対ついている。

〈石器〉 23は削れた円礫で、側面には敲打による壊滅痕、表面には摩擦痕がある。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

II C 3 d 住居跡

遺構（第10図・写真図版9）

〈検出状況・重複関係〉 調査区中央西寄りの標高339m付近で、炉の焼土を検出した。南側は風倒木によつて擾乱を受けている。他の遺構との重複はない。

〈規模・平面形〉 北側のみの検出であるが、長径が2.6m程度の円形か楕円形を呈するものと思われる。

〈埋土〉 炭化物を含む黒褐色土、暗褐色土で構成される。

〈壁・床面〉 検出された北壁は、内湾気味に立ち上がる。床面は、斜面下方に向かつて傾斜する。また、床面北西隅から、8×6×10cmの円窓の立石を検出した。

〈柱穴〉 検出されなかつた。

〈炉〉 床面ほぼ中央と見られる位置から、焼土を検出した。68×34cmの不整な楕円形に広がり、厚さは5cm程度で、あまり焼成は良くない。焼土の南側に、表面が焼成を受けた長さ40cmの円窓があるが、これは自然に埋まっていた石を台石等に利用したものであろう。

遺物（第19図 24）

〈出土状況〉 墓土中から土器1点、剝片4点が出土しているが、剝片については使用痕が認められないで、図化および記述は省略した。

〈土器〉 24は地文のみの深鉢の破片である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

III C 3 g 住居跡

遺構（第10図・写真図版10）

〈検出状況・重複関係〉調査区中央標高339m付近で、黒色土、黒褐色土の広がりとして検出した。III C 4 g 土坑と重複するが、本住居の方が古い。本遺跡で最大の住居で、これより南側（斜面下方）には住居は検出されなかつた。

〈規模・平面形〉東壁と南壁に張り出しがあるが、長径が5.3m、短径が3.6mの不整な長楕円形を呈する。
〈埋土〉主に黒色土、黒褐色土の2層で構成され、北壁及び西壁寄りには、炭化物を含む褐色土が堆積している。いずれの埋土にも遺物が大量に含まれている。住居の中央付近の埋土2層には、多量の焼土ブロックが含まれている。

〈壁・床面〉壁は緩く外傾し、床面は綺まりがあり、斜面下方に向かって僅かに傾斜する。

〈柱穴〉17本検出した。それぞれの柱穴の位置や重複するものの新旧関係から、P 1、3、4、6、8、9、10、13とP 14、15、5、7、8、9、11、12の2通りの柱穴配置が考えられ、いずれも8本柱で構成されている。内側に位置するP 15の上部が焼成を受けているので、本住居は抵強されていることがわかる。

また、南西壁際と床面中央より東寄りの位置で、径10~56cmの円礫数個を検出した。

〈炉〉床面中央から地床炉と見られる焼土を検出した。規模は250×70cmの範囲の長楕円形に広がり、厚さは最大で10cmである。床面よりも約3~5cm高い位置で検出した。

遺物（第19~21図 25~52）

〈出土状況〉埋土中、床面、柱穴から土器20点、石器8点、剝片14点が出土している。

〈土器〉26~31は1ないし2個の大きめの刺突と沈線文が主体の土器で、32~36は沈線文のみの土器である。25、37は波状口縁を呈する地文のみの深鉢、40、41は頭部に大きめの隆帯が巡る壺型の土器である。42は深鉢の脚部であるが、沈線でJ字状のモチーフを描きその内部を磨り消している。
〈石器〉45は簋状石器で、粗い調整で刃部を形成している。46は小さめの縱型剥片の端部に片面から調整を加えたものである。47は磨製石斧の刃部付近の破損したもので、48~51は磨石類に分類される礫石器である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期前葉期の遺構の可能性が高い。

2. 焼土遺構

II C 4 a 焼土遺構（第11図・写真図版16）

調査区北西側寄りの標高345m付近のII層遺構検出作業中に検出した。86×60cmの不整楕円形の範囲を持ち、最大12cmの厚さを持つ現地性の焼土である。焼成はあまり良くない。焼土の北側20cmに20×15×10cmの亜角礫がある。住居の炉の可能性があるので周辺の検出を進めたが、柱穴は検出されなかつた。

II C 7 e 焼土遺構（第11図・写真図版16）

調査区中央の北西寄りの標高344m付近のII層遺構検出作業中に検出した。112×64cmの不整楕円形の範囲を持ち、最大10cmの厚さを持つ現地性の焼土である。周辺をIII層まで掘り下げたが柱穴は検出されなかつた。

3. 土器埋設遺構

III C 4 f 土器埋設遺構（第11図・写真図版16）

調査区中央やや西寄りの標高339m付近のII層遺構検出作業中に、土器を検出した。また、土器に接し、北

東側に広がる焼土も同時に検出した。焼土は、 $130 \times 100\text{cm}$ の不整の三角形をし、最大6cmの厚さを持つ。土器に近い部分の焼土は、表面を僅かに削ったところ無くなるくらいあまり焼成は良くない。土器から東南東80cmにフ拉斯コ形のIII C 4 f 土坑がある。また、周囲をIII層まで掘り下げたが、柱穴は検出されなかつた。

遺物（第21図 53）

〈出土状況〉 埋設されていた土器である。検出された時点では底部付近のみの出土であったが、周辺から出土の脚部と接合した。

〈土器〉 53は底部に網代瓶を持つ深鉢である。焼成を受けている。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期の遺構の可能性が高い。

4. 土坑

IC 9 a 土坑（第11図・写真図版II）

遺構 調査区北端西寄りの標高349m付近に位置する。III層上面で検出した。平面形は開口部径 $48 \times 42\text{cm}$ 、底部径 $42 \times 38\text{cm}$ の不整の楕円形を呈する。断面形は圓化しなかつたが、深さ46cmのビーカー状をしている。埋土は、主に黒褐色土、暗褐色土で、土坑内からの出土遺物はないが、埋土や検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 0 e 土坑（第11図・写真図版II）

遺構 調査区北端、標高348m付近のIII層上面で検出した。平面形は開口部径 $80 \times 74\text{cm}$ 、底部径 $58 \times 56\text{cm}$ の楕円形を呈し。断面形は、深さ72cmのビーカー状をしている。埋土は、主に黒色土、黒褐色土、暗褐色土で構成され、底面や壁面近くには濁りのある黄褐色土が堆積している。出土遺物はないが、埋土や検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 0 h 土坑（第11図・写真図版II）

遺構 調査区北端の東寄り、標高347m付近のIII層上面で検出した。平面形は開口部径 $62 \times 50\text{cm}$ 、底部径 $53 \times 52\text{cm}$ の円形に近い楕円形を呈する。断面形は、深さ48cmの袋状をしている。埋土は、上から黒色土、暗褐色土、底面近くは灰黃褐色土が堆積している。出土遺物はないが、埋土や検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 0 j 土坑（第11図・写真図版II）

遺構 調査区北端の東寄り、標高347m付近のIII層上面で検出した。平面形は開口部径 $134 \times 122\text{cm}$ 、底部径 $95 \times 68\text{cm}$ の不整の楕円形を呈する。断面形は、深さ60cmの逆台形状をしている。埋土は、上から黒色土、暗褐色土で構成されている。出土遺物はないが、埋土や検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 2 e ① 土坑（第11図・写真図版II）

遺構 調査区北端寄りの標高347m付近で、黒色土の広がりを精査中に検出した。II C 1 e 住居跡とII C 2 e ② 土坑と重複する。本土坑が最も新しく、住居跡、②土坑を切っている。平面形は、検出時の開口部径 $97 \times 80\text{cm}$ 、底部径 $57 \times 48\text{cm}$ の楕円形を呈する。断面形は、深さ58cmの逆台形状をしている。埋土は、土坑として確認した後に圓化したため、底面付近しかないが、上部は、黒色土、黒褐色土で構成される。下部には炭

化物を含む黄褐色土が混じる。出土した土器から、縄文時代後期の遺構と考えられる。

遺物（第21図 54・55）

〈出土状況〉 埋土中から土器2点、剝片1点が出土している。剝片には使用痕跡が認められないので図化・記述は省略した。

〈土器〉 54、55とも地文のみの上器で、いずれもL.Rの原体を横回転した後縦回転し、羽状縄文のように施文している。同一個体の可能性がある。

II C 2 e②土坑（第11図・写真図版12）

遺構 調査区北寄りの標高347m付近で、黒色土の広がりを精査中に検出した。II C 1 e住居跡とII C 2 e②土坑と重複する。本土坑は、住居跡を切って構築され、②土坑に切られている。平面形は、北西側を土坑によって切られているが、開口部径142×145cm以上、底部径60×62cm以上の梢円形を呈すると思われる。断面形は、壁が緩く外傾する深さ38cmの逆台形状をしている。埋土は、主に黒色土、黒褐色土で構成されが、黒褐色土中に投げ込みと思われる焼土が含まれる。底面上で37×22×10cmの焼成を受けた円碟を検出した。出土遺物はないが、重複関係から縄文時代後期の遺構と考えられる。

II C 2 j土坑（第12図・写真図版12）

遺構 調査区北寄りの標高345m付近で、黒褐色土の広がりとして検出した。北側は風倒木によって搅乱を受けている。平面形は、北側が不明だが、短径96cm、長径は確認できた部分で160cmの長梢円形を呈するものと見られ、断面形は、深さ28cmの浅い逆台形状をしている。埋土は、上部が黒褐色土、下部が黒色土の2層からなる。底面はかなり締まりがある。出土遺物はないが、埋土や検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II D 2 a土坑（第12図・写真図版14）

遺構 調査区北東寄りの標高345m付近のⅢ層上面で検出した。平面形は、開口部径76×72cm、底部径60×60cmのほぼ円形を呈し、断面形は、深さ14cmの浅皿状をしている。埋土は、黒褐色土の単層である。出土遺物はないが、埋土や検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 3 e土坑（第12図・写真図版12）

遺構 調査区北寄りの標高346m付近の出土土器の多い風倒木の黒色土を精査中検出した。西側には風倒木がある。平面形は、開口部径156×136cm、頸部径96×83cm、底部径104×98cmの不整な梢円形を呈し、断面形は、深さ62cmのフラスコ状をしている。埋土は、主に黒色土、黒褐色土で構成され、壁際に暗褐色土、褐色土がある。地山に含まれる石英安山岩の30~40cmの円碟が開口部周辺に露出していた。底面直上の出土土器の特徴から縄文時代後期の遺構と考えられる。

遺物（第21図 56~61）

〈出土状況〉 埋土中と底面直上から土器が6点、剝片が7点出土している。剝片には使用痕跡がない。

〈土器〉 56は底面直上で横位の状態で出土した地文のみの深鉢で、底部はなかった。6単位の波状口縁を呈し、地紋の一端は原体を横回転した後、それより下部は縦回転し羽状縄文になるように施文している。57、58は口縁の中空突起である。59、60は波状口縁を持つ土器の波頂部で沈線や隆帶が頭部に巡るものである。

II D 3 d 土坑（第13図・写真図版14）

遺構 調査区北東寄りの標高343m付近で、風倒木の黒褐色土を精査中に検出した。平面形は、開口部径98×80cm、頸部径72×54cm、底部径104×96cmの楕円形を呈する。断面形は、深さ88cmのフラスコ状をしている。埋土は、主に黒褐色土であるが、頸部付近と底面近くには、地山の崩壊土と見られる黄褐色土が堆積している。時代を決定する出土遺物がないが、検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 4 f 土坑（第12図・写真図版13）

遺構 調査区北寄りの標高345m付近で、風倒木の谷褐色土を精査中に検出した。II C 4 f 住居と重複するが、住居の炉焼土が、本土坑の埋土上に形成されているので土坑の方が古い。平面形は開口部径106×86cm、最も広がる部分の径は108×82cm、底部径90×78cmの楕円形を呈する。断面形は、深さ100cmの中央付近が広がる袋状をしている。埋土は、主に焼土や炭化物を含む褐色砂質土で、上部には、II C 4 f 住居の焼土がのり、頸部付近にも、投げ込みとみられる焼土がある。人為的な埋没と見られる。出土土器の特徴から縄文時代後期の遺構の可能性が高い。

遺物（第22図 62～68）

〈出土状況〉 埋土中から上器が3点、磨石類2点、剝片が5点出土している。剝片には黒曜石が1点あり圓化した。

〈土器〉 62は腹部より上の深鉢で、3単位の中空突起を持ち、突起と突起間の刺突から弧状文が下にのびる起点になる部分の沈線間にS字文を施文している。63は沈線文、64は波状口線である。66は比較的大きめの窪みを持つ凹石である。

II D 4 c 土坑（第13図・写真図版14）

遺構 調査区北西寄りの標高343m付近のⅢ層上面で検出した。重複関係はない。平面形は、開口部径76×60cm、底部径は52×48cmの楕円形を呈する。断面形は、深さ36cmの円筒状をしている。埋土は、黒色土とぶい灰黃褐色土からなる。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 5 e 土坑（第12図・写真図版13）

遺構 調査区北寄り標高345m付近のⅢ層上面で、黒褐色土の広がりとして検出した。他の遺構との重複関係はない。平面形は、開口部径102×92cm、底部径68×51cmの楕円形を呈する。断面形は、深さ68cmビーカー状をしている。埋土は、上部が黒褐色土であるが、主に炭化物を含む黄褐色土、褐色土による埋没である。出土遺物から縄文時代の遺構と考えられる。

遺物（第22図 69）

〈出土状況〉 埋土中から土器1点、剝片2点が出土している。剝片には使用痕跡はない。

〈土器〉 69は木葉痕のある深鉢の底部である。

II C 7 e 土坑（第12図・写真図版13）

遺構 調査区中央僅かに北西に寄った標高344mのⅢ層上面で、黒色土の広がりとして検出した。他の遺構との重複はないが、北側1mにII C 7 e 焼土がある。平面形は、開口部径117×94cm、底部径58×50cmの楕円形を呈する。断面形は、深さ53cmのビーカー状をしている。埋土は、主に黒色土、黒褐色土、暗褐色土

で構成される。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 7 g 土坑（第12図・写真図版13）

遺構 調査区中央僅かに北西に寄った標高343mのⅢ層上面で、黒色土の広がりとして検出した。他の遺構との重複はない。平面形は、開口部径70×62cm、底部径28×12cmの梢円形を呈する。断面形は、深さ98cmの円筒状をしている。埋土は、主に黒色土、暗褐色土で構成される。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 8 d 土坑（第12図・写真図版15）

遺構 調査区中央西寄りの標高344mのⅢ層上面で、風倒木の黒色土掘り下げ中に検出した。平面形は木痕の搅乱を受けているが、開口部径68×63cm、底部径34×30cmの梢円形を呈する。断面形は、圓化できなかつたが、深さ33cmの円筒状をしている。埋土は、黒褐色土の単層である。底面に縫まりがある柱穴状の土坑である。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 8 e 土坑（第12図・写真図版14）

遺構 調査区中央西寄りの標高343mのⅢ層上面で、風倒木の黒色土掘り下げ中に検出した。平面形は、開口部径84×78cm、頸部径52×48cm、底部径42×38cmの梢円形を呈する。断面形は、深さ56cmの円筒状をしている。埋土は、黒褐色土で構成されている。底面に縫まりがある柱穴状の土坑である。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

II C 9 j 土坑（第13図・写真図版7）

遺構 調査区中央標高341m付近で、黒褐色土の広がりとして検出された。南側はII C 9 j 住居と重複するが、埋土の状況から本土坑の方が新しい。検出した部分の壁の続き方から、平面形は長径が2m、短径1m以上の梢円形を呈するものと見られる。断面形は、深さ32cmの中央が盛んだ浅皿状をしている。埋土は、黒褐色土の単層である。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

III C 0 j 土坑（第13図・写真図版15）

遺構 調査区中央標高340mで黒褐色土の広がりとして検出した。当初は風倒木として掘り進めたので、断面は圓化していない。他の遺構との重複はないが、II C 9 j 住居の南側23mに位置している。南東壁は削平を受けている。平面形は、開口部径266×160cm、底部径152×117cmの梢円形を呈する。断面形は、深さ15cmの浅皿状をしている。底面は、斜面下方に向かつて傾斜しており、中央に径60×30cm、深さ10cmの梢円形の副穴がある。埋土は、黒褐色土の単層である。出土した土器の特徴から縄文時代後期の遺構と考えられる。

遺物（第22図 70・71）

〈出土状況〉 埋土中から土器1点、不定形石器1点が出土している。

〈土器〉 70は頸部上半の破片である。頸部を巡る沈線から弧状や梢円文が施文されている。71は縦型の剣片に片方から調整を加え刃部を作り出している。

III C 4 f 土坑 (第13図・写真図版15)

遺構 調査区中央標高339m付近で、III C 4 f 土器埋設遺構の周辺のII層掘り下げ中に検出した。重複関係はないが、III C 4 f 土器埋設遺構は西南西80cmに位置する。平面形は、開口部径62×55cm、頸部径56×44cm、底部径62×56cmの橢円形を呈する。断面形は、深さ72cmのプラスコ状をしている。埋土は、上・中部が黒褐色土、底部付近は暗褐色土で構成される。出土した土器の特徴から縄文時代後期の遺構と考えられる。

遺物 (第22図 72・73)

〈出土状況〉 埋土中から土器2点、剝片4点が出土している。剝片には使用痕がない。

〈土器〉 72、73は頸部を巡る弦線から弧状文や橢円文が施文されている。

III C 4 g 土坑 (第13図)

遺構 調査区中央標高339m付近に位置する。III C 3 g 住居精査中、住居の埋土断面で土坑を検出した。住居の西壁に接するように構築されている。住居の埋土を切っているので住居より新しい。西壁以外は住居の埋土除去によって僅かに底部だけである。平面形は、開口部径100×74cm、底部径56×53cmの橢円形を呈する。断面形は、深さ50cmの円筒状をしている。埋土は、黒褐色土と暗褐色土の2層からなる。検出面や埋土の特徴から縄文時代の遺構と考えられる。

III D 1 b ①土坑 (第13図・写真図版15)

遺構 調査区南端標高333m付近で検出した。平面形は、開口部径98×86cm、底部径24×20cmの橢円形を呈する。断面形は、深さ36cmの浅鉢状をしている。埋土は黒褐色土からなるが、底部はかなり締まりがありグライ化している。東に位置する、D 1 b ②土坑とは50cmしか離れていない。断面形や埋土、底面が堅く締まるところから2つの土坑は対になるよう構築された可能性がある。時期不明である。

IV D 1 b ②土坑 (第13図・写真図版15)

遺構 調査区南端標高333m付近で検出した。平面形は、開口部径76×73cm、底部径21×20cmの円形に近い橢円形を呈する。断面形は、深さ28cmの浅鉢状をしている。埋土は暗褐色土からなるが、底部はかなり締まりがありグライ化する。IV D 1 b ①土坑とは、対になる可能性がある。時期不明である。

5. 溝跡

II B 6 1 溝跡 (第14図・写真図版17)

調査区中央を北西—南東に横切る。長さ89m、幅40~140cm、深さ42~146cmである。南東隅で2つに分かれる。元々は、薬研掘りに掘られたようだが、流水のため底面が広くなり、所々に深い穴が見られる。北西隅は沢の方に、南東側は段丘崖下へ延長するようである。本遺跡ののる斜面下には近世以降に集落が形成されているので、水を引くために構築されたものと見られる。

遺物 (第22図 74~76)

〈出土状況〉 埋土中から縄文土器や剝片が出土している。その内3点掲載した。溝跡は新しい遺構なので遺物は周辺から流れ込んだものであろう。

〈土器〉 74は波状口縁を呈し波頂部から頸部を巡る隆帯が懸垂している。75は刺突のある中空突起、76は頸部を巡るものと波頂部から懸垂する連鎖状隆帯が連絡する。口縁部の磨消帶には沈線文が施文される。

III D 5 g 溝跡 (第15図・写真図版18)

調査区南東隅でII B 6 i 溝跡と平行し南東に折れ曲がる。一部試掘溝に切られているが、長さ7.4m、幅30~80cm、深さ3~16cmである。東側は調査区外に延長するようである。埋土の様相から近世以降の遺構と考えられる。

IV C 3 g 溝跡 (第16図・写真図版18)

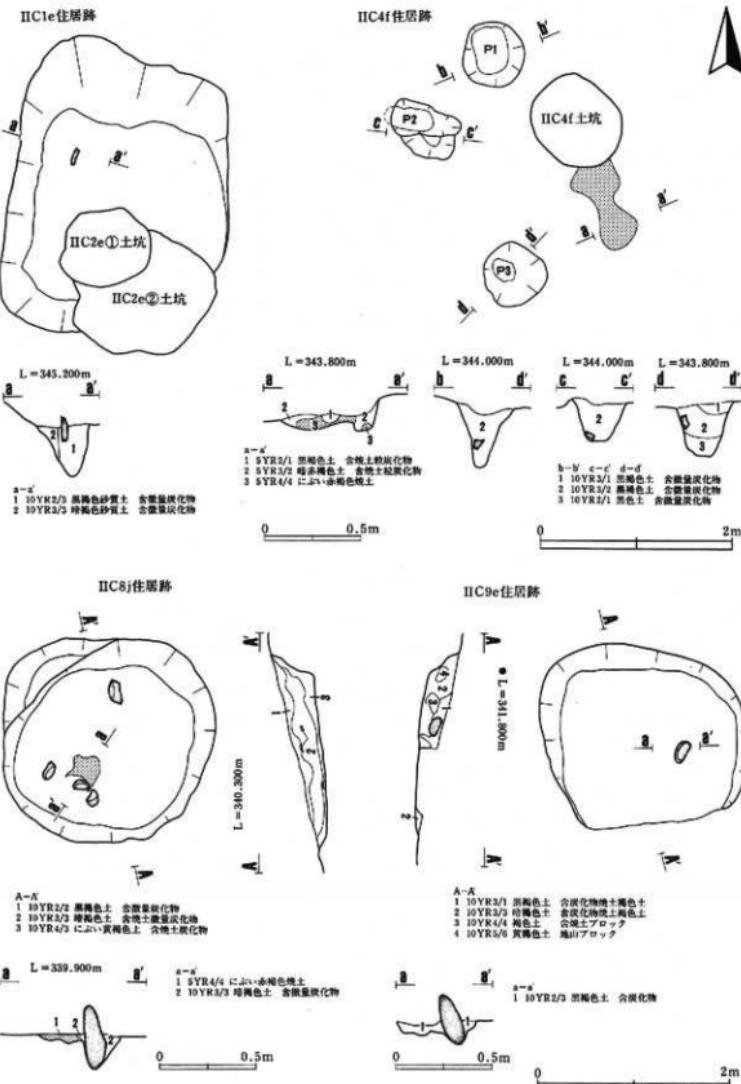
調査区中央西寄りの沢に近い位置から、折れ曲がりながらも南南東に延び、IV C 3 g グリッド付近から東へ折れ曲がりIV D 0 i グリッド付近で途切れる。一部風倒木、試掘溝に切られているが、長さ85.4m、幅は平均して30cm程度で、深さも30cm程度である。東側は調査区外に延長するようである。埋土の様相から近世以降の遺構と考えられる。

6. 段状遺構 (形状から仮に命名した) (第15図・写真図版16)

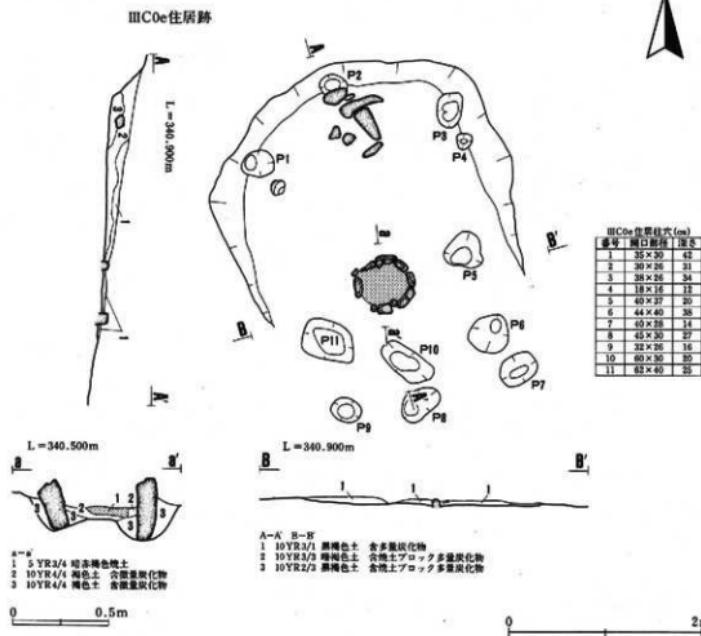
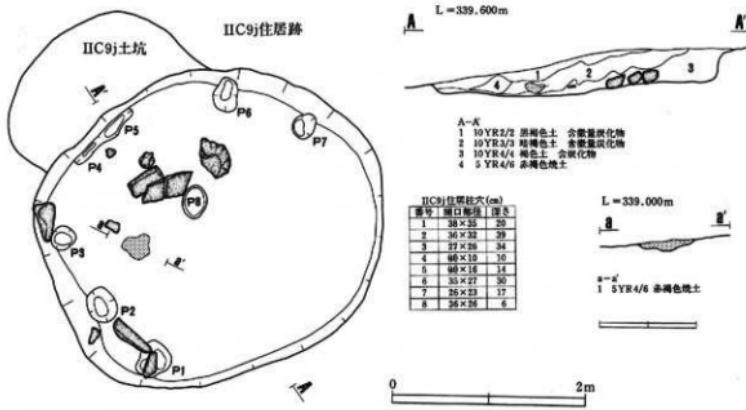
調査区中央東寄り標高338mで検出された。斜面下方に直角に長軸を持ち、長さ5.8m、幅は最大で125cmの僅かに斜面下方に傾斜するが比較的平坦な面である。平坦面はⅢ層を掘り込んで構築され締まりがある。埋土の様相から近世以降の遺構の可能性がある。

表2 遺構一覧表

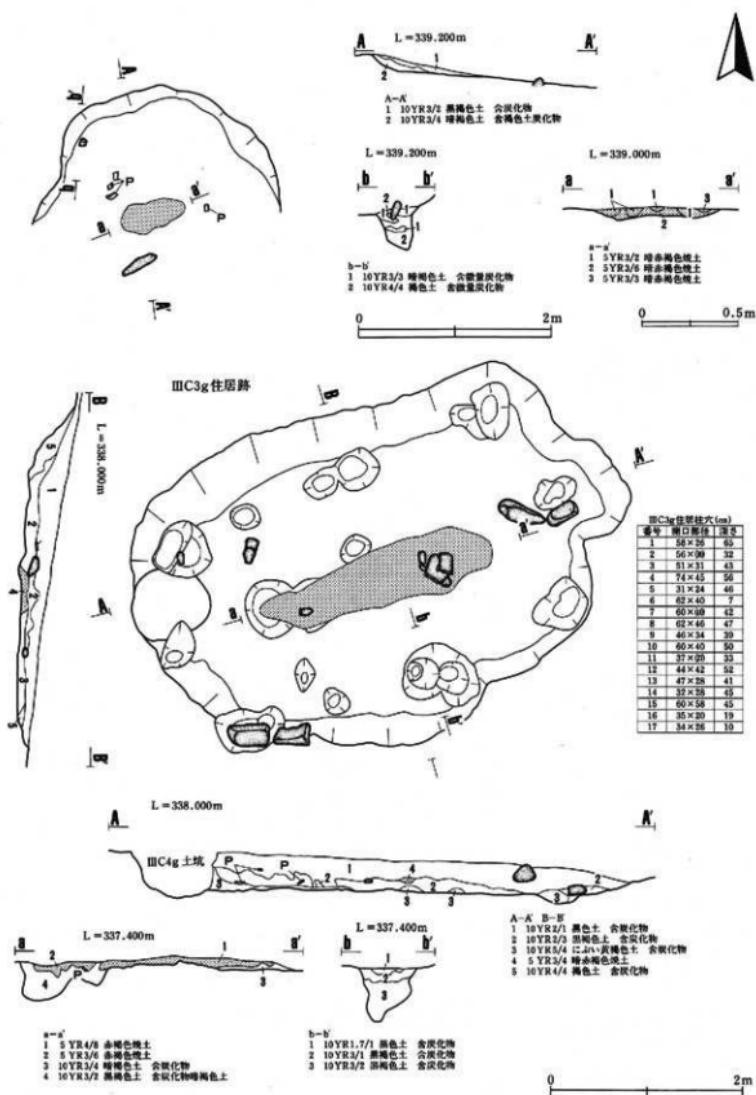
No.	遺構名	No.	遺構名	No.	遺構名
1	II C 1 e 住居跡	14	II C 0 h 土坑	27	II C 8 d 土坑
2	II C 4 f 住居跡	15	II C 0 j 土坑	28	II C 8 e 土坑
3	II C 8 j 住居跡	16	II C 2 e ①土坑	29	II C 9 j 土坑
4	II C 9 e 住居跡	17	II C 2 e ②土坑	30	III C 0 j 土坑
5	II C 9 j 住居跡	18	II C 2 j 土坑	31	III C 4 f 土坑
6	III C 0 e 住居跡	19	II D 2 a 土坑	32	III C 4 g 土坑
7	III C 3 d 住居跡	20	II C 3 e 土坑	33	IV D 1 b ①土坑
8	III C 3 g 住居跡	21	II D 3 d 土坑	34	IV D 1 b ②土坑
9	II C 4 a 焼土	22	II C 4 f 土坑	35	II B 6 i 溝跡
10	II C 7 e 焼土	23	II D 4 c 土坑	36	III D 5 g 溝跡
11	III C 4 f 土器埋設遺構	24	II C 5 e 土坑	37	IV C 3 g 溝跡
12	IC 9 a 土坑	25	II C 7 e 土坑	38	III D 0 e 段状遺構
13	II C 0 e 土坑	26	II C 7 g 土坑		



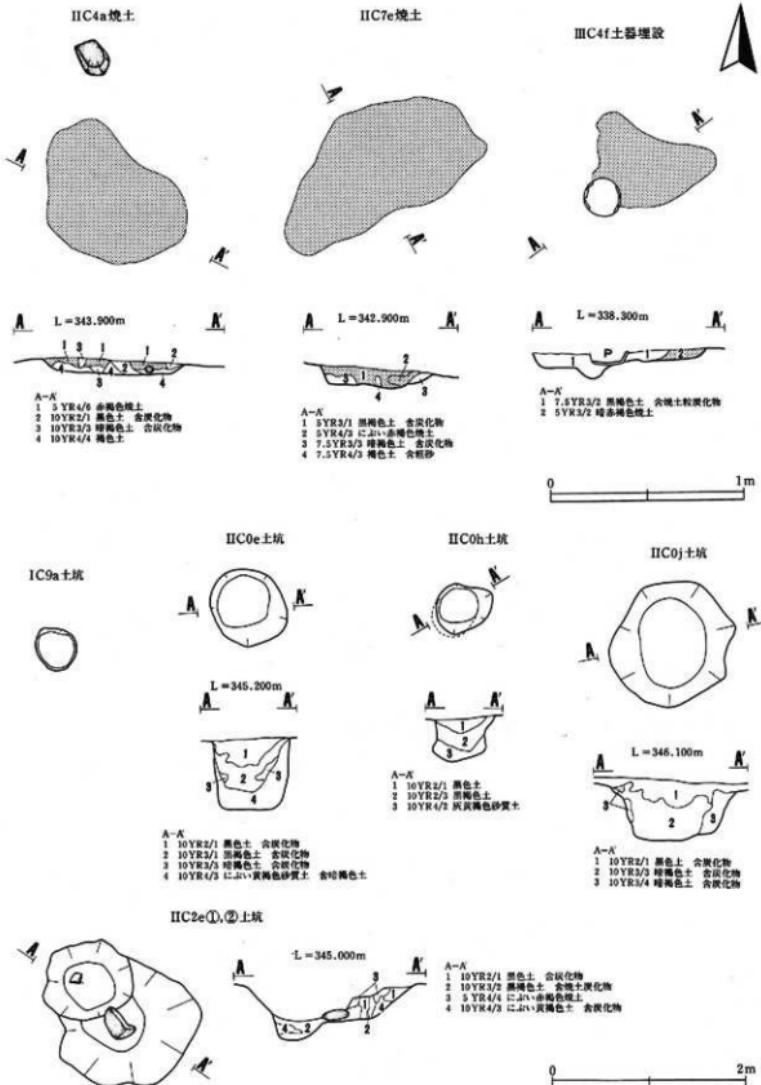
第8図 IIC1e・IIC4f・IIC8j・IIC9e住居跡



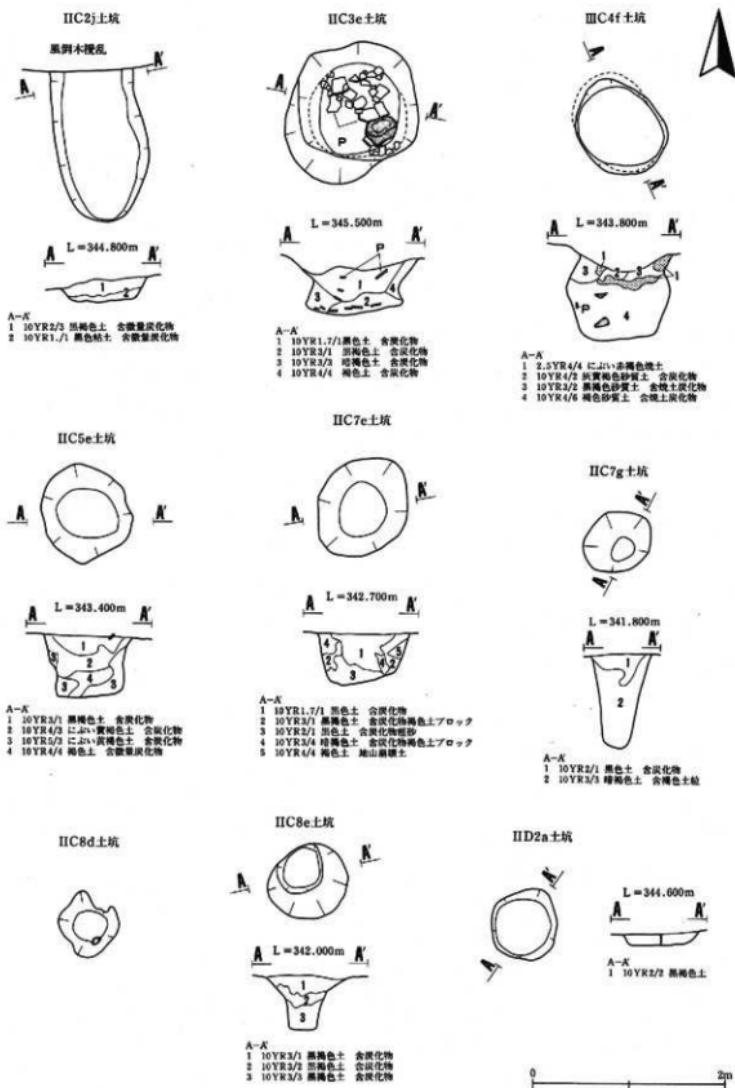
第9図 II C9j・III C0e 住居跡



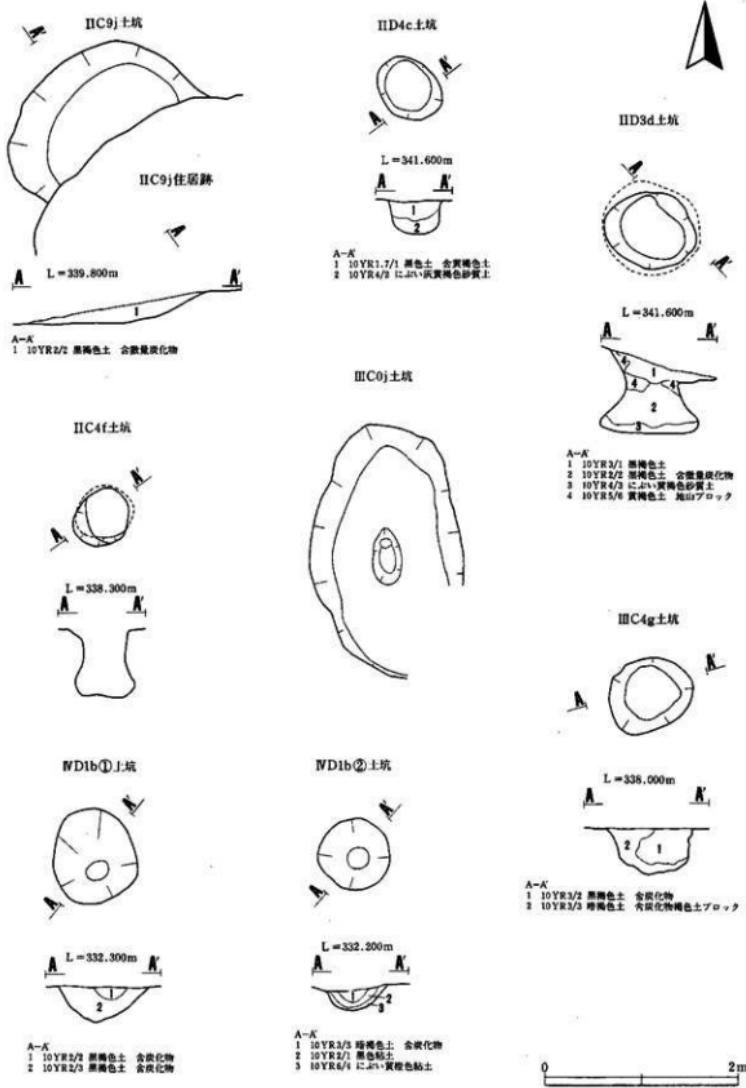
第10図 III C3d・III C3g住居跡



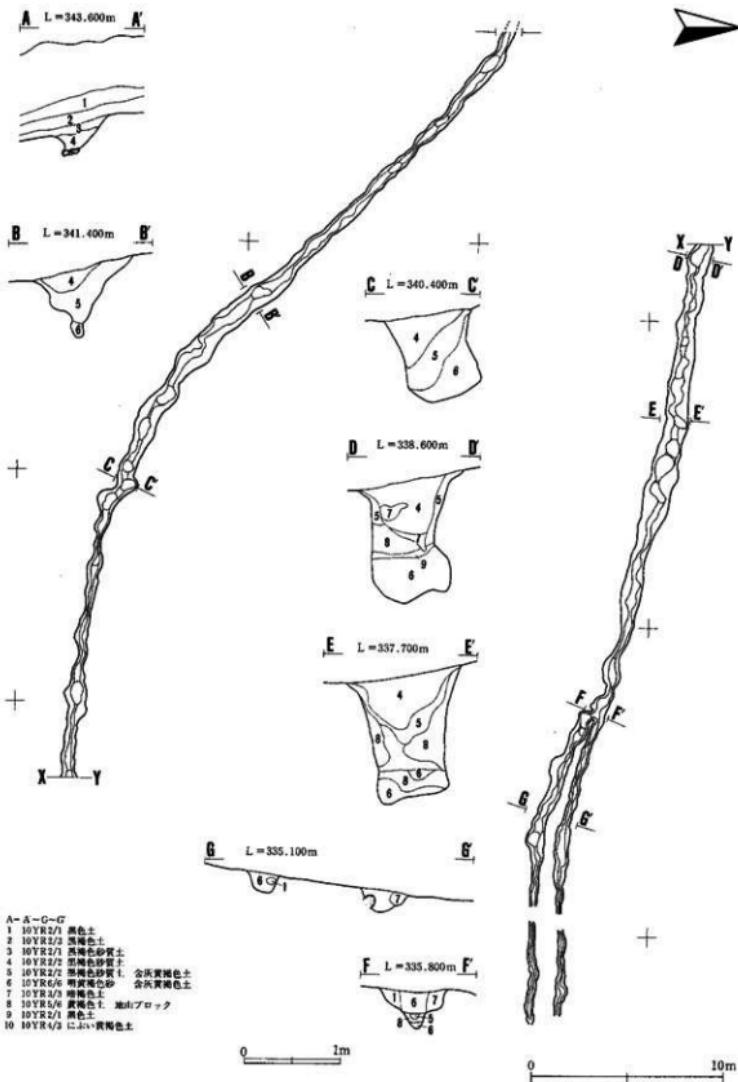
第11図 II C4a・II C7e焼土・III C4f土器埋設遺構・土坑（1）



第12図 土坑 (2)

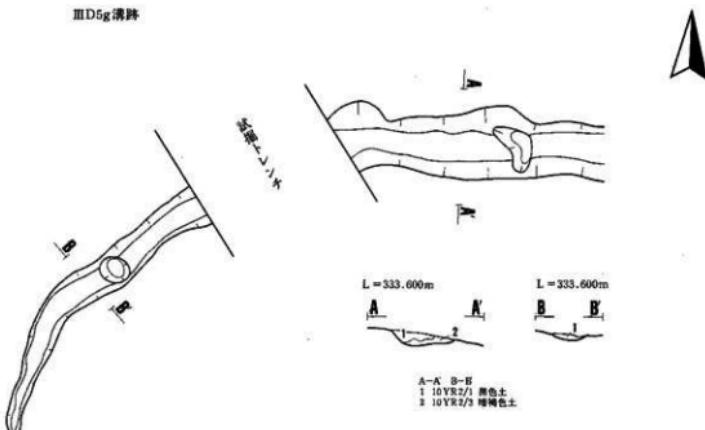


第13図 土坑 (3)

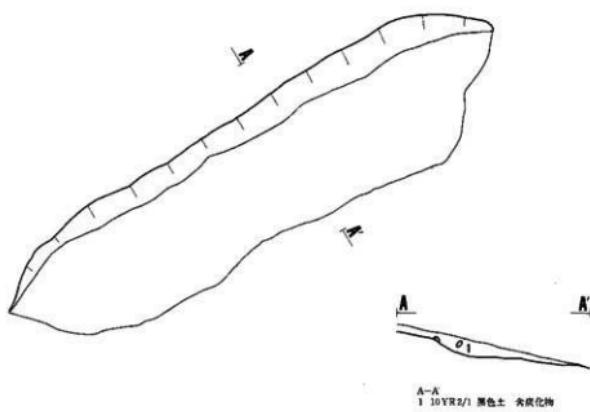


第14図 II B6i溝跡

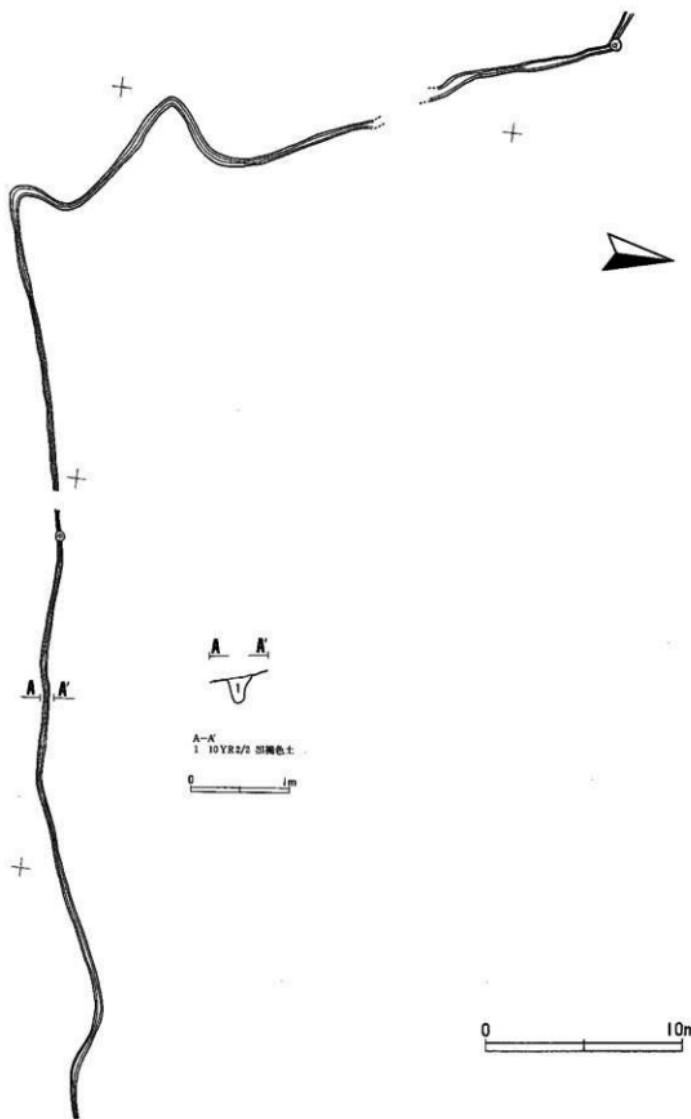
III D5g溝跡



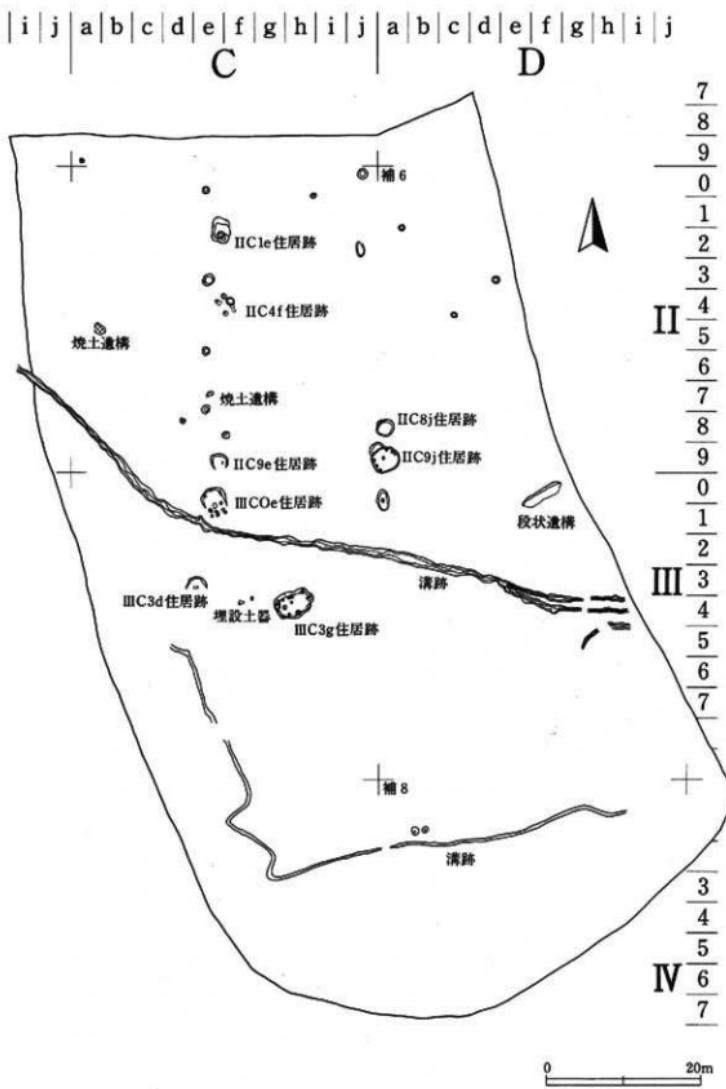
III D0e段状遺構



第15図 III D5g溝跡・III D0e段状遺構



第16図 IVC3g溝跡



第17回 遺構配置図

表3 住居跡一覧表

遺構名	平面形	規模(m)	炉の形態	炉の規模(cm)	柱穴配置	特徴
II C 1 e	隅丸方形	2.3 × 3.1	なし		0	床面北西壁寄り立石
II C 4 f	不明	(4.0)以上	地床炉	96 × 30	3本以上	
II C 8 j	楕円形	2.3 × 2.0	地床炉	30 × 30	0	炉焼土を切って立石
II C 9 e	楕円形	2.2 × 2.0	なし		0	床面中央付近立石
II C 9 j	楕円形	3.7 × 3.2	地床炉	30 × 30	3	
III C 0 e	楕円形	(4.0) × 3.0	石圍炉	64 × 60	6	拡張?
III C 3 d	円or椭円	(2.6)	地床炉	68 × 34	0	床西北西壁寄り立石
III C 3 g	楕円形	5.3 × 3.6	地床炉	250 × 70	8	拡張

表4 土坑一覧表

遺構名	平面形	断面形	炉の形態	頸部径	柱穴配置	深	出土遺物
I C 9 a	横円	ピーカー	48 × 42	-	42 × 38	46	-
II C 0 e	横円	ピーカー	80 × 74	-	58 × 56	72	-
II C 0 h	横円	袋状	62 × 50	-	53 × 52	48	-
II C 0 j	不整横円	逆台形	134 × 122	-	95 × 68	60	-
II C 2 e ①	横円	逆台形	97 × 80	-	57 × 48	58	土器・剝片(埋土中)
II C 2 e ②	横円	逆台形	142 × 145	-	60 × 62	38	-
II C 2 j	長横円	浅皿状	(160) × 96	-	-	28	-
II D 2 a	円	浅皿状	76 × 72	-	104 × 98	14	-
II C 3 e	不整横円	プラスコ	156 × 136	96 × 83	104 × 98	62	土器(床面直上)
II D 3 d	横円	プラスコ	98 × 80	72 × 54	104 × 96	88	-
II C 4 f	横円	袋状	108 × 86	108 × 82	90 × 78	100	土器・剝片(埋土中)
II D 4 c	横円	円筒	76 × 60	-	52 × 48	36	-
II C 5 e	横円	ピーカー	102 × 92	-	68 × 51	68	土器・剝片(埋土中)
II C 7 e	横円	ピーカー	117 × 94	-	58 × 50	53	-
II C 7 g	横円	円筒	70 × 62	-	28 × 12	98	-
II C 8 d	横円	円筒	68 × 63	-	34 × 30	33	-
II C 8 e	横円	円筒	84 × 78	52 × 48	42 × 38	56	-
II C 9 j	横円	浅皿状	200 × (100)	-	-	32	-
III C 0 j	横円	浅皿状	266 × 160	-	152 × 117	15	土器・剝片(埋土中)

遺構名	平面形	断面形	炉の形態	頭部径	柱穴配置	深	出土遺物
III C 4 f	楕円	プラスコ	62×55	56×44	62×56	72	土器・鉢片(埋地中)
III C 4 g	楕円	円筒	100×74	-	56×53	50	-
VID 1 b①	楕円	浅鉢状	96×86	-	24×20	36	-
VID 1 b②	楕円	浅鉢状	76×73	-	21×20	28	-

注：表中の単位はcm。・深さは検出面からの深さを表す

() 付は重複や混亂のために全体を検出できなかつたので数値は検出時の最大径を表す

7. 遺構外出土遺物

B地区の遺構外から出土した遺物は、全部でコンテナ8箱である。種別は縄文土器・土製品・石器・石製品・古鏡であるが、圧倒的に縄文土器が多く、石器・石製品は少ない。

(1) 土器

遺構外からコンテナ(40×32×30cm)7箱が出土した。出土は、調査区の中央部および北側の斜面上部の出土が多い。その内容は縄文早期末～前期(第I群)、中期末葉～後期初頭(第II群)、後期前葉(第III群)、その他の後期と見られる土器(第IV群)、晚期(第V群)の5つに分けられる。その内、特に出土量が多い後期の土器については、その文様の特徴と粗製土器の口縁の特徴から5類に分け、縄文早期末～前期については、3類に分けてみた。晚期の土器については出土量が少ないので細分は行わなかつた。第III群(後期前葉)としたものの中には、第II群(中期末葉～後期初頭)の時期に含まれるものもあると思う。遺構外の土器で掲載したものは183点である。

第I群(縄文時代早期末～前期としたもの)

- 1類 胎土に纖維が含まれる土器 (掲載番号 77)
- 2類 口縁に指頭や工具で圧痕や刻みを加えて、波状口縁または鋸歯状装飾になっているもの (掲載番号 78～85)
- 3類 竹管による沈線や鋸歯状文、刺突が見られるもの (掲載番号 86～101)

第II群(縄文中期末葉～後期初頭と見られるもの)

- ・沈線によりJ字状文をモチーフとするものや断面が三角形の隆帯を貼付されるものなど (掲載番号 102～105)

第III群(縄文時代後期前葉としたもの)

- 1類 連鎖状隆起線文を主とするもの (掲載番号 106～110)
 - 2類 連鎖状隆起線文+沈線文によって施文されるもの (掲載番号 111～116)
 - 3類 沈線文を主とするもの (掲載番号 117～214)
 - 4類 壺形の土器 (掲載番号 215～218)
 - 5類 地紋のみの土器で、波状口縁をもつものや縄文原体を横巻回転し羽状縄文のように施文しているもの (掲載番号 219～225)
- 第IV群(第III群に含まれると思われる地紋のみの土器及び底部) (掲載番号 226～256)
- 第V群(縄文時代晚期としたもの) (掲載番号 257～259)

(2) 土製品

出土しているのは、全て土器片を利用した円盤状土製品である。

(掲載番号 260~264)

(3) 石器・石製品

遺構内外から567点の石器・石製品が出土した。遺構内から出土は64点と全体の11.3%である。本報告書では、刃部の作り出しや使用痕跡が明瞭に認められる剝片石器と礫石器、石製品など101点と黒曜石の剝片4点を掲載した。また、出土した石器・石製品を形状から下記のように分類してみた。

A群 石鎚 遺構外からは4点出土している。

1類 無茎鎚 3点出土している。 (掲載番号 265~267)

2類 有茎鎚 1点出土しているが、破損している。 (掲載番号 268)

B群 石匙 6点出土している。

1類 縦長石匙 5点出土している。 (掲載番号 269~273)

2類 横長石匙 1点出土している。 (掲載番号 274)

C群 石錐 1点出土している。剝片石器の尖っている部分を利用していている。 (掲載番号 275)

D群 蓋状石器 14点出土している。

1類 刃部に両面から調整を加えているもの 1点出土している。 (掲載番号 276)

2類 刃部に片面から調整を加えているもの 13点出土している。 (掲載番号 277~289)

E群 不定形石器 28点出土している。

1類 2次調整が両面から加えられているもの 9点出土している。 (掲載番号 290~298)

2類 2次調整が片面から加えられているもの 15点出土している。 (掲載番号 299~313)

3類 微少剝離痕を有するもの 4点出土している。 (掲載番号 314~317)

F群 磨製石斧 2点出土している。いずれも基部のみの欠損品である。 (掲載番号 318・319)

G群 敷石・磨石類 26点出土している。

1類 磨石 8点出土している。 (掲載番号 320~326)

2類 四石 4点出土している。 (掲載番号 327~331)

3類 敷石 単独で使用されたものは出土していない。

4類 1・2・3類の特徴が複数表れているもの 13点出土している。 (掲載番号 332~344)

5類 磨石跡 1点出土している。 (掲載番号 345)

H群 石製品 7点出土している。

1類 有孔石製品 1点出土している。 (掲載番号 346)

2類 円盤状石製品 6点出土している。 (掲載番号 347~352)

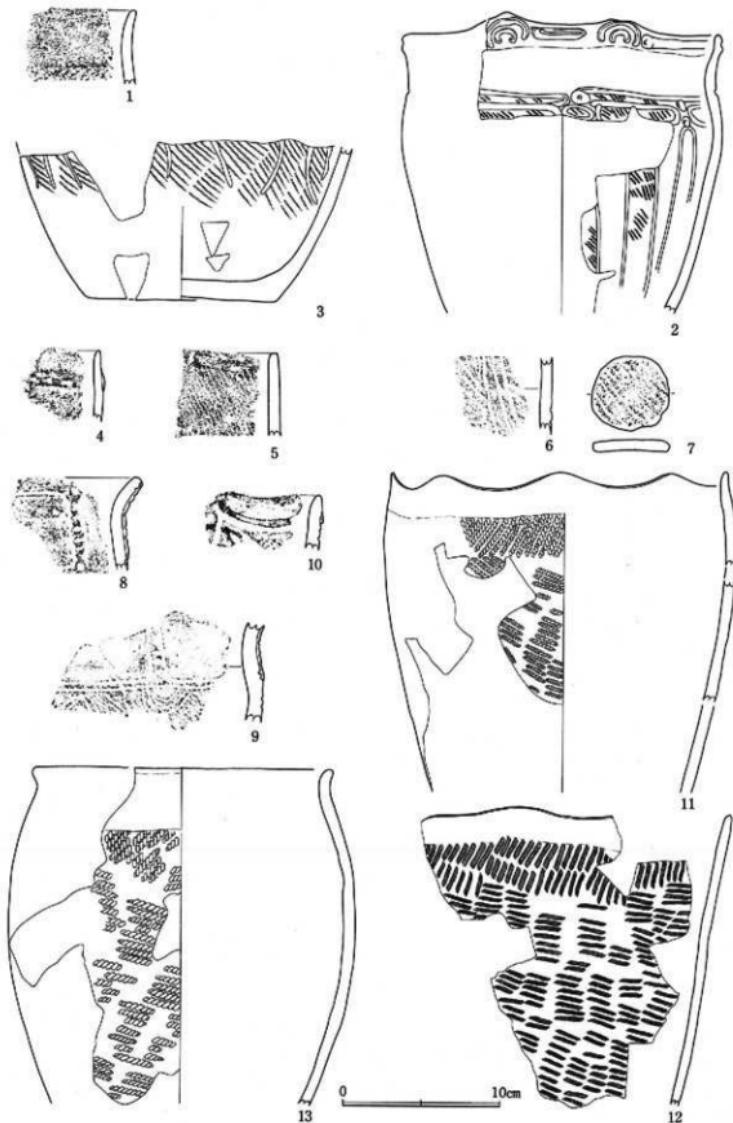
I群 黒曜石剝片 3点出土している。

(掲載番号 353~355)

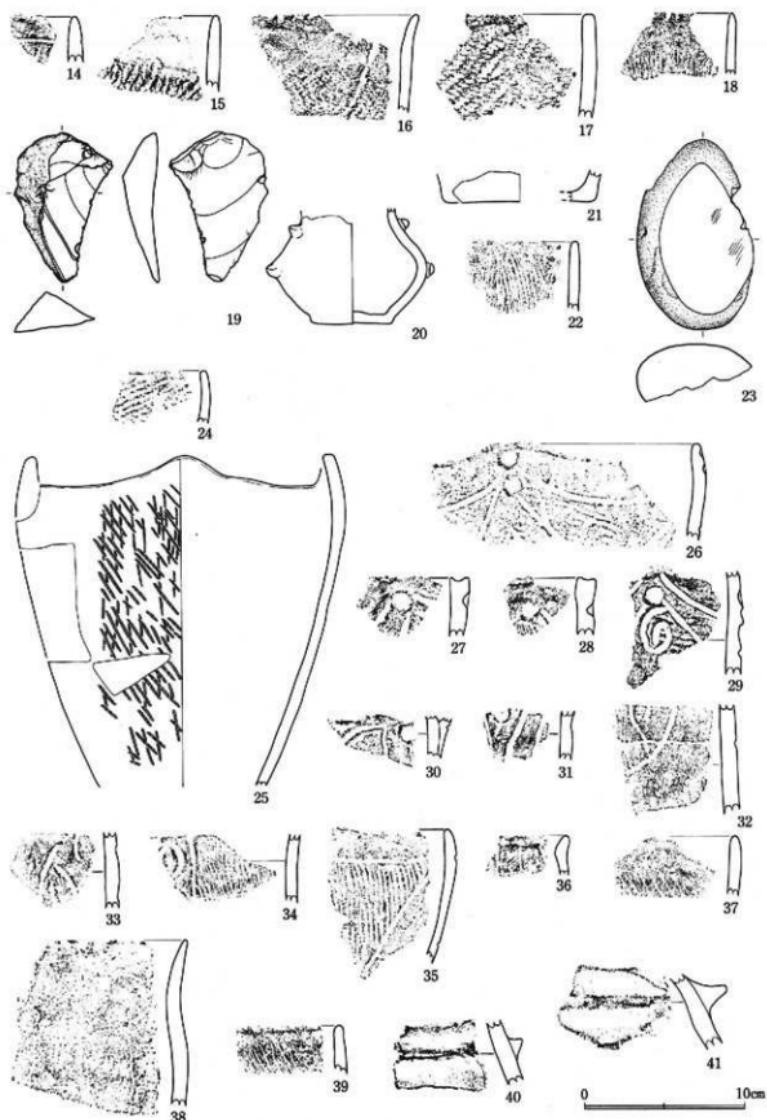
(4) 古錢

5枚出土している。永樂通宝1枚と寛永通宝4枚が出土している。

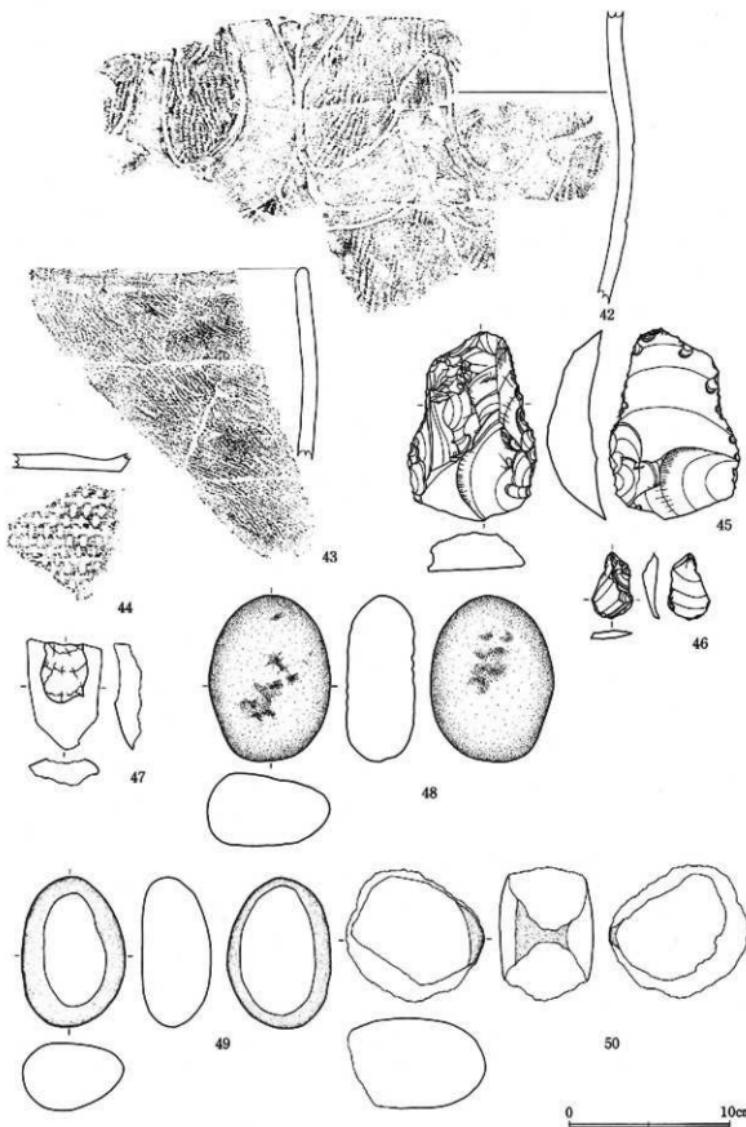
(掲載番号 356~360)



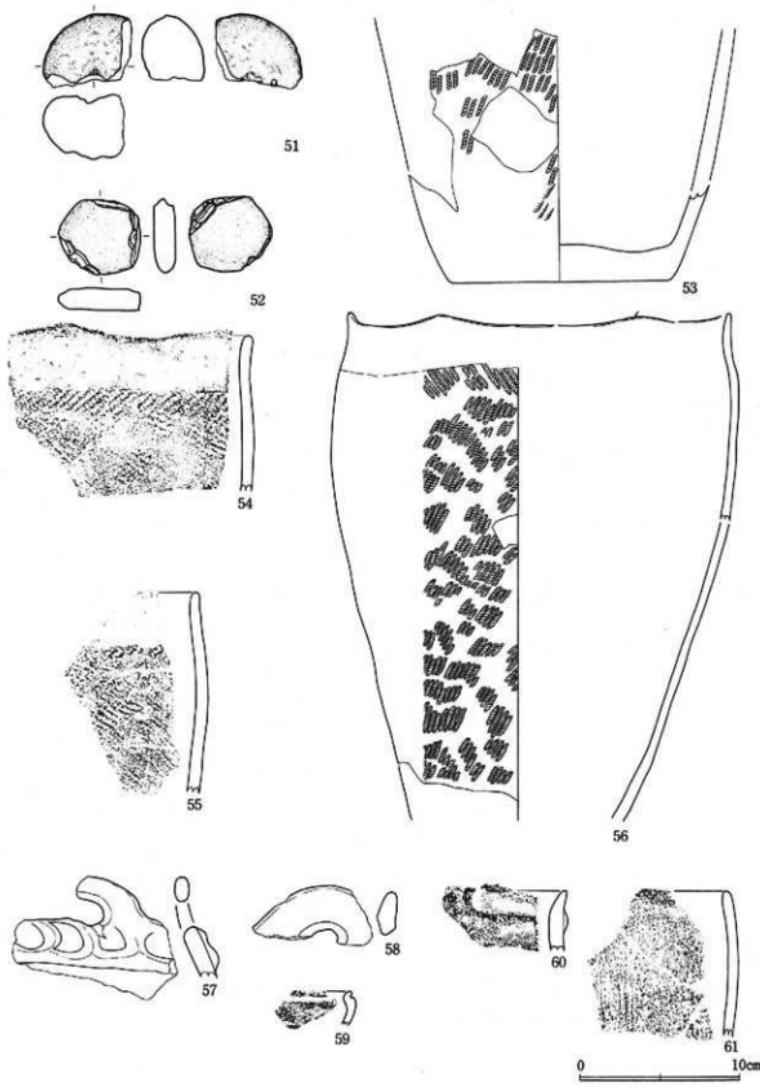
第18図 住居内出土遺物（1）



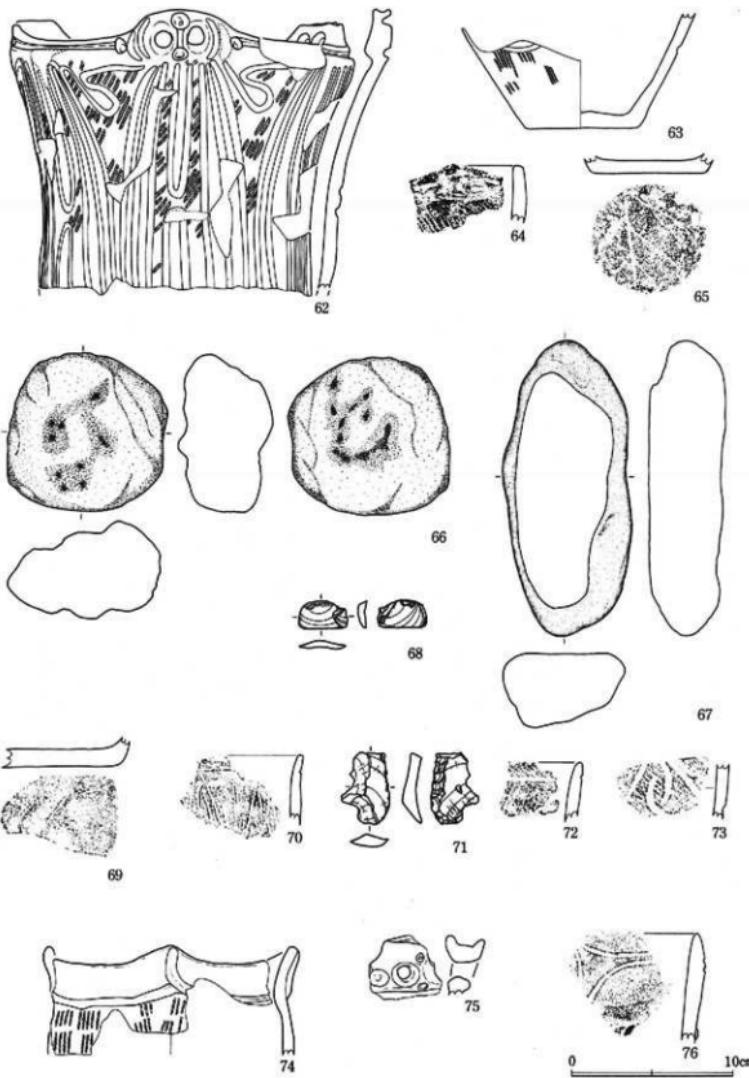
第19図 住居内出土遺物（2）



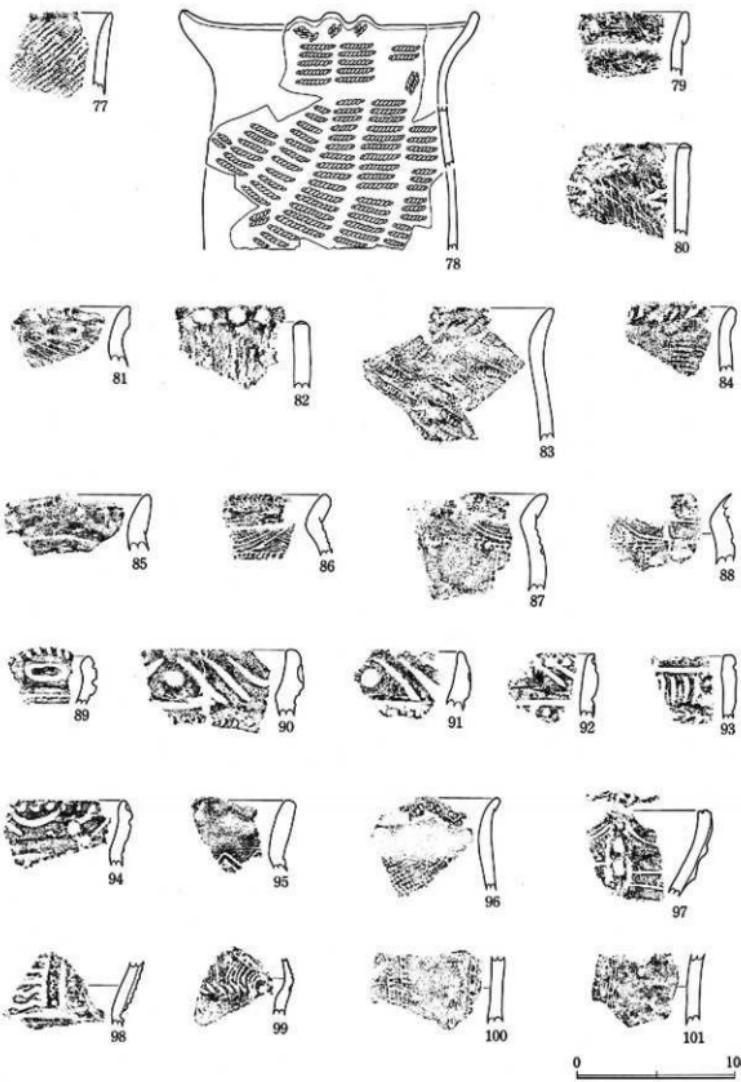
第20図 住居内出土遺物（3）



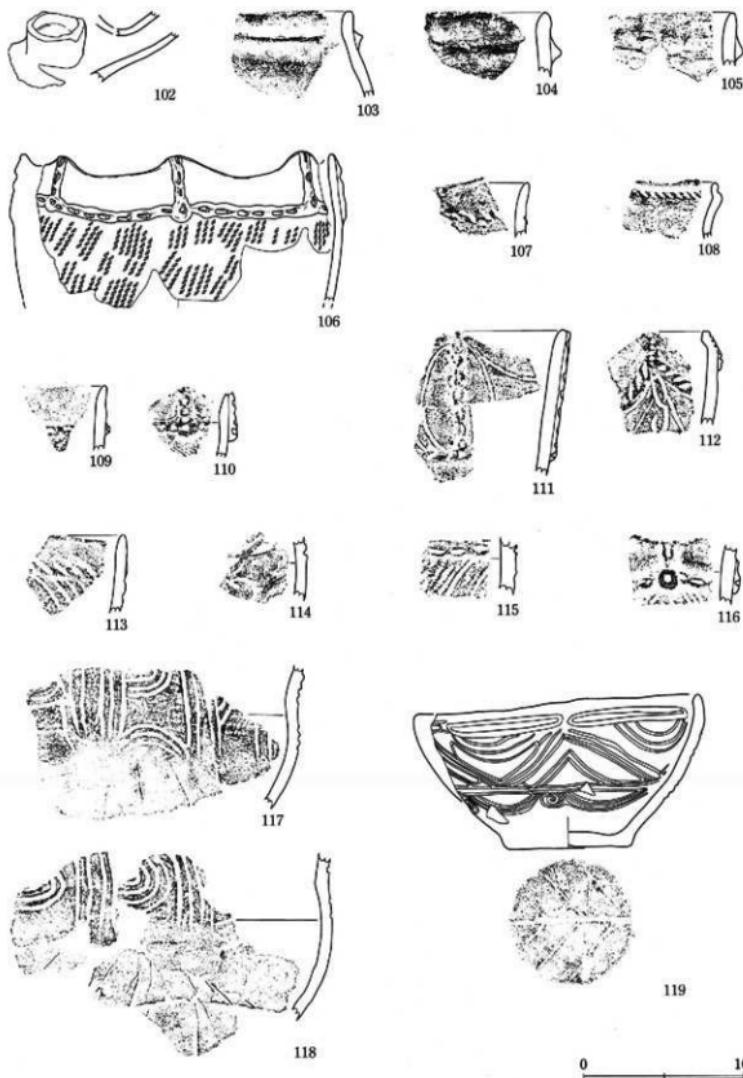
第21圖 住居内出土遺物（4）・埋設土器・土坑内出土遺物（1）



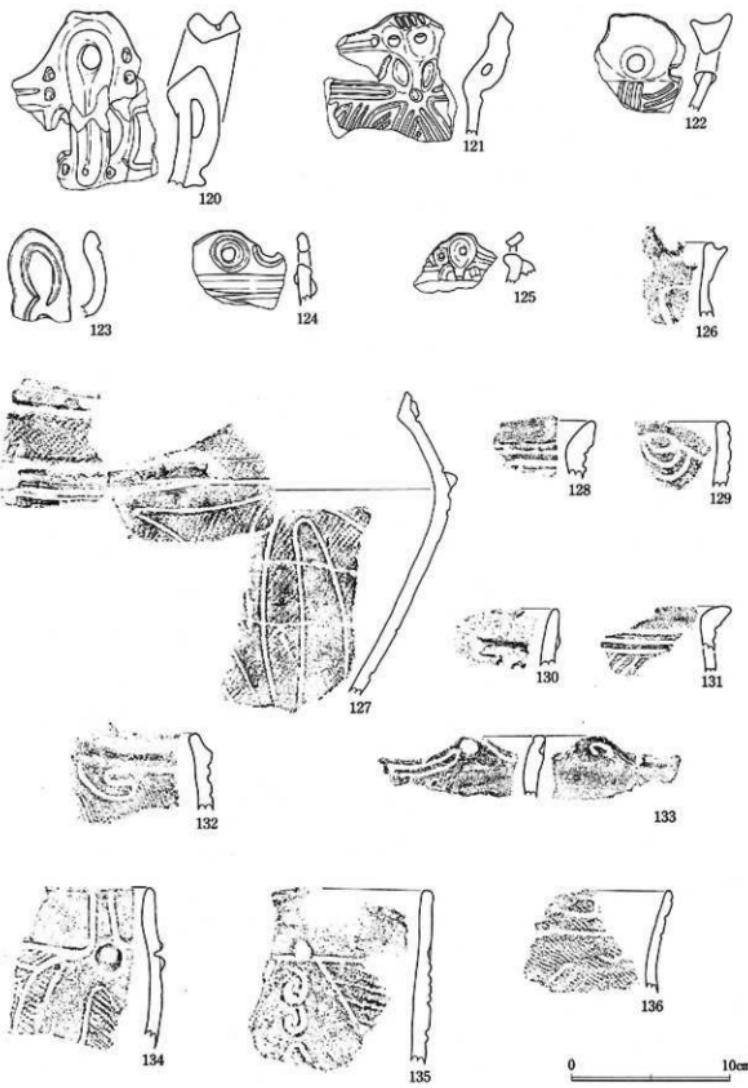
第22図 土坑内出土遺物（2）・溝跡出土遺物



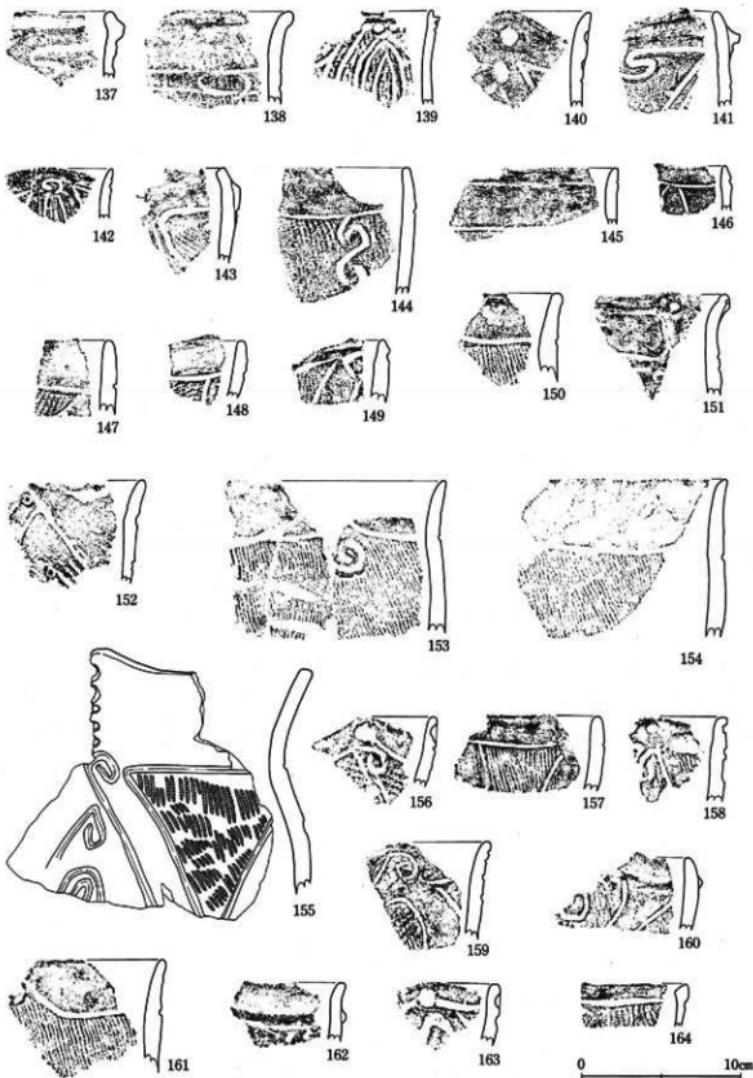
第23図 遺構外出土土器（1）



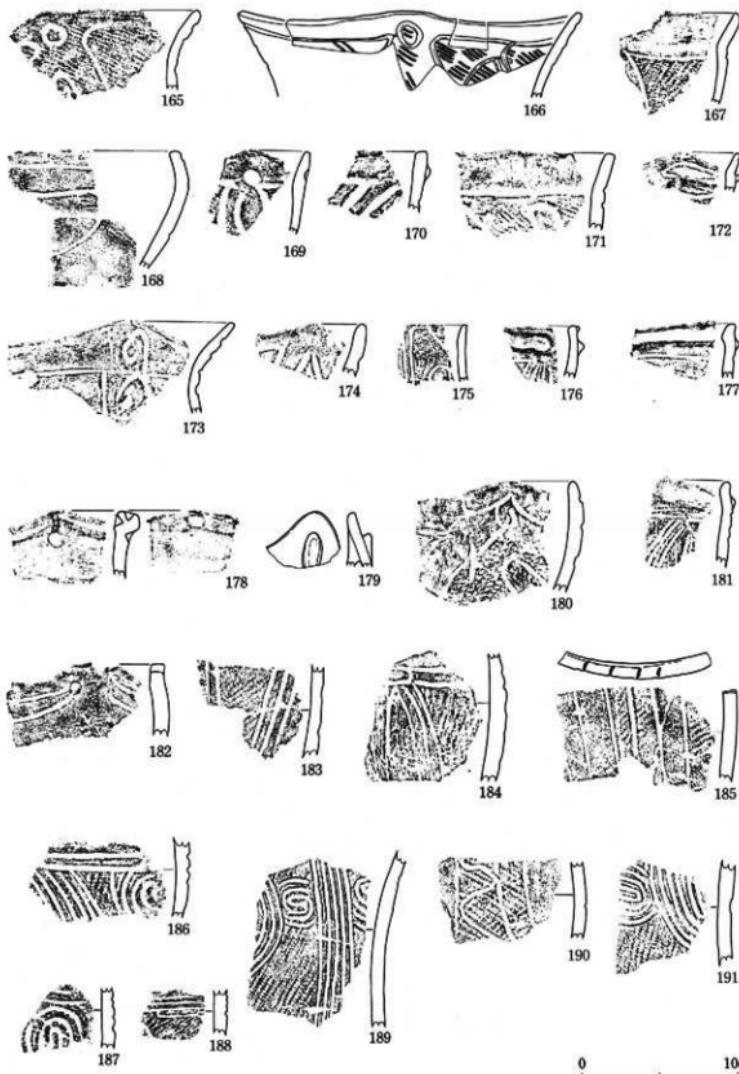
第24図 遺構外出土土器（2）



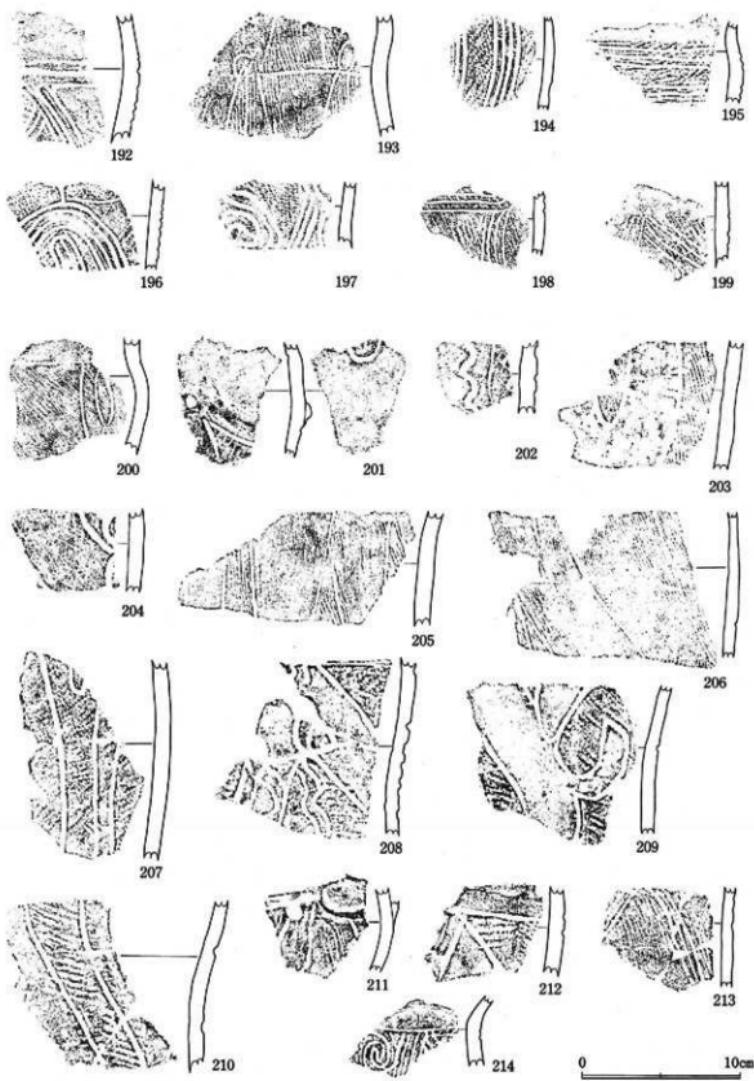
第25圖 遺構外出土土器（3）



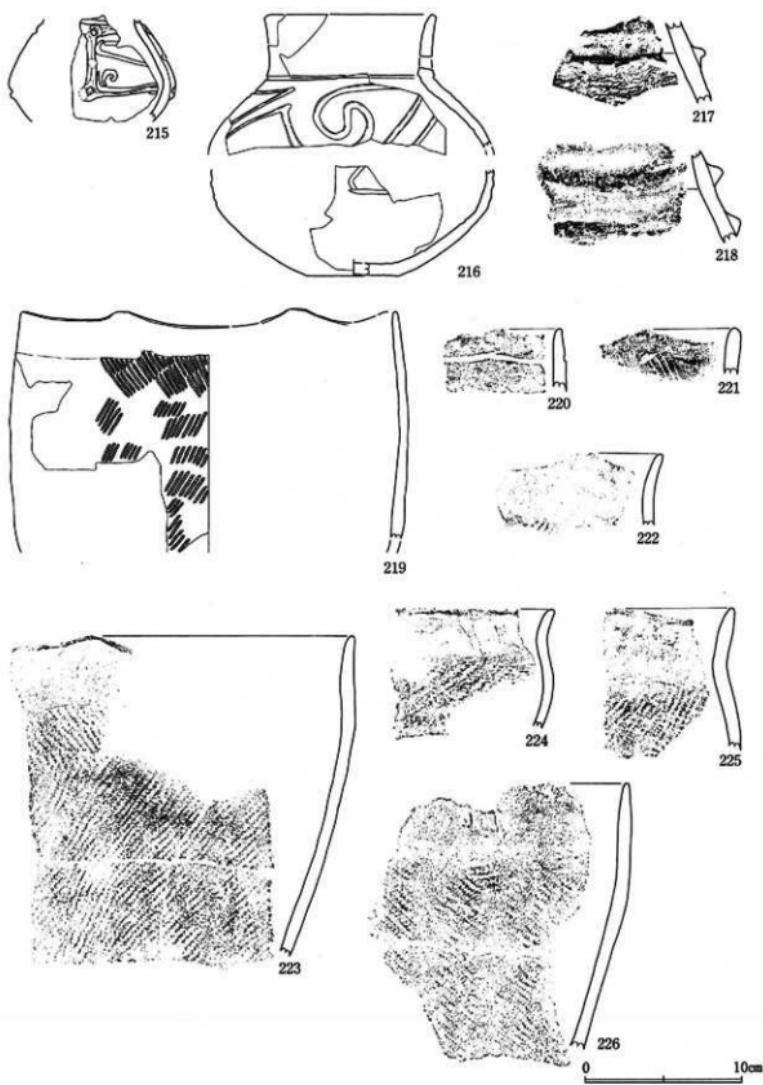
第26図 遺構外出土土器(4)



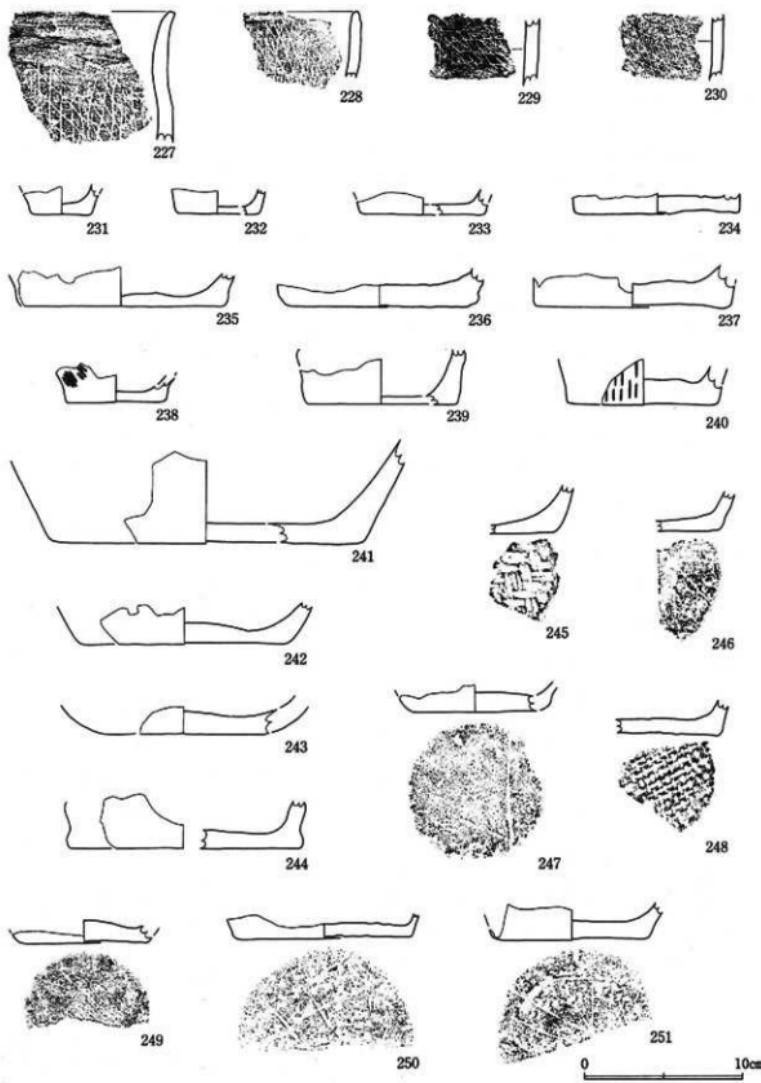
第27図 遺構外出土土器（5）



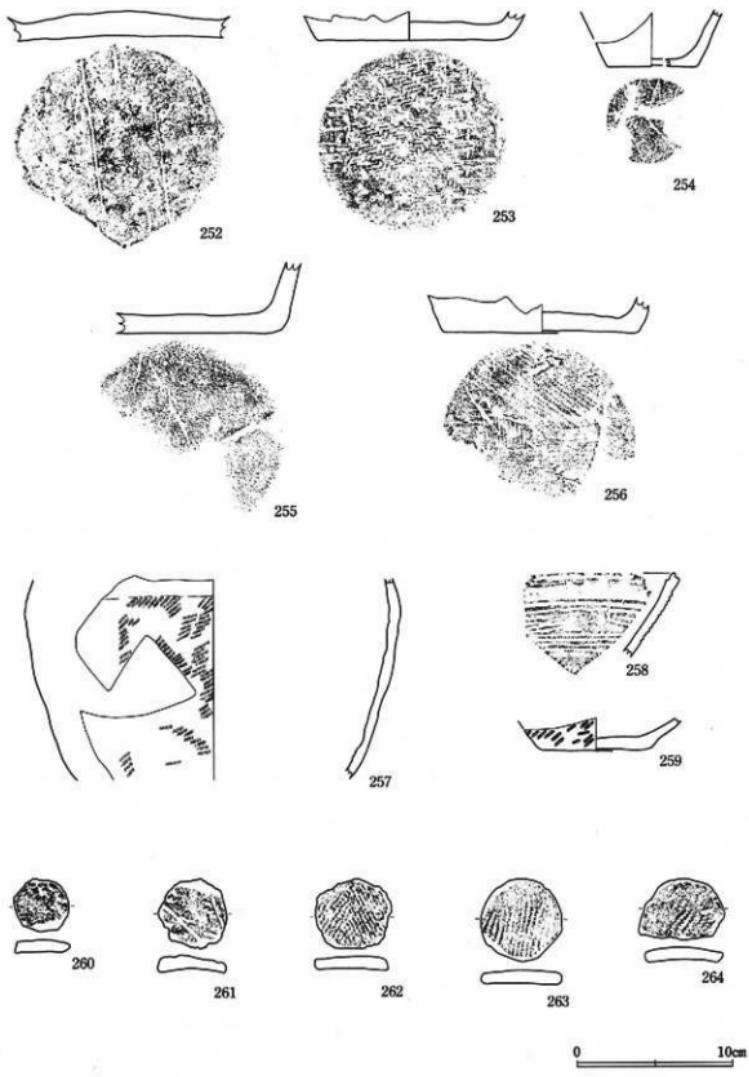
第28図 遺構外出土土器 (6)



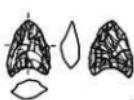
第29回 遺構外出土土器（7）



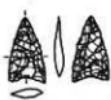
第30図 遺構外出土土器(8)



第31図 通横外出土土器 (9)・土製品



265



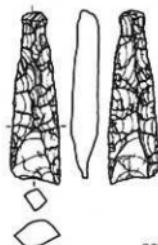
266



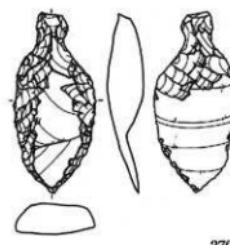
267



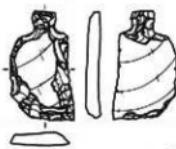
268



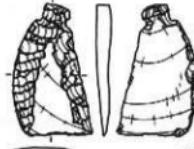
269



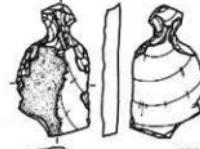
270



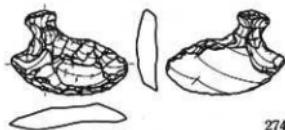
271



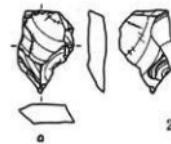
272



273



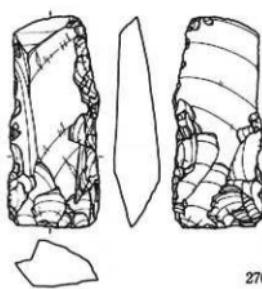
274



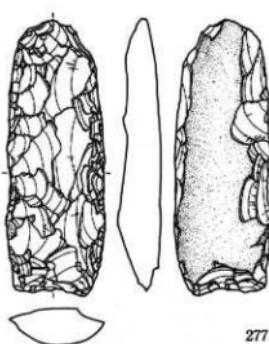
275

A horizontal scale bar with markings at 0 and 10 cm.

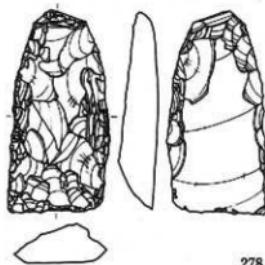
第32図 遺構外出土石器（1）



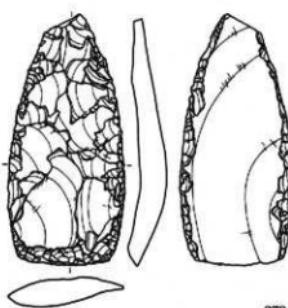
276



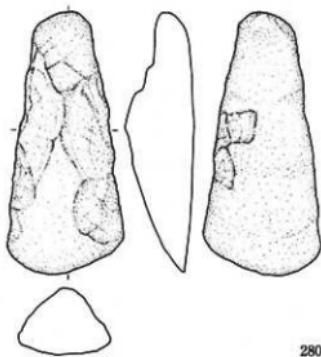
277



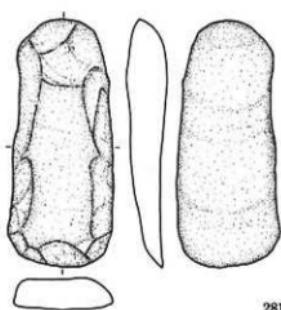
278



279



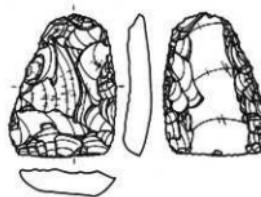
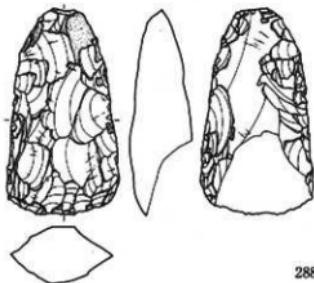
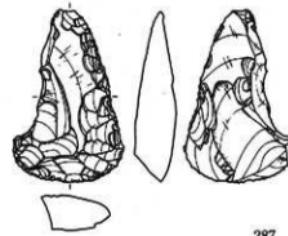
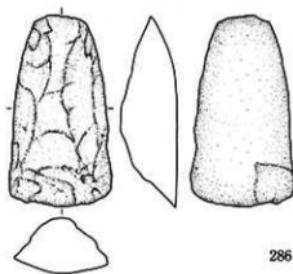
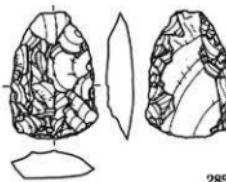
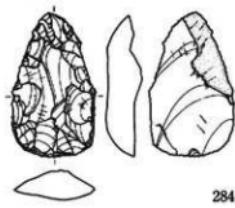
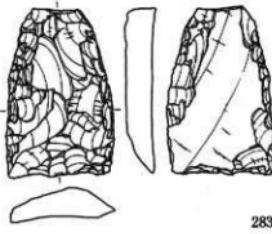
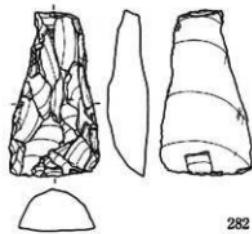
280



281

A scale bar indicating a length of 10 cm.

第33図 遺構外出土石器（2）



0 10cm

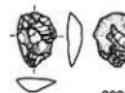
第34圖 遺橫外出土石器（3）



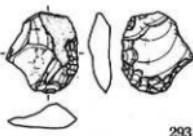
290



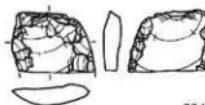
291



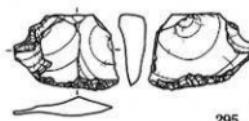
292



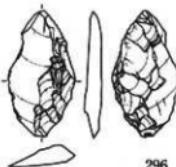
293



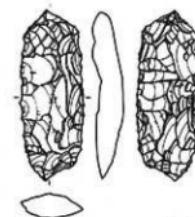
294



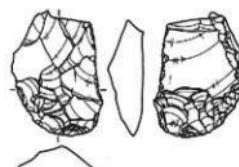
295



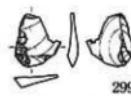
296



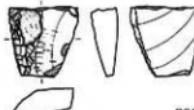
297



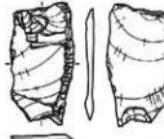
298



299



301



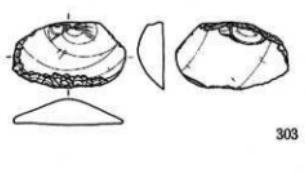
302



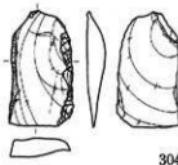
300



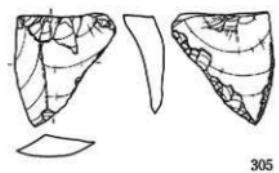
第35圖 遺構外出土石器 (4)



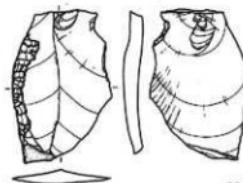
303



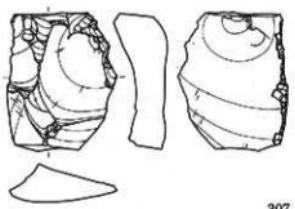
304



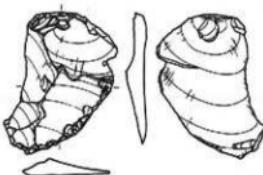
305



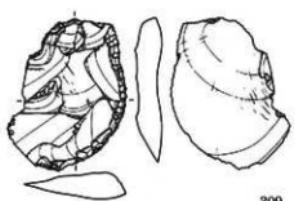
306



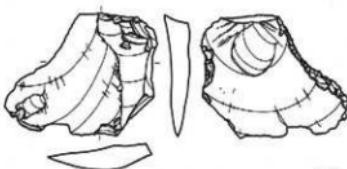
307



308



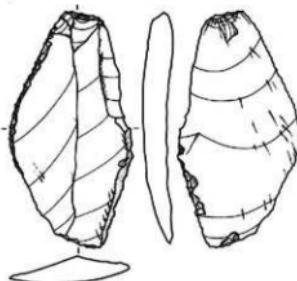
309



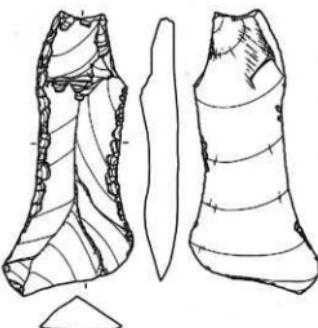
310

0 10cm

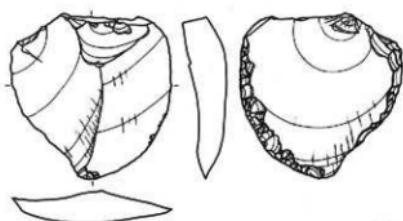
第36図 遺構外出土石器（5）



311



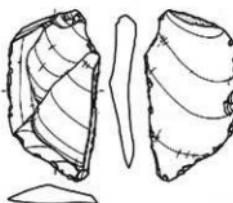
312



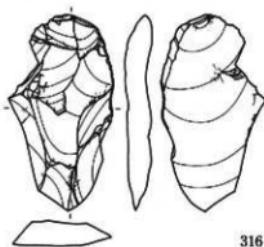
313



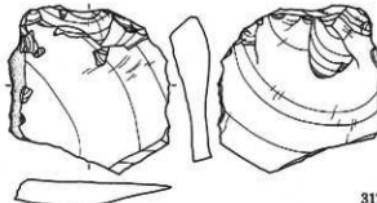
314



315



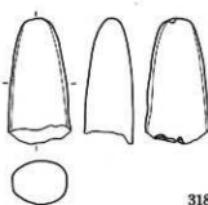
316



317

0 10cm

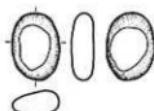
第37圖 遺構外出土石器（6）



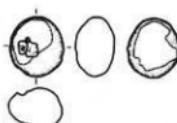
318



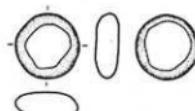
319



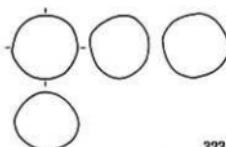
320



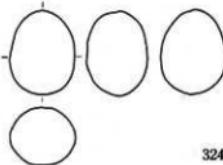
321



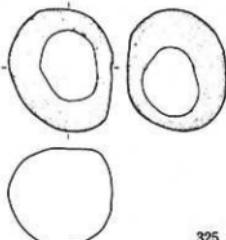
322



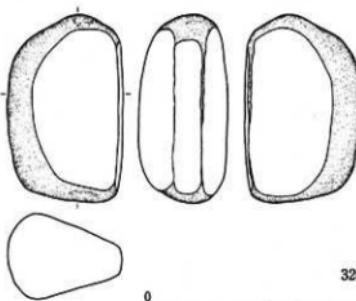
323



324

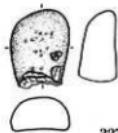


325

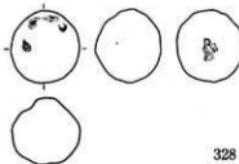


0 10cm

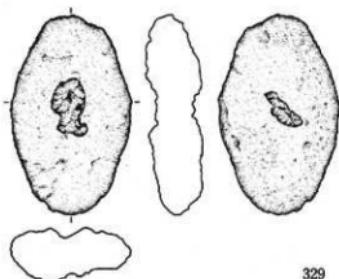
第38圖 遺構外出土石器（7）



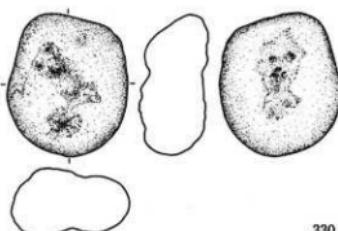
327



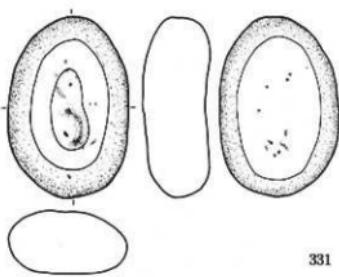
328



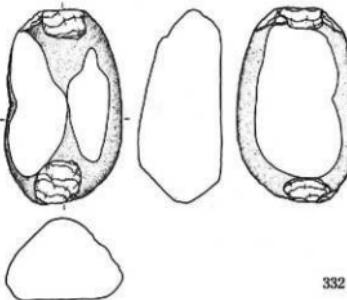
329



330



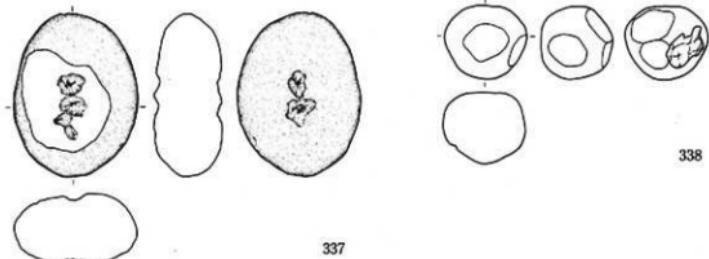
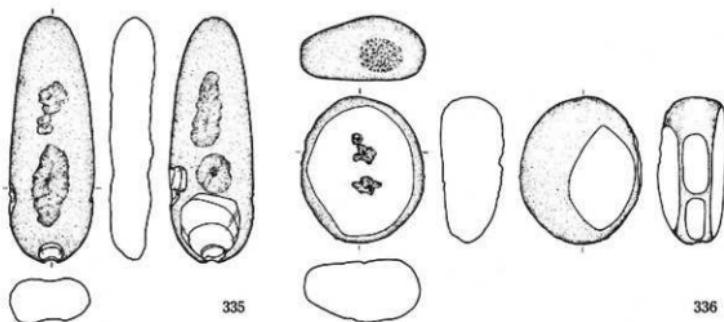
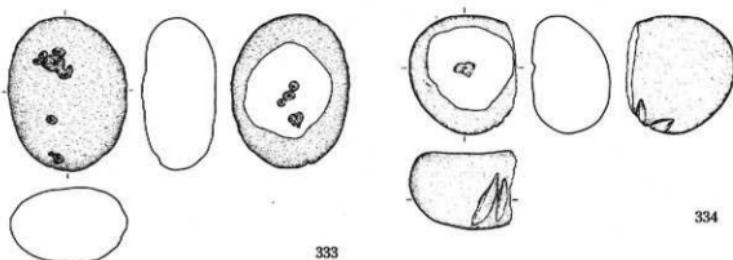
331



332

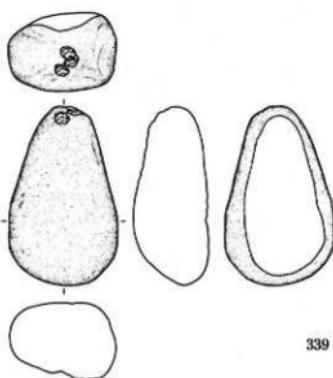


第39四 遺構外出土石器 (8)

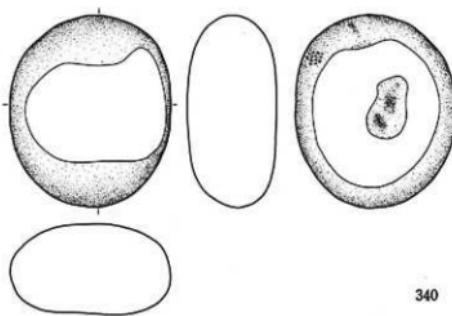


0 10cm

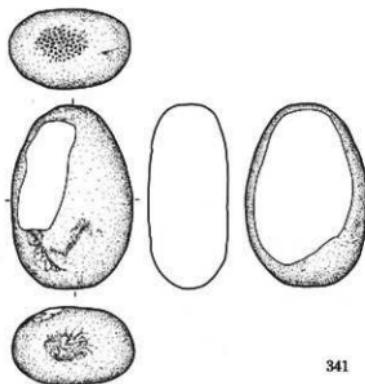
第40図 遺構外出土石器（9）



339



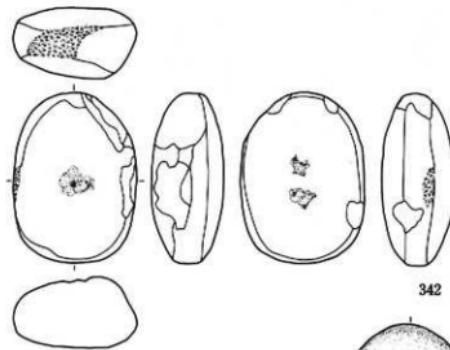
340



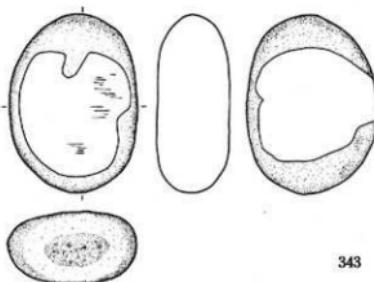
341



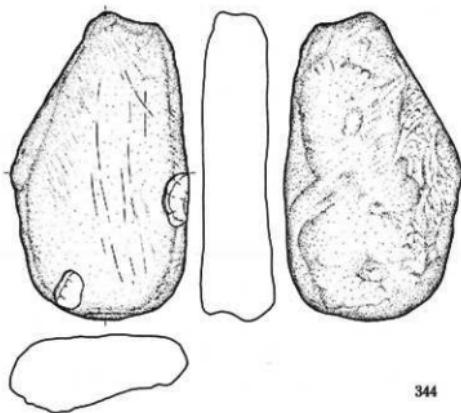
第41図 遺構外出土石器 (10)



342



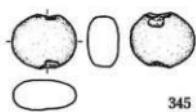
343



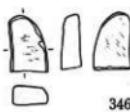
344



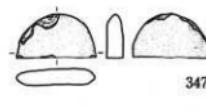
第42図 遺構外出土石器 (11)



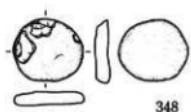
345



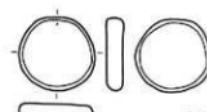
346



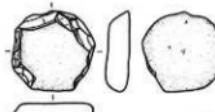
347



348



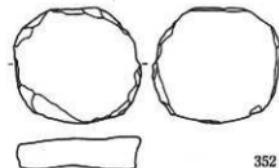
349



350



351



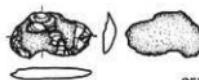
352



353



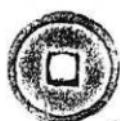
354



355



第43図 造橋外出土石器 (12)・石製品



356



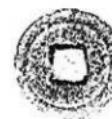
357



358



359



360



第44図 古錢

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
1	4	II C 1 e 住埋土	深鉢	口	L R 横 すす	III 5
2	51	II C 4 f 住P 2 埋土	深鉢	口～肩	口縁突起C字状文 頸部刺突 逆U字状文 摺糸	III 3
3	53	II C 4 f 住P 1 埋土	深鉢	肩～底	弧状文 摺糸 焼成	III 3
4	12	II C 4 f 住P 2	深鉢	口	連續状腰帯 R L 縦	III 1
5	13	II C 4 f 住P 1	深鉢	口	摺糸	III 5
6	17	II C 8 j 住西半埋土	深鉢	肩	平行沈線渦巻文	III 1
7	358	II C 8 j 住埋土	円盤状		径 5.0 × 4.5 cm 厚さ 7 mm 重量 20.3 g	
8	20	II C 9 e 住埋土	深鉢	口	連續状腰帯懸垂 隆帶上下刺突	III 2
9	19	II C 9 e 住埋土	深鉢	頸	連續状腰帯懸垂 頸部平行沈線 曲線文 摺糸	III 2
10	24	II C 9 e 住埋土	深鉢	口	波状口縁頂部から頸部隆帯連絡 R L 縦	III 2
11	54	II C 9 j 住埋土下部	深鉢	口～肩	波状口縁 8 単位 L R 橫縦	III 5
12	55	II C 9 j 住褐色土	深鉢	口～肩	波状口縁 O段多条横筋 すす	III 5
13	50	II C 9 j 住褐色土	深鉢	口～肩	L R 橫縦	IV
14	26	II C 9 j 住埋土下部	深鉢	口	平行沈線渦巻文	III 3
15	25	II C 9 j 住褐色土	深鉢	口	O段多条	IV
16	22	II C 9 j 住褐色土	深鉢	口	波状口縁 R L 斜	III 5
17	21	II C 9 j 住埋土上部	深鉢	口～肩	R L 縦	IV
18	23	II C 9 j 住暗褐色土	深鉢	口	摺糸	IV
20	1	III C 0 e 住床真上	小型壺	頸～底	頸部刺突 (黄通孔) 2 単位	III 4
21	28	III C 0 e 住P 2	深鉢	底	焼成	IV
22	27	III C 0 e 住埋土	深鉢	口	摺糸	IV
24	46	III C 3 d 住埋土	深鉢	口	L R 横 すす	IV
25	57	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	口～肩	波状口縁 4 単位 調目状摺糸	III 5
26	37	III C 3 g 住黒褐色土	深鉢	口	波状口縁頂部下部2個刺突 弧状文 R L 横 すす	III 3
27	40	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	口	口唇突起下部刺突 弧状沈線文 摺糸	III 3
28	39	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	口	口唇突起下部刺突 弧状沈線文 摺糸 すす	III 3
29	253	III C 3 g 住黒褐色土	深鉢	肩	刺突 渦巻文 L R 縦	III 3
30	32	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	頸	横状把手下部刺突 頸部腰帯 沈線弧状文	III 2
31	38	III C 3 g 住P 1 1	深鉢	肩	平行沈線 竹管刺突 R L 縦	III 3
32	42	III C 3 g 住P 9	深鉢	肩	沈線区画内横円形文 摺糸	III 3
33	44	III C 3 g 住埋土	深鉢	肩	沈線区画内横円形文 摺糸	III 3
34	30	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	肩	沈線区画内横円形文 摺糸	III 3
35	324	III C 3 g 住P 7	深鉢	口～肩	波状口縁 弧状文 摺糸 すす	III 3
36	33	III C 3 g 住P 1 0	深鉢	肩	沈線縦区画交互溝清繩文	III 3

土器・土製品観察表

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
37	35	III C 3 g 住黒褐色土	深鉢	口	波状口縁 網目状撚糸	III 5
38	41	III C 3 g 住黒褐色土	深鉢	口～肩	網目状撚糸 すす	IV
39	45	III C 3 g 住床面直上	深鉢	口	撚糸	IV
40	43	III C 3 g 住黒褐色土	壺	頭	頭部隆帯	III 4
41	36	III C 3 g 住黒褐色土	壺	頸	頸部隆帯	III 4
42	59	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	肩	平行沈線 J字状文 R L縦	II
43	58	III C 3 g 住床面直上	深鉢	口～肩	撚糸	IV
44	31	III C 3 g 住暗褐色土	深鉢	底	網代痕	IV
53	68	III C 4 f 埋設土器	深鉢	肩～底	R L縦 网代痕	IV
54	6	II C 2 e ①土坑埋土	深鉢	口～肩	波状口縁 L R横縦 すす	III 5
55	5	II C 2 e ①土坑埋土	深鉢	口～肩	L R横縦	III 5
56	56	II C 3 e 土坑埋土	深鉢	口～肩	波状口縁 6単位 R L横縦 すす	III 5
57	7	II C 3 e 土坑埋土	深鉢	口	中空突起 頭部指頭圧痕隆帯	III 1
58	10	II C 3 e 土坑埋土	深鉢	口	中空突起	III 5
59	11	II C 3 e 土坑埋土	浅鉢	口	頭部沈線	III 3
60	9	II C 3 e 土坑埋土	深鉢	口	波状口縁頂部隆帯連絡	III 5
61	8	II C 3 e 土坑埋土	深鉢	口～肩	撚糸 すす	III 5
62	49	II C 4 f 土坑埋土	深鉢	口～肩	複合口縁中空突起3単位 弧状文 S字状文 R L縦	III 3
63	52	II C 4 f 土坑埋土	深鉢	肩～底	弧状文 撥糸 焼成	III 3
64	15	II C 4 f 土坑埋土	深鉢	口	波状口縁 撥糸	III 5
65	14	II C 4 f 土坑埋土	深鉢	底	木葉痕	IV
69	16	II C 5 e 土坑埋土	深鉢	底	木葉痕	IV
70	29	III C 0 j 土坑埋土	深鉢	口～肩	沈線弧状文	III 3
72	47	III C 4 f 土坑埋土	深鉢	口～肩	沈線弧状文 撥糸	III 3
73	48	III C 4 f 土坑埋土	深鉢	肩	沈線弧状文 S字状文 撥糸	III 3
74	60	II B 6 i 满跡埋土	深鉢	口～肩	波状口縁頂部から頭部隆帯連絡 撥糸	III 5
75	3	II B 6 i 满跡埋土	深鉢	口	中空突起	III 3
76	2	II B 6 i 满跡埋土	深鉢	口	連續状隆帯 弧状文	III 2
77	91	II C O - I 区検出	深鉢	口	織縫 L R横	I 1
78	61	II B 4 i 区II層	深鉢	口～肩	山形口縁4単位 波頂部衝突状 L R斜	I 2
79	111	II C 3 g 区I層	深鉢	口	口唇折り返し肥厚	I 2
80	112	II C 3 a 区粗堀	深鉢	口	口唇刻み 撥糸 内側ナア	I 2
81	148	II B 5 i - j 区粗堀	深鉢	口	口唇内外押圧 撥糸 焼成	I 2
82	186	II C 6 g 区、層	深鉢	口	口唇指頭圧痕 口縁貫通孔 撥糸 すす	I 2
83	220	II C 9 a - b 区粗堀	深鉢	口～肩	L R横縦 すす	I 2
84	221	II C 9 f 東周辺検出	深鉢	口	口唇剥突 無節L すす	I 2

土器・土製品観察表

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
85	357	IV C 1 h 区 I 層	深鉢	口	口唇折り返し肥厚 すす 外面ナテ	I 2
86	75	II C 0 h 区検出	深鉢	口	連続刺突区画 半裁竹管文 口唇部刻目肥厚	I 3
87	79	II C 0 g 区試掘	深鉢	口～肩	連続刺突区画 半裁竹管文 口唇部刻目肥厚	I 3
88	82	II C 区検出	深鉢	頸	連続刺突区画 半裁竹管文	I 3
89	336	III D 0 a・b 区 I 層	深鉢	口	波状口縁口唇刻み 波頂部稍円形文	I 3
90	149	II B 5 j 区風倒木	深鉢	口	刺突中心に斜位に太い沈線 頸部刺突列 すす	I 3
91	150	II B 5 j 杭周辺検出	深鉢	口	刺突中心に斜位に太い沈線 頸部刺突列 口唇刻み	I 3
92	344	III D 4 h 区 I 層	深鉢	口	口線上部及び頸部列点 竹管文	I 3
93	187	II C 6 g 区 I 層	深鉢	口	頸部刺突列区画 ボタン状貼付 廓沈線 すす	I 3
94	345	III D 4 a 区検出	深鉢	口	口線上部及び頸部列点 竹管文	I 3
95	205	II C 7 b 杭周辺検出	深鉢	口	波状口縁 頸部連続山形文	I 3
96	233	III C 0 f・g 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 口唇折り返し厚体押圧 L R 横 内面すす	I 3
97	232	III C 1 i・j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 懸垂墻帶指頭圧模 平行沈線圓底体押圧	I 3
98	113	II C 3 a 区粗堀	深鉢	口	頸部2条1対懸垂墻帶指頭突 連続山形文	I 3
99	340	III D 0 a・b 区検出	深鉢	頸	頸部列点 ボタン状貼付 曲線文 すす	I 3
100	76	II C 0 g 区試掘	深鉢	肩	半裁竹管刺突列	I 3
101	81	II C 0 g 区試掘	深鉢	肩	半裁竹管刺突列	I 3
102	72	III C 5 g 区 I 層	深鉢	口	中空突起	II
103	114	II C 3 d 区 I 層	深鉢	口	頸部隆起	II
104	106	II C 3 c・d 区粗堀	深鉢	口	頸部隆起	II
105	230	III C 0・1 j 区粗堀	深鉢	口	頸部隆起	II
106	62	II C 4 e 区風倒木	深鉢	口～肩	波状口縁6単位 連鎖状隆帯 刺突 R L R 縦 すす	III 1
107	96	II C 1 d 区 I 層	深鉢	口	連鎖状隆帯	III 1
108	181	II C 6 g 杭周辺 I 層	深鉢	口	波状複合口縁 連鎖状隆帯	III 1
109	194	II C 6 g 杭周辺 I 層	深鉢	口	波状口縁 連鎖状隆帯 R L 縦	III 1
110	200	II C 7 f 杭周辺 II 層	深鉢	頸	連鎖状隆帯頸部連結 ボタン状貼付 弧状文 捕糸	III 1
111	346	III D 1 a・b 区 I 層	深鉢	口	波状口縁 連鎖状隆帯懸垂頸部連結 楕円形文	III 2
112	145	II C 4 h 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 連鎖状隆帯懸垂 曲線文 L R 縦	III 2
113	90	II C 1 d 区 I 層	深鉢	口	波状口縁 連鎖状隆帯 弧状文	III 2
114	212	II C 8 e 区 I 層	深鉢	肩	連鎖状隆帯 沈線捲巻文	III 2
115	171	II C 6 f 区 I 層	深鉢	肩	連鎖状隆帯 弧状文 R L 縦 すす	III 2
116	174	II C 6 f 区 I 層	深鉢	頸	連鎖状隆帯結合部ボタン状貼付 弧状文	III 2
117	66	II C 9 j 区 II 層	深鉢	肩	平行沈線縦区画内部曲線文	III 3
118	66	II C 9 j 区 II 層	深鉢	肩	平行沈線縦区画内部曲線文	III 3
119	67	II D 1 c 区 I 層	浅鉢	口～底	平行沈線捲巻文弧状文 脣部中央上下区画 木葉痕	III 3
120	307	III C 6 i 区粗堀	深鉢	口	中空突起 橫状把手 沈線文 刺突	III 3

土器・土製品觀察表

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
121	160	II C 5 g 区検出	深鉢	口～胴	中空突起 植状把手 平行沈線弧状文 L R 縦 すす	III 3
122	77	II C 区検出	深鉢	口	中空突起 平行沈線文	III 3
123	242	III C 2 i 区粗堀	深鉢	口	横状把手 曲線文 刺突	III 3
124	158	II C 5 h - i 区粗堀	深鉢	口	中空突起 頭部内外隣帶	III 3
125	122	II C 4 e 区風倒木	浅鉢	口	中空突起	III 3
126	245	III C 3 j 区試掘	深鉢	口	中空突起 曲線文 摂糸	III 3
127	71	III C 5 i 区 I 層	深鉢	口～胴	波状口縁 背部隆起 沈線弧状文 L R 縦	III 3
128	139	II C 4 f 区風倒木	深鉢	口	波状口縁 頭部平行沈線	III 3
129	92	II C 1 e 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 波頂部下部沈線横円文	III 3
130	86	II C 1 a 区試掘	深鉢	口	波状口縁 沈線文 すす	III 3
131	116	II C 3 c 区風倒木	深鉢	口	頭部沈線区画 平行沈線弧状文	III 3
132	143	II C 4 h 区粗堀	深鉢	口	波状複合口縁 曲線文 摂糸	III 3
133	105	II C 3 d 区 I 層	深鉢	口	波状口縁 波頂部刺突沈線連結 すす	III 3
134	131	II C 4 e - f 区粗堀	深鉢	口～胴	豊臣 2 条沈線頭部で曲がる ポタン状貼付 弧状文	III 3
135	155	II C 5 f 区 I 層	深鉢	口～胴	波状口縁頂部下部刺突 沈線区画内曲線文 L R 縦	III 3
136	161	II C 5 g 区粗堀	深鉢	口	沈線曲線文 L R 縦	III 3
137	164	II C 5 i 区検出	深鉢	口	複合口縁 曲線文	III 3
138	176	II C 6 b 区試掘	深鉢	口～胴	曲線文弧状文 摂糸 すす	III 3
139	207	II C 7 d 区検出	深鉢	口	複合口縁 2 個 1 対刺突下部横円形文 L R 縦	III 3
140	214	II C 8 h 区風倒木	深鉢	口	波状口縁頂部刺突 沈線弧状文 すす	III 3
141	224	II D 8 c 区検出	深鉢	口	波状複合口縁 S 字状文 弧状文	III 3
142	226	II D 9 b 桃周辺検出	深鉢	口	波状口縁頂部下部円形文 弧状文 摂糸	III 3
143	228	II D 9 c 区検出	深鉢	口～胴	波状複合口縁頂部下部貫通孔 平行沈線弧状文	III 3
144	235	III C 2 d 区 I 層	深鉢	口～胴	頭部沈線区画 S 字状文 摂糸 すす	III 3
145	239	III C 2 c 区粗堀	深鉢	口	頭部沈線 すす	III 3
146	241	III C 2 e 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 弧状文 摂糸	III 3
147	259	III C 4 g 区 I 層	深鉢	口	波状口縁 沈線文 R L 縦	III 3
148	264	III C 4 j 区試掘	深鉢	口	波状口縁 頭部沈線区画 弧状文 R L 縦 すす	III 3
149	271	III C 5 h 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 弧状文 摂糸 すす	III 3
150	257	III C 4 d 区検出	深鉢	口	頭部沈線 摂糸	III 3
151	240	III C 2 d 区 I 層	深鉢	口	波状口縁頂部刺突 隣帶壓垂 すす	III 3
152	269	III C 4 - 5 j 区粗堀	深鉢	口	弧状文 刺突	III 3
153	251	III C 3 c 区検出	深鉢	口～胴	渦巻文 摂糸	III 3
154	252	III C 3 c 区検出	深鉢	口～胴	頭部沈線 摂糸	III 3
155	281	III C 5 j 区 I 層	深鉢	口～胴	波状口縁 波頂部下部列点 弧状文 曲線文 摂糸	III 3
156	282	III C 5 g 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 波頂部刺突 曲線文 L R L 縦	III 3

土器・土製品調査表

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
157	285	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	頸部沈線区画 弧状文 撚糸	III 3
158	287	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 波頂部刺突 曲線文 撚糸	III 3
159	288	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 頸部隆帯 曲線文 撚糸	III 3
160	291	III C 5 g 区粗堀	深鉢	口～肩	波状口縁 波頂部渦巻文 楕円形文 L R 橫	III 3
161	293	III C 5 e 区検出	深鉢	口～胴	頸部沈線区画 撚糸	III 3
162	294	III C 5 d 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 頸部隆帯 弧状文	III 3
163	296	III C 5 i 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 波頂部刺突 楕円形文	III 3
164	299	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 頸部沈線 L R 斜	III 3
165	300	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 波頂部下部円形文 弧状文 L R 縦	III 3
166	301	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 波頂部下部円形文 弧状文 L R 縦	III 3
167	302	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口	頸部沈線区画 弧状文 R L R 縦	III 3
168	304	III C 5 j 区粗堀	深鉢	口～肩	頸部沈線区画 曲線文 R L 斜	III 3
169	305	III C 6 e 区楓倒木	深鉢	口～肩	波状口縁頂部刺突 頸部沈線区画 弧状文 R L 縦	III 3
170	308	III C 6 h 区検出	深鉢	口	波状口縁 頸部隆帯 弧状文	III 3
171	311	III C 6 e 杖周辺I層	深鉢	口	頸部沈線区画 曲線文 L R 縦 すす	III 3
172	316	III C 6 j 区粗堀	深鉢	口	波状口縁 頸部隆帯 曲線文	III 3
173	318	III C 7 h 区検出	深鉢	口～肩	波状口縁 沈線区画内曲線文 撞糸	III 3
174	322	III C 7 f 杖周辺被出	深鉢	口	波状口縁 弧状文	III 3
175	329	III D 0 a・b 区I層	深鉢	口	平行沈線 曲線文 L R 橫	III 3
176	335	III D 0 a・b 区I層	深鉢	口	頸部隆帯 口唇から座帶懸垂 弧状文	III 3
177	337	III D 0 a・b 区I層	深鉢	口	波状口縁 頸部隆帯 曲線文	III 3
178	350	III D 1 a 区I層	深鉢	口	波状複合口縁 波頂部内外口唇刺突	III 3
179	351	III D 1 a 区I層	深鉢	口	波状口縁突起 すす	III 3
180	352	III D 5 a 区検出	深鉢	口～肩	波状口縁 曲線文 弧状文 R L 縦 すす	III 3
181	354	III D 1 a 区I層	深鉢	口	波状口縁 頸部隆帯 弧状文	III 3
182	355	III D 1 b 区I層	深鉢	口	波状口縁頂部刺み 刺突 弧状文 R L 縦 すす	III 3
183	97	II C 1 e 区I層	深鉢	胴	平行沈線弧状文 L R 橫 すす	III 3
184	101	II C 2 a 区試掘	深鉢	胴	頸部平行沈線区画 弧状文 撞糸 すす	III 3
185	104	II C 2 f 区粗堀	深鉢	胴	縦平行沈線 L R 橫 輪積断面に刺突痕	III 3
186	107	II C 3 d 区楓倒木	深鉢	胴	波状口縁 波頂部下部渦巻文 弧状文 R L 縦	III 3
187	108	II C 3 d 区楓倒木	深鉢	胴	渦巻文	III 3
188	210	II C 8 c 区試掘	浅鉢	胴	平行沈線区画内刺突 撞糸	III 3
189	124	II C 4 e 区楓倒木	深鉢	胴	平行沈線弧状文渦巻文 R L 縦	III 3
190	126	II C 4 e 区楓倒木	深鉢	胴	平行沈線区画内曲線文 すす	III 3
191	135	II C 4 f 区楓倒木	深鉢	胴	平行沈線弧状文渦巻文 L R 縦	III 3
192	162	II C 5 c 区粗堀	深鉢	頭～肩	平行沈線弧状文	III 3

土器・土製品觀察表

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
193	163	II C 5 h・i 区粗堀	深鉢	肩	平行沈線弧状文 曲線文 摺糸	III 3
194	166	II C 5 g 区粗堀	深鉢	肩	平行沈線弧状文 L R 横 すす	III 3
195	178	II C 6 d・e 区粗堀	深鉢	肩	平行沈線 無節 r	III 3
196	180	II C 6 g 杭周辺I層	深鉢	肩	平行沈線曲線文 L R 横	III 3
197	185	II C 6・7 d 区I層	深鉢	肩	弧状文 曲線文 L R 横	III 3
198	188	II C 6 d・e 区粗堀	深鉢	肩	平行沈線弧状文 摺糸	III 3
199	190	II C 6 f 区検出	深鉢	肩	平行沈線弧状文 摺糸	III 3
200	196	II C 7 j 区試掘	深鉢	頸～肩	頸部沈線区画 橢円形文 摺糸	III 3
201	243	III C 2 i 区粗堀	深鉢	肩	波状口縁内側円形文 頸部腰帯刺突 弧状文 摺糸	III 3
202	249	III C 3 h・i 区粗堀	深鉢	肩	曲線文 網目状摺糸	III 3
203	272	III C 5 i 区粗堀	深鉢	肩	橢円形文 摺糸	III 3
204	273	III C 5 i 区粗堀	深鉢	肩	弧状文 楕円形文 網目状摺糸	III 3
205	325	III C 区検出	深鉢	肩	弧状文 摺糸 すす	III 3
206	278	III C 5 i 区粗堀	深鉢	肩	弧状文 摺糸	III 3
207	343	III D 6 b 区検出	深鉢	肩	弧状文 曲線文 L R 横 すす	III 3
208	280	III C 5 f 区粗堀	深鉢	肩	弧状文 曲線文 L R 横	III 3
209	279	III C 5 f 区粗堀	深鉢	肩	橢円形文 R L 縦	II
210	298	III C 5 i 区粗堀	深鉢	肩	弧状文 O段多条 すす付着	III 3
211	286	III C 5 j 区粗堀	深鉢	頸	波状口縁突起欠損 頸部隆蒂 弧状文 刺突 摺糸	III 3
212	320	III C 7 f 杭周辺検出	深鉢	肩	弧状文 L R 斜	III 3
213	332	III D 0 a・b 区I層	深鉢	肩	平行沈線弧状文 摺糸	III 3
214	330	III D 0 a 区検出	深鉢	頸	平行沈線弧状文 潟巻文 すす	III 3
215	69	III C 4 d 区, 層	小型壺	口～肩	懸垂帶上下刺突 沈線曲線文	III 4
216	70	III C 4 c・d 区I層	壺	口～底	頸部I対貫通孔 平行沈線曲線文	III 4
217	244	III C 3 g 区粗堀	壺	頸	頸部隆蒂 L R 斜	III 4
218	266	III C 4 g・h 区粗堀	壺	頸	頸部2条隆蒂	III 4
219	63	II C 4 f 区, 層	深鉢	口～肩	波状口縁6単位 R L 横縞 すす	III 5
220	314	III C 6 g 区検出	深鉢	口	口縁沈線 すす	III 5
221	195	II C 6 g 杭周辺I層	深鉢	口	波状口縁 摺糸	III 5
222	80	II C 0 g 区試掘	深鉢	口	波状口縁 無節 L 横 すす	III 5
223	65	II C 4 e 区風倒木	深鉢	口～肩	波状口縁 R L 横縞 すす	III 5
224	313	III C 6 i 区粗堀	深鉢	口～肩	波状口縁 R L 縦 すす	III 5
225	127	II C 4 e 区風倒木	深鉢	口	波状口縁 L R 横	III 5
226	274	III C 5 i 区粗堀	深鉢	口～肩	網目状摺糸	IV
227	331	III D 0 a・b 区検出	深鉢	口～肩	L R 縦	IV
228	255	III C 4 f 区I層	深鉢	口～肩	網目状摺糸	IV

土器・土製品観察表

No.	仮	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
229	98	II C 1 f 区粗堀	深鉢	脇	網目状撚糸	IV
230	110	II C 3 j 区試掘	深鉢	脇	網目状撚糸	IV
231	284	III C 5 j 区粗堀	深鉢	底	ミニチュア	IV
232	74	III D 0 b 区風倒木	深鉢	底	小型 焼成	IV
233	138	II 4 e 区風倒木	深鉢	底		IV
234	147	II B 3 i 区1層	深鉢	底		IV
235	117	II C 3 d 区風倒木	深鉢	底		IV
236	218	II C 9 f - g 区粗堀	深鉢	底		IV
237	256	III C 4 c 区I層	深鉢	底		IV
238	223	II D 1 d 区検出	深鉢	底		IV
239	141	II C 4 e 区風倒木	深鉢	底	網代痕	IV
240	132	II C 4 a 区粗堀	深鉢	底	焼成	IV
241	209	II C 7 b 杭周辺検出	深鉢	底		IV
242	118	II C 3 c 区風倒木	深鉢	底		IV
243	119	II C 3 d 区風倒木	深鉢	底		IV
244	140	II C 4 f 区風倒木	深鉢	底		IV
245	248	III C 3 d 杭周辺検出	深鉢	底	網代痕	IV
246	93	II G 1 f 区II層	深鉢	底	木葉痕	IV
247	78	II C 0 f 区粗堀	深鉢	底	木葉痕	IV
248	277	III C 5 i 区粗堀	深鉢	底	網代痕	IV
249	219	II C 9 l - j 区粗堀	深鉢	底		IV
250	189	II C 6 f 区検出	深鉢	底		IV
251	342	III D 区粗堀	深鉢	底	木葉痕	IV
252	234	III C 1 e - f 区粗堀	深鉢	底	木葉痕(笹)	IV
253	130	II C 4 e 区風倒木	深鉢	底	網代痕	IV
254	312	III C 6 h 区風倒木	深鉢	底	木葉痕 すす	IV
255	326	III C 区検出	深鉢	底	木葉痕 すす	IV
256	191	II C 6 h - i 区粗堀	深鉢	底	木葉痕(笹)	IV
257	73	III D 8 f 区I層	深鉢	脇	無筋 L 斜 すす	V
258	250	III C 3 f 区風倒木	浅鉢	口～脇	口唇沈線 变形工字文	V
259	261	III C 4 f 区検出	浅鉢	底	L R 横	V
260	362	III C 5 i 区検出	円盤状		径3. 6 × 3. 3 mm 厚さ7mm 重量11. 0 g	
261	363	III C 6 i 区検出	円盤状		径4. 3 × 4. 2 mm 厚さ8mm 重量16. 0 g	
262	361	II C 4 f 区風倒木	円盤状		径4. 8 × 4. 4 mm 厚さ8mm 重量22. 4 g	
263	360	II C 4 e - f 区風倒木	円盤状		径5. 3 × 5. 2 mm 厚さ8mm 重量27. 7 g	
264	359	II C 4 e 区風倒木	円盤状		破損 径5. 6cm 厚さ8mm 重量19. 4 g	

土器・土製品調査表

No.	仮	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質	产地
19	105	II C 9 j 住埋土	不定形	E 3	6.2	4.1	1.7	247	付着物	頁岩	奥羽山脈
23	77	III C 0 e 住埋土	磨石類	G 1	11.8	7.1	3	295	破損	安山岩	奥羽山脈
45	100	III C 3 g 住P 7	範状石器	D 2	8.1	5.4	2.6	922		赤色頁岩	奥羽山脈
46	104	III C 3 g 住埋土	不定形	E 2	2.8	1.7	0.7	25		頁岩	奥羽山脈
47	15	III C 3 g 住埋土	磨製石斧	F	6.8	4.6	1.6	635	破損	泥岩	奥羽山脈
48	85	III C 3 g 住埋土	磨石類	G 2	10.5	7.7	4.7	540		安山岩	奥羽山脈
49	73	III C 3 g 住P 11	磨石類	G 1	9.5	6.6	4.4	380		安山岩	奥羽山脈
50	80	III C 3 g 住床面	磨石類	G 1	8.5	8.6	5.9	565	破損	花崗岩	奥羽山脈
51	101	III C 3 g 住床面	磨石類	G 2	4.3	5	3.6	491		玄武岩質溶岩	奥羽山脈
52	29	III C 3 g 住P 12	石製凹盤	H 2	4.3	4.7	1.2	331		泥岩	奥羽山脈
66	88	II C 4 f 土坑埋土	磨石類	G 2	9.9	9.7	5.6	650		安山岩質溶岩	奥羽山脈
67	90	II C 4 f 土坑埋土	磨石類	G 1	18.6	8	4.7	1020		安山岩	奥羽山脈
68	63	II C 4 f 土坑埋土	剥片	I	1.2	2.1	0.4	0.69		黒曜石	花崗
71	1	III C 0 j 土坑埋土	不定形	E 1	3	2	0.9	3.1	破損	珪質頁岩	奥羽山脈
265	53	II C 6 f 区	石鏟	A 1	2.4	1.9	0.8	23		瑪瑙	奥羽山脈
266	54	II C 5 d 杭周辺	石鏟	A 1	2.8	1.5	0.4	15		頁岩	奥羽山脈
267	55	II C 5 h 杭周辺	石鏟	A 1	1.7	1.7	0.35	0.63		赤色頁岩	奥羽山脈
268	56	II C 6 b 区	石鏟	A 2	2.4	1.3	0.4	0.76	破損	珪質頁岩	奥羽山脈
269	49	II B 2 i ~ 3 i 区	石匙	B 1	7.3	2.1	1.2	161	破損?	頁岩	奥羽山脈
270	36	II C 7 b 杭周辺	石匙	B 1	7.7	3.5	1.5	30		頁岩	奥羽山脈
271	59	III C 1 j 区	石匙	B 1	4.65	2.8	1.65	7.3		頁岩	奥羽山脈
272	57	II C 6 f 区	石匙	B 1	5.6	3.45	0.6	104		頁岩	奥羽山脈
273	58	II B 5 j 杭周辺	石匙	B 1	5.7	3.1	0.7	114	破損	頁岩	奥羽山脈
274	50	II C 8 b 杭周辺	石匙	B 2	3.6	5	1.1	134		頁岩	奥羽山脈
275	5	III C 5 h 区	石堆	C	3.5	235	0.8	63		頁岩	奥羽山脈
276	34	III C 2 f 区	範状石器	D 1	8.9	3.8	1.9	728		頁岩	奥羽山脈
277	9	II C 5 c 区	範状石器	D 2	11.7	4.1	1.8	935		頁岩	奥羽山脈
278	20	II C 5 b 区	範状石器	D 2	8.4	4	1.6	595		頁岩	奥羽山脈
279	2	II B 0 j 区	範状石器	D 2	10.6	3.8	1.6	651		頁岩	奥羽山脈
280	13	IVD 5 b 区	範状石器	D 2	11.1	4.9	2.9	142		ホルンフェルス	北上山地
281	7	II C 7 e 区	範状石器	D 2	10.4	4.3	1.7	964	摩滅	ホルンフェルス	北上山地
282	32	III C 3 b 区	範状石器	D 2	6.8	3.7	1.7	403		頁岩	奥羽山脈
283	33	II C 9 d 区	範状石器	D 2	7	4.4	1.2	447		頁岩	奥羽山脈
284	38	II C 2 a 区	範状石器	D 2	5.8	3.4	1.3	257		頁岩	奥羽山脈

長さ・幅・厚さの単位はmm、重量の単位はg

No.	仮	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質	产地
285	42	II C 5 b 杭周辺	圓状石器	D 2	5.2	3.6	1.1	224		頁岩	奥羽山脈
286	37	III C 3 e 区	圓状石器	D 2	7.8	4.3	2.3	799		ホルンフェルス	北上山地
287	93	III C 1 c 区	圓状石器	D 2	7	4.4	1.6	41	破損	頁岩	奥羽山脈
288	39	II C 2 a 区	圓状石器	D 2	8.4	4.6	2.5	861		頁岩	奥羽山脈
289	45	III C 5 g 区	圓状石器	D 2	5.8	4.2	1	31.9		珪質頁岩	奥羽山脈
290	23	III C 9 j 区	不定形	E 1	2.6	1.7	0.6	21	破損	頁岩	奥羽山脈
291	27	II B 2 i ~ 3 i 区	不定形	E 1	2.4	1.9	0.5	15	破損	頁岩	奥羽山脈
292	96	III C 5 i 区	不定形	E 1	2.3	1.7	0.6	21.3		黒曜石	花崗
293	35	II C 4 e 区	不定形	E 1	3.5	3.1	1	85		頁岩	奥羽山脈
294	46	III C 3 f 区	不定形	E 1	2.5	3.3	0.7	9.1	破損	頁岩	奥羽山脈
295	51	II C 9 e 区	不定形	E 1	3.2	4.4	1.15	10.9		頁岩	奥羽山脈
296	25	III C 7 g 区	不定形	E 1	5.4	2.9	0.7	11.8		頁岩	奥羽山脈
297	19	II C 7 d 区	不定形	E 1	7.2	2.6	1.1	24.4		頁岩	奥羽山脈
298	97	III C 4 c 区	不定形	E 1	5.3	3.9	1.5	25.7		頁岩	奥羽山脈
299	48	III D 1 a 区	不定形	E 2	2.3	2	0.5	1.5		頁岩	奥羽山脈
300	61	III D 1 a 区	不定形	E 2	2.4	1.7	3	2.1		頁岩	奥羽山脈
301	11	III C 5 i 区	不定形	E 2	3	3	1.1	12.2	破損	頁岩	奥羽山脈
302	52	III D 5 a 区	不定形	E 2	5.2	2.7	0.4	6		頁岩	奥羽山脈
303	62	II D 9 e 区	不定形	E 2	2.7	4.6	1.1	15.6		珪質頁岩	奥羽山脈
304	47	III C 4 f 区	不定形	E 2	4.8	2.7	0.8	10.4		頁岩	奥羽山脈
305	4	III C 4 f 区	不定形	E 2	4.7	4.2	1.65	16		頁岩	奥羽山脈
306	24	II C 1 d 区	不定形	E 2	6.3	4.1	1	18.4		頁岩	奥羽山脈
307	94	III C 1 e ~ f 区	不定形	E 2	5.6	4.4	1.9	44.9		頁岩	奥羽山脈
308	92	II C 5 h ~ i 区	不定形	E 2	5.9	4.6	0.8	15.5		頁岩	奥羽山脈
309	102	II C 6 f 杭周辺	不定形	E 2	6	4.3	1.1	31.8		頁岩	奥羽山脈
310	22	II C 6 b 区	不定形	E 2	5.1	6.1	1.1	23.2		頁岩	奥羽山脈
311	14	II C f o 区	不定形	E 2	9.8	5.1	1.1	48.7		頁岩	奥羽山脈
312	8	I C 9 f 区	不定形	E 2	12.1	5.5	1.6	81.7		頁岩	奥羽山脈
313	10	D 4 区	不定形	E 2	7.1	6.8	1.9	76.8		頁岩	奥羽山脈
314	21	III C 3 g 区	不定形	E 3	3.1	2.7	0.8	5.3		頁岩	奥羽山脈
315	41	III C 3 h 区	不定形	E 3	7.3	3.9	1.1	25.3		頁岩	奥羽山脈
316	18	II C 8 f 区	不定形	E 3	8.3	4.4	1	38.7		頁岩	奥羽山脈
317	95	II D 6 c 区	不定形	E 3	6.7	6.6	1.5	75.9		頁岩	奥羽山脈
318	16	III D 区	磨製石斧	F	7.9	4	2.7	135		花崗閃綠岩	奥羽山脈
319	30	II C 9 j 杭周辺	磨製石斧	F	6.7	3.9	2.2	97.3	破損	閃綠岩	奥羽山脈
320	40	III C 5 i 区	磨石類	G 1	4.3	2.6	1.4	21.6		泥岩	奥羽山脈

石器鑑察表

No.	仮	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質	产地
321	17	II C 9 f 区	磨石類	G 1	3.6	3.4	2.4	26		凝灰岩	奥羽山脈
322	12	II C 4 d 区	磨石類	G 1	4.1	3.9	1.5	30.9		凝灰岩	奥羽山脈
323	81	III C 5 d 区	磨石類	G 1	4	4.1	3.7	60		凝灰岩	奥羽山脈
324	79	II C 5 g 区	磨石類	G 1	5.4	4.1	3.7	105		安山岩	奥羽山脈
325	74	III C 5 j 区	磨石類	G 1	7.8	6.6	6.3	490		安山岩	奥羽山脈
326	68	III C 6 c 区	磨石類	G 1	11.9	7.3	5.5	690		安山岩	奥羽山脈
327	6	II C 4 h 区	磨石類	G 2	5.1	3.8	2.4	42.4	破損	凝灰岩	奥羽山脈
328	91	II C 7 f · g 区	磨石類	G 1	4.7	4.3	4.3	57		凝灰岩	奥羽山脈
329	67	III C 5 j 区	磨石類	G 2	12.9	7.6	3.6	270	破損？	凝灰岩	奥羽山脈
330	83	II C 7 h 杭周辺	磨石類	G 2	9	7.7	4.4	425		安山岩	奥羽山脈
331	87	III C 4 f 区	磨石類	G 2	11.6	7.6	4.1	555		安山岩	奥羽山脈
332	65	III C 6 h 区	磨石類	G 4	12.6	7.5	5.4	640	磨・敲	石英安山岩	奥羽山脈
333	66	II C 8 i 区	磨石類	G 4	9.9	7.5	4.8	480	磨・凹	安山岩	奥羽山脈
334	70	III C 6 e 杭周辺	磨石類	G 4	7.6	6.8	5	260	有溝砥石	凝灰岩	奥羽山脈
335	69	II C 9 e 区	磨石類	G 4	15.8	5.3	3	290	凹・敲	泥岩	奥羽山脈
336	75	III C 2 a 区	磨石類	G 4	9.5	7.8	4.1	430	磨・凹・敲	安山岩	奥羽山脈
337	72	I B 1 f 区	磨石類	G 4	10.1	7.9	4.4	435	磨・凹	安山岩	奥羽山脈
338	82	III C 4 d 区	磨石類	G 4	4.7	5.3	4.6	155	磨・敲	石英安山岩	奥羽山脈
339	71	III C 3 g 区	磨石類	G 4	12.1	6.5	4.7	465	磨・敲	安山岩	奥羽山脈
340	76	II C 6 i 杭周辺	磨石類	G 4	11.8	9.7	5.5	1000	磨・凹	安山岩	奥羽山脈
341	78	II C 4 e 区	磨石類	G 4	11.3	7.4	4.3	78	磨・敲	安山岩	奥羽山脈
342	84	II C 7 h 杭周辺	磨石類	G 4	10.8	7.7	4.5	510	磨・敲	安山岩	奥羽山脈
343	89	III C 4 i 区	磨石類	G 4	11.2	8	4.6	530	磨・敲	安山岩	奥羽山脈
344	86	II C 7 j 杭周辺	磨石類	G 4	19.4	11.2	4.9	1110	磨・凹	砂岩	奥羽山脈
345	31	II C 0 d 区	磨石類	G 5	3.4	4	1.9	295		泥岩	奥羽山脈
346	64	III C 3 f 区	石製品	H 1	24	15	0.8	29	破損？	凝灰岩	奥羽山脈
347	44	II C 7 h 杭周辺	石製円盤	H 2	2.7	4.8	1	162	破損	泥岩	奥羽山脈
348	60	III C 6 e 区	石製円盤	H 2	3.9	4.3	0.9	169		泥岩	奥羽山脈
349	28	II C 6 g 杭周辺	石製円盤	H 2	4.6	4.7	1.1	245	両面磨り	凝灰岩	奥羽山脈
350	98	II C 6 b 区	石製円盤	H 2	4.9	4.9	1.3	37		泥岩	奥羽山脈
351	43	II C 7 h 杭周辺	石製円盤	H 2	5.2	5.6	1.2	43.7		泥岩	奥羽山脈
352	3	II C 6 g 杭周辺	石製円盤	H 2	4.8	5.2	1.4	41.6		泥岩	奥羽山脈
353	26	I D 9 b 区	剥片	I	23	19	1	29		黒曜石	置戸
354	103	III C 5 f 杭周辺	剥片	I	22	17	0.4	1		黒曜石	花泉
355	99	II C 9 e 区	剥片	I	19	33	0.5	331		黒曜石	男鹿

石器観察表

番号	仮番	出土地点	材質	特　　微	径(mm)	重量(g)
356	365	II C 6 e 区粗堀	銅	永樂通宝 (鋳錢1408年)	245	31
357	364	III D 8 b 区粗堀	銅	古寛永 (鋳錢1633～1659年)	235	30
358	366	III D 9 a 区試掘	銅	新寛永 (鋳錢1697～1747年、1767～1781年)	235	22
359	367	III D 9 a 区試掘	銅	新寛永 (鋳錢1697～1747年、1767～1781年)	235	25
360	368	III D 9 b 区試掘	銅	新寛永 (鋳錢1697～1747年、1767～1781年)	245	19

古銭一覧表

V. まとめ

今回の発掘調査で検出された遺構と遺物について簡単に整理し、遺跡についてのまとめとしたい。

1. 遺構

(1) 住居跡・土器埋設遺構・焼土

竪穴住居跡は8棟検出された。そのほかに焼土や焼土を伴う土器埋設遺構も住居跡の戸の可能性がある。住居と確認された8棟は、その規模から大きめの住居跡（長径3.7～5.3m）と小さめの住居跡（2.2～3m）の大小2通りに分けられる。遺構配置図を見ると大小の住居は近接して立地しているように見える。最も近いのはII C 8 j 住居とII C 9 j 住居で14m、一番離れているIII C 3 g 住居とIII C 3 d 住居は約8mである。また、大きめの住居は柱穴が検出されているが、小さめの住居には検出されず、炉が検出されないものもある。その床面には立石が構築されていた。小さめの住居からの遺物が少ないため、大きめの住居と同時期のものはつきりしないが、周辺から出土する遺物はほとんど時期差がないので、同時期のものと考えるのが妥当である。ということは、本遺跡の集落は、大小2棟の組み合わせによる数単位から構成されていたと考えられるが、大小の住居の持つ意味の違いや集落の構造を考えるには、他の遺跡の同様な類例を参考にしなければならないであろう。出土遺物を見ると、この集落は縄文時代後期前葉という限られた時期、そして焼土の焼成があり良いことから、生活が営まれた期間は短期間だったようである。

土器埋設遺構としたものは、III C 3 g 住居跡の西側4mに構築されている。柱穴検出のために、土器の周辺を掘り下げてみたが検出されなかつた。前述の小さめの住居跡に柱穴が検出できなかつた例もあるので、住居跡の可能性が高い。

焼土遺構も2基検出されているが、焼成は2基とも良くない。土器埋設遺構と同様に住居跡の可能性もある。

(2) 土坑

検出された土坑は23基で、その内縄文時代の遺構と見られるのは21基である。遺構内からの遺物の出土があるのはII C 3 e、II C 4 f、III C 4 fの各土坑で、これらは出土遺物からいずれも縄文時代後期前葉の遺構と見られる。その他の土坑については埋土や検出面から縄文時代と判断した。検出された土坑は、断面形、平面形の特徴から3つに分類した。平面形が円形あるいは円形に近い楕円形で断面形がフラスク形のもので、遺物を伴う3つの土坑はこのタイプである。次は、平面形は長楕円形で断面形が浅皿状のものと、平面形が楕円形や不整の楕円形で断面形が筒形、バケツ形のものである。いずれも遺物を伴わないが⁵、前者は他の遺跡の調査例からは墓壙の可能性があり、後者は一部柱痕の見られるものもあるので、掘立柱建物跡の可能性も考えられるが整然と並ぶものはない。後期の土器が発見されている下原前II 遺跡でも墓壙と見られる土坑が多数検出されている。その土坑は住居域とは離れた地区に立地しているが、本調査区では、特に分かれていない。土坑の底付近で底部が欠損した横位の土器が出土しているII C 3 e 土坑も墓壙の可能性がある。そのほかに時期不明で近世以降の遺構とした2基の土坑は、底面が固結していることから柱痕と考えている。

(3) 溝跡・段状遺構

溝跡は調査区中央を横切るII B 6 i 溝跡と調査区南側を横切る、IV C 3 g 溝跡がある。2条とも遺跡の西側の沢の方から遺跡の下方に延びるようである。後者の溝は幅も深さも20cm程度であるが、前者の溝は幅最大140cm、深さ150cmもある。底には水が流れた痕跡があり、長い間使用されていたようである。遺跡下方の集落に水を引く施設であったようだが何時頃使用されていたのか確認はできなかつた。下方に集落が形成され

た時期は近世以降ということなのでその時期のものである可能性がある。

段状遺構としたものについては、道路跡あるいは烟跡等考えられるが決め手がない。埋土の状況から近世以降の遺構と見られる。

2. 遺物

(1) 土器・土製品

縄文時代早期～前期・中期末葉～後期初頭・後期前葉・晩期にわたる土器が出土している。早・前期および晩期の土器については全て遺構外からの出土で、その量も少ない。

早期～前期の土器は、調査区全体から出土しているが、西側の沢に近い地点からの出土が多く、特に斜面上方での出土が多い。最も古いと見られる繊維を含む土器は調査区西側および南端での出土量が多い。B地区からは同時期の遺構は検出されなかつたが、沢をはさんで西側に位置するA地区で、中期末～前期の時期の住居が検出されているので、その住居の時代に伴うものであろう。前期後半の特徴を持つ土器は調査区全体から出土している。1点のみの出土だが¹⁴ 単位の波状口縁で波頂部が台状突起になり、鋸歯状の装飾体になるものである。大木5式期の特徴を持つ土器である。もう一つは口縁部文様帯や胸部に半截竹管による平行沈線文や刺突文をもつもので、大木6式期と見られる土器である。

中期末葉～後期初頭とした土器は、J字状のモチーフをもつものや貼り付けた隆帯の断面が三角形を呈するもので、大木10式期の特徴をもつ土器である。^{III C 3 g} 住居跡の埋土下部からの出土であるが、胸部の一部のみなので詳細は不明である。

本遺跡で最も出土しているのが、後期前葉の土器である。調査区全体から出土している。その特徴は、連鎖状隆帯をもつもの（III群1類）、あるいは沈線により弧状文・曲線文を描き、その間に磨消繩文をしているものである（III群2・3類）。連鎖状隆帯は中期末から現れる特徴で、波状口縁の波頂部から懸垂するものや胸部をめぐらしがある。連結点にはボタン状の装飾をするものもある。胸部まで延びるものもあるが数は少ない。多いのは前述のボタン状貼付の下部から平行沈線で曲線文・弧状文を描くものと沈線のみで曲線文・弧状文を描くものである。これらは、貝島貝塚のII群1・2類、八天遺跡の第III群1・2・3類と4類の一部、立石遺跡（大迫町）の第III群第2・3・4類、觀音堂遺跡の第VI群1・2・3類にその類例が求められる。後藤（1974）の宮戸I b式a群としたものに含まれる土器である。しかし、県内のこの時期の遺跡は少なく、出土しても限られた時期に限定され、中期末～前期前葉に継続して発掘されることが少なかつたため、土器の編年も確立されていなかった。当センター発掘遺跡（報告書未刊）の清水遺跡（一関市）では同時期の包含層を発掘しており、この時期の編年には大きな資料を提供してくれると思われる。

晩期の土器はほんの僅かな出土で、変形工字文が施されている晩期末葉の時期の浅鉢と地紋のみの土器である。A地区の土坑や遺構外からも同時期の土器が出土している。

なお1点の破片だけだが、胸部の断面に幅2mm、深さ2～3mmの刺突（刺み）が10～17mmの感覚で並んでいるのが観察された。前述の清水遺跡でも同様な例が見られ、土器製作中に輪横粘土が接着しやすいように付けられたものと考えられる。

土製品は、土器片を利用した無孔の円盤状土製品で、長径は3.6～5.6cm、厚さ7～8mm、重量が11～27.7gである。遺構外からの出土した5点の内3点は^{II C 4 f} 住居跡周辺からである。製品の特徴や出土状況からは用途について言及することは困難であるが、土器片を利用した円盤状土製品については、佐々木（1988）、松下（1989）の論功がある。

	B		C										D									
	i	j	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	a	b	c	d	e	f	g	h	i	
I	8																					
	9																					
	0																					
	1																					
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					
	6																					
	7																					
II	8																					
	9																					
	0																					
	1																					
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					
	6																					
	7																					
III	8																					
	9																					
	0																					
	1																					
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					
	6																					
	7																					
IV	8																					
	9																					
	0																					
	1																					
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					
	6																					
	7																					

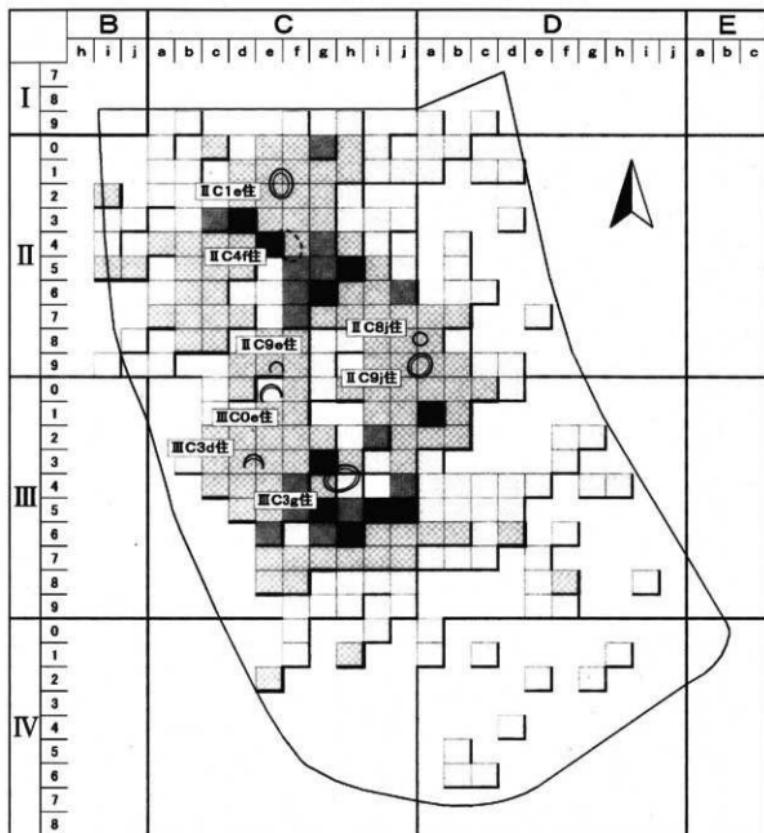
表5 土器(重量別)分布表

[g]

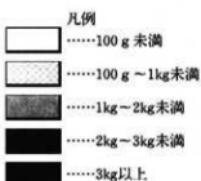
	B		C										D									
	i	j	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	a	b	c	d	e	f	g	h	i	
I	8																					
	9																					
	0								1		2											
	1							11	2		2	2										
	2	1	8					1	1	2		1										
	3	2	3					2	2	2	2	4	2									
	4							3	2	1	10	1	4	1								
	5	1	3	1	2			1		5	7	6	1	1								
	6		1	2	2					8	12	1		1								
	7		1	2	1	2			1		1	1		1								
II	8	1	3	2	1	2			1													
	9								2	3	1	1	3		2							
	0								1	1	3	1	2	8	2							
	1								2			1		24	4							
	2								2	1	5		2	3		1	2					
	3								3	3	30		1		1							
	4								2	2	2	4	1		1	1						
	5								3	9	1	3	7	6	1							
	6								1	2	5			1								
	7								3	4	1	2	1	2								
III	8								1	1	7	1										
	9								1	4		2										
	0								2	3	1	1	3		1							
	1								1		3											
	2								2													
	3								3													
	4								4													
	5								5													
	6								6													
	7								7													
IV	8								1		4		2									
	9								2													
	0								3													
	1								4													
	2								5													
	3								6													
	4								7													
	5								8													
	6								9													
	7								10													

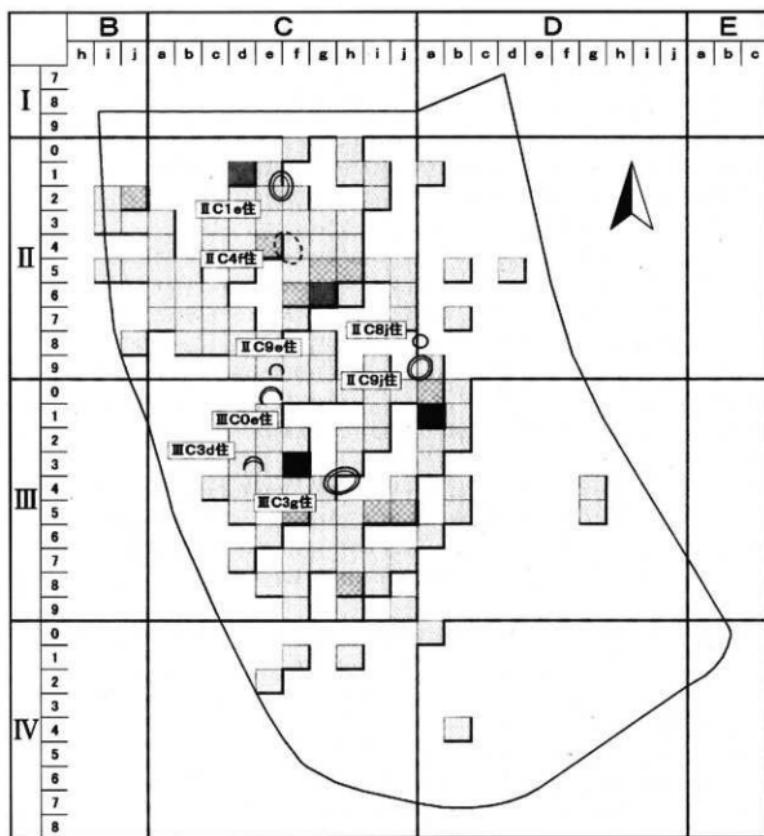
表6 剥片分布表

[点]



第45図 土器(重量別)分布図





● 第46図 剥片分布図

凡例

- | | |
|----|----------|
| □ | 1 ~ 5点 |
| ▨ | 6 ~ 10点 |
| ■ | 11 ~ 15点 |
| ■■ | 16点以上 |

(2) 石器・石製品

特に目に付くのは、錐状石器である。剥片石器53点中14点と網片石器の中では26.4%を占める。断面形が三角形を呈し身部が厚いものやホルンフェルスで製作されたものがある。また、縦型石匙の中に1点のみの出土だが横断面形が算盤玉状で身の厚いものがある。先端部が欠損しているが、スクレイパーとしての用途より尖頭器と同様な用途が考えられる形状をしている石器である。遠野市の新田II遺跡、釜石市の沢田2遺跡、湯田町清水ヶ野遺跡、千厩町清田台遺跡といった縄文時代前期の遺跡でも同様な石匙が出土している。

石製品は、径2.7~5.6cm、厚さ0.9~14cm、重量169~437gで、周囲を打ち削りたり、磨つて円形に加工しているものがある。調査区中央の住居に埋められた地区から多く出土している。

石質を見ると、剥片石器は頁岩が多く、礫石器は安山岩や凝灰岩が多い。基盤岩である石英安山岩も利用されている。これらは、遺跡が立地する奥羽山脈を産地とするものである。北上山地を産地とするホルンフェルスは、錐状石器にのみ利用されている。黒曜石は、遺構内出土および不定形石器としたものも含めて5点出土している。その产地は、佐々木繁喜氏（宮城県立若柳高校）によれば、花泉産3点、男鹿産？1点、北海道置戸産？1点となっている。在地産のものもあるが遠く北海道から運ばれてきた可能性もある。周辺の遺跡の例も参考にしなければならないが、当センター発掘の周辺遺跡（下原前II・IV遺跡、下原前II遺跡A地区）では、黒曜石の出土が少なく（3遺跡で発見は5点）、産地同定も行っていないので、今後調査される遺跡の出土に期待したい。

そのほかに調査区全体で461点の剥片が出土している。使用痕の認められるものも数点含むが、その分布はII C 4 f 住居付近、III C 4 f 土器埋設遺構周辺、II C 9 j 住居跡周辺に多く、調査区北西端のII B区にも出土が多い。II B区、II C区の調査区西寄りからは縄文時代早期末～前期の土器が比較的多く出土しているので、同地区で出土した剥片石器には早期末～前期の石器も含まれていると思われる。

(3) 古鏡

寛永通宝3枚と永楽通宝は、調査区中央やや南寄りから出土している。出土地点から北西数mの地点に「山神社（移転済み）」（胆沢町史III）があったようなので、関連があるかもしれない。

参 考 文 献

- 草間俊一ほか（1971）：『貝島貝塚』、花泉町教育委員会。
本堂寿一ほか（1978）：『八天遺跡』、岡版編 北上市文化財調査報告第24集。
〃（1979）：『八天遺跡』、本文編 北上市文化財調査報告第25集。
中村良幸（1979）：『立石遺跡』、大迫町埋蔵文化財報告第3集。
〃（1986）：『觀音堂遺跡』、大迫町埋蔵文化財報告第11集。
岩手県埋蔵文化財センター（1996）：『鳴岡崎上の古道跡発掘調査報告書』：岩文振埋文報第240集。
〃（1997）：『下原前II遺跡発掘調査報告書』：岩文振埋文報第252集。
〃（1998）：『下原前IV遺跡発掘調査報告書』：岩文振埋文報第269集。
〃（1999）：『下原前II遺跡A地区発掘調査報告書』：岩文振埋文報第288集。
後藤勝彦（1974）：『縄文後期宮戸Ib式周辺の吟味』、『東北の考古・歴史論集』。
胆沢町（1982）：『古代中世編』、『胆沢町史III』。
佐々木嘉直（1988）：『岩手県内出土の石製円盤・土製円盤』、岩文振埋文センター紀要VIII。
松下亘（1989）：『北海道の再生土製円盤』、北海道考古学第25号。

写 真 図 版





道路遠景（東から）



道路遠景（南から）

写真図版1 空中写真1



調査区全景（南から）



BC区基本土層断面



調査開始

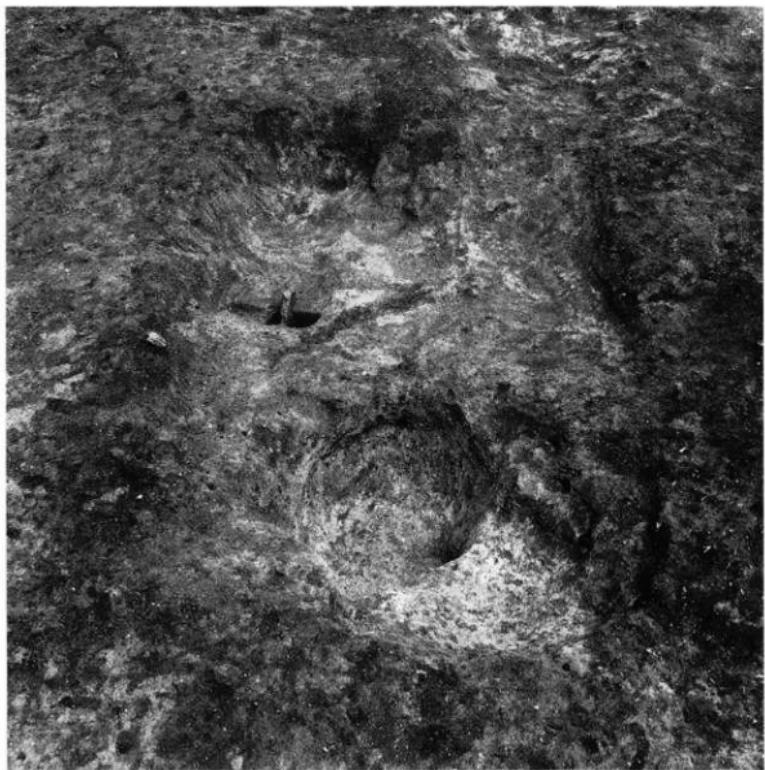


検出風景



精査風景

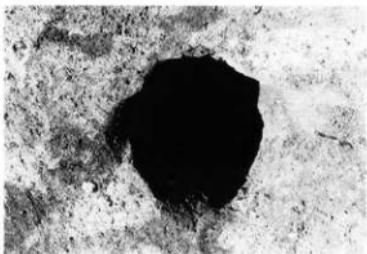
写真図版2 空中写真2・基本土層・作業風景



II C1e住居跡 平面



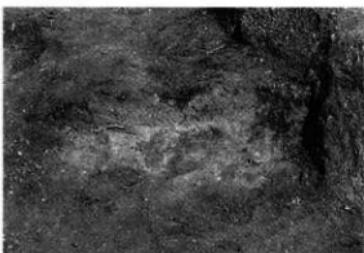
床面立石 断面



立石下土坑 平面



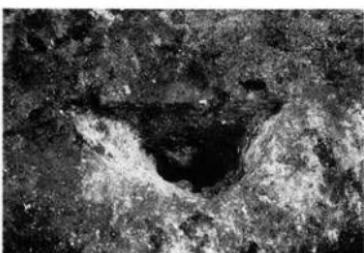
II C4 住居跡 平面



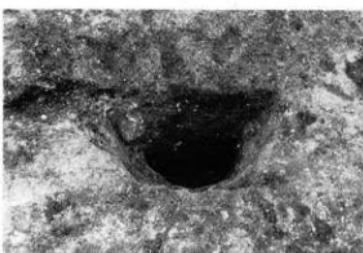
炉 断面



柱穴P1 断面



柱穴P2 断面



柱穴P3 断面

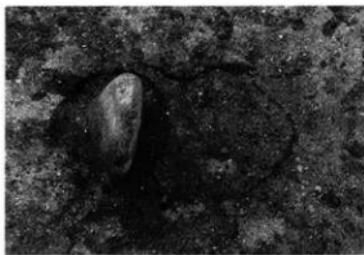
写真図版4 II C4 住居跡



II C8j住居跡 平面



断面



炉 平面



炉 断面

写真図版 5 II C8j住居跡



II C8住居跡 平面



断面

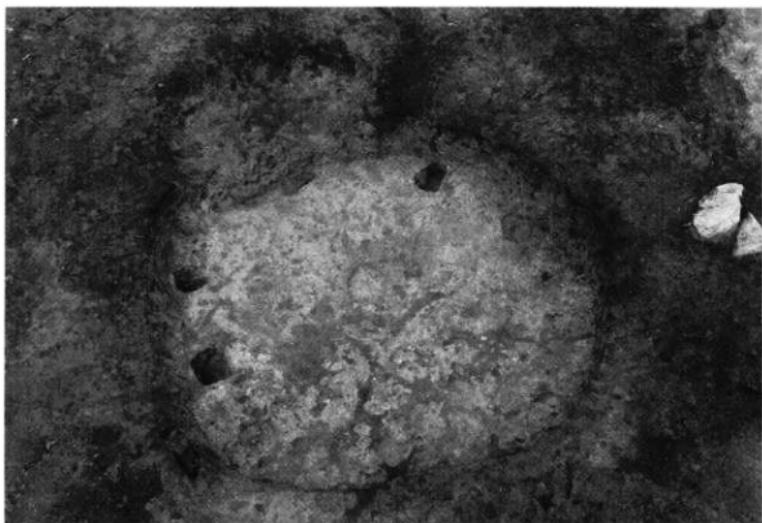


炉 断面



精査風景

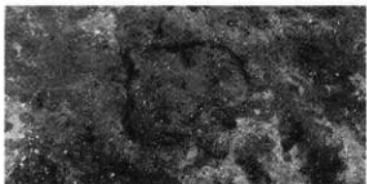
写真図版 6 II C9e住居跡



II C9住居跡・土坑 平面



断面



炉 平面



炉 断面

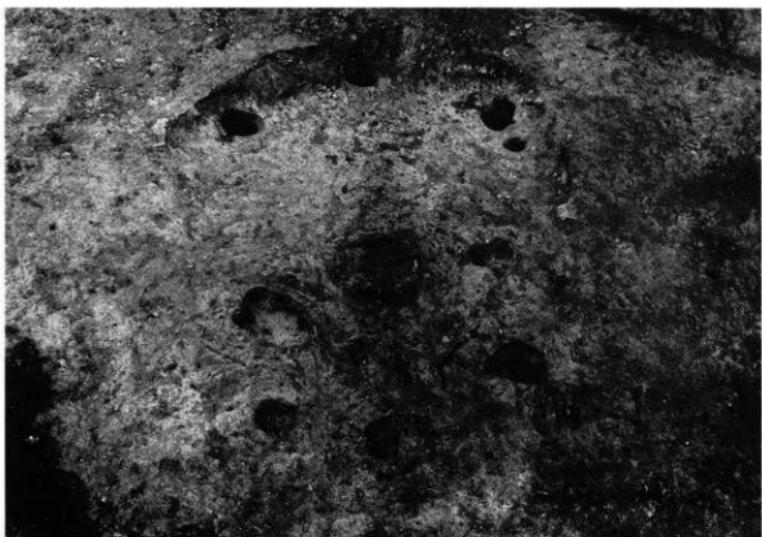


配石 平面



配石 断面

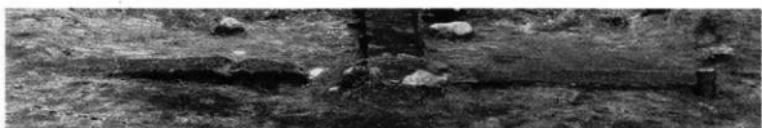
写真図版 7 II C9住居跡・土坑



III C0e住居跡 平面



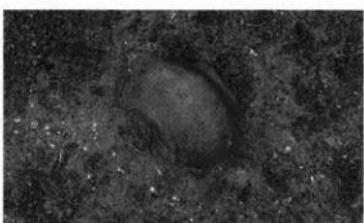
断面（西から）



断面（南から）

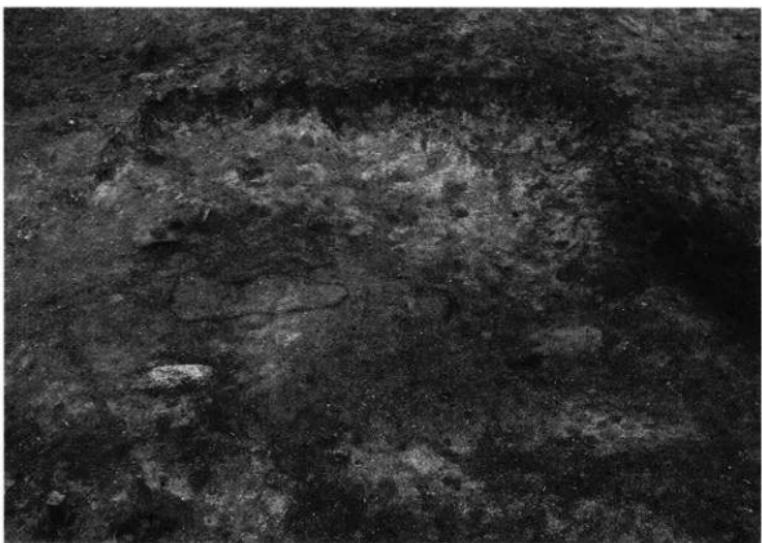


炉 断面

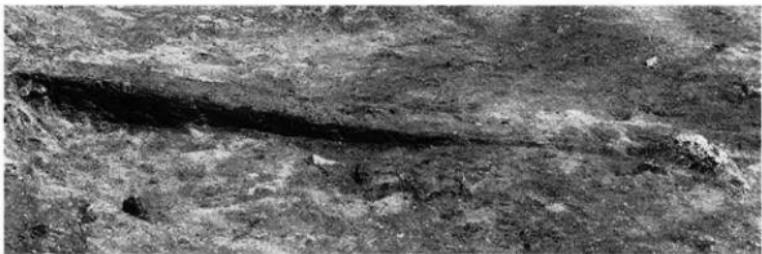


遺物出土状況

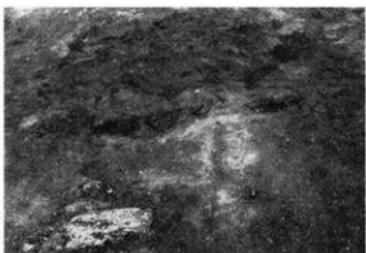
写真図版 8 III C0e住居跡



III C3d住居跡 平面



断面



炉 断面



立石断面

写真図版 9 III C3d住居跡



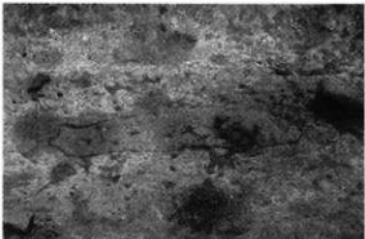
III C3g住居跡 平面



断面（西から）



断面（南から）

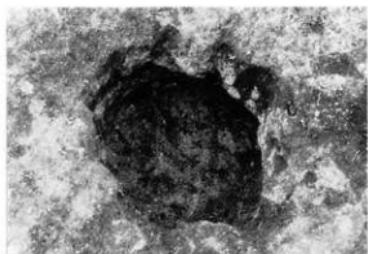


炉 平面



炉 断面

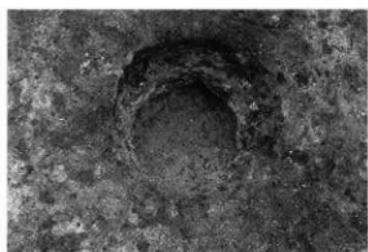
写真図版10 III C3g住居跡



II C9a土坑 平面



断面



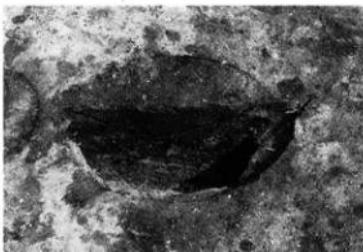
II COe土坑 平面



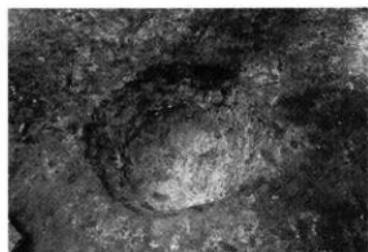
断面



II COh土坑 平面



断面

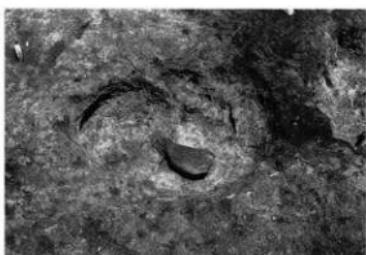


II CO土坑 平面



断面

写真図版11 土坑1



II C2e ①·②土坑 平面



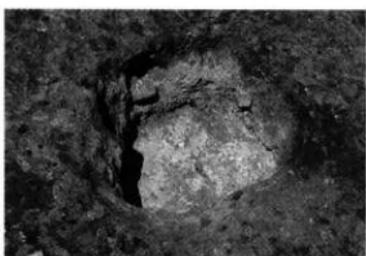
断面



II C2c土坑 平面



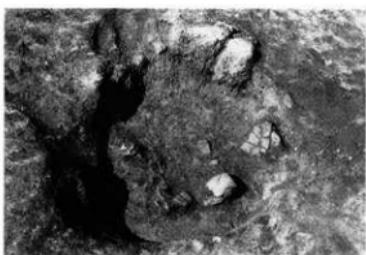
断面



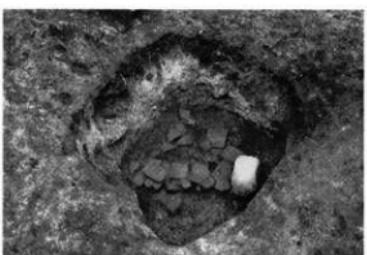
II C3e土坑 平面



断面

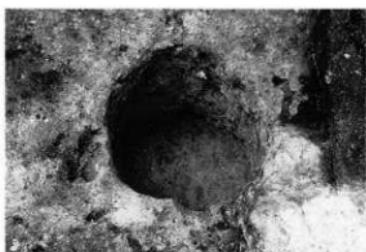


II C3e土坑 遗物出土状况 1

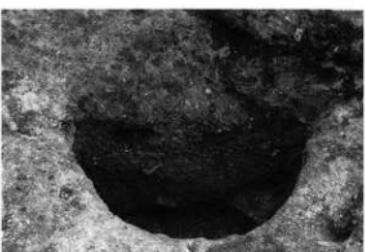


遗物出土状况 2

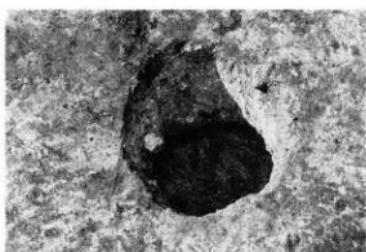
写真图版12 土坑 2



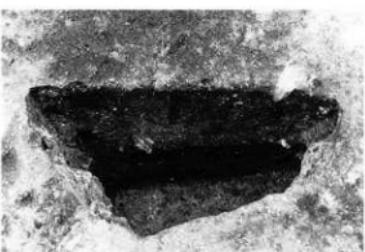
II C4 土坑 平面



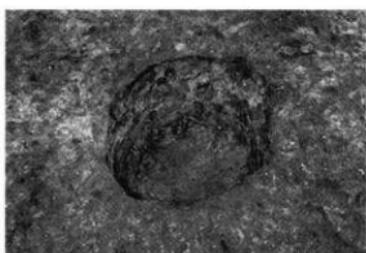
断面



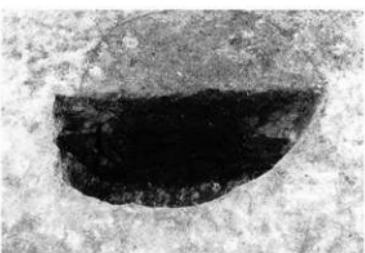
II C5e 土坑 平面



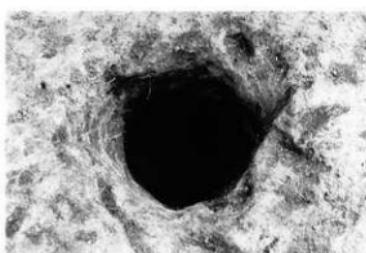
断面



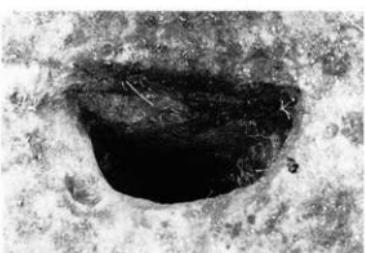
II C7e 土坑 平面



断面

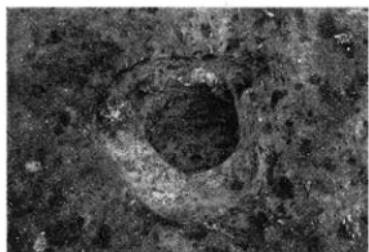


II C7g 土坑 平面

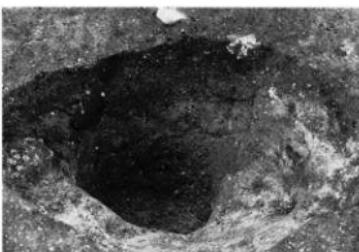


断面

写真図版13 土坑3



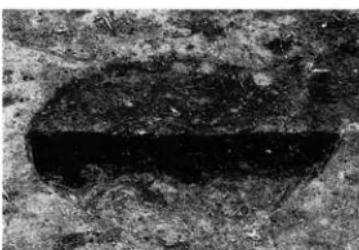
II C8e土坑 平面



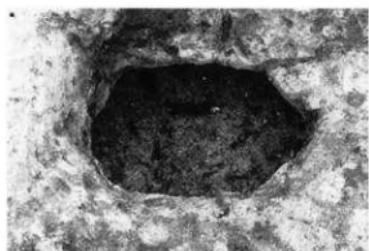
断面



II D2a土坑 平面



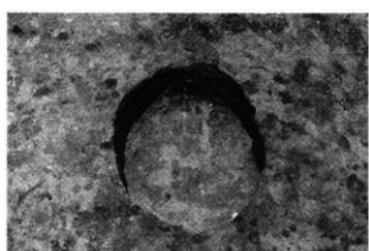
断面



II D3d土坑 平面



断面

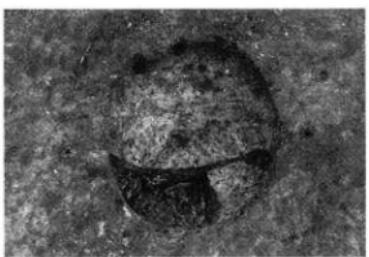


II D4c土坑 平面

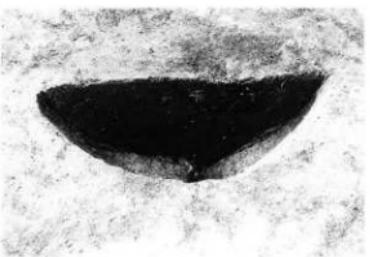


断面

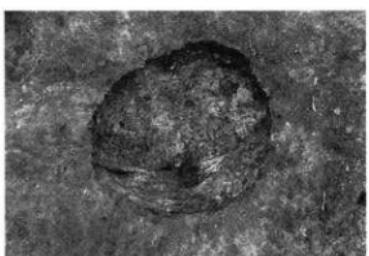
写真図版14 土坑4



IV D1b①土坑 平面



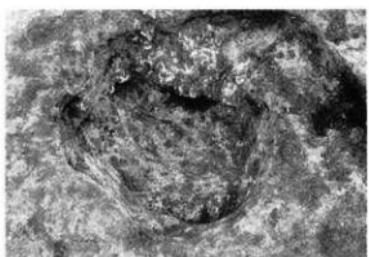
断面



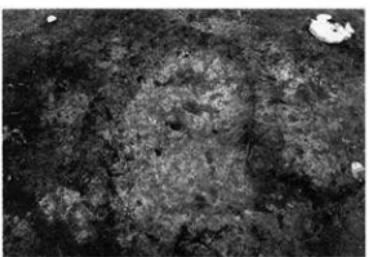
IV D1b②土坑 平面



断面



III C8d土坑 平面



III C0土坑 平面



III C4土坑 平面



作业风景

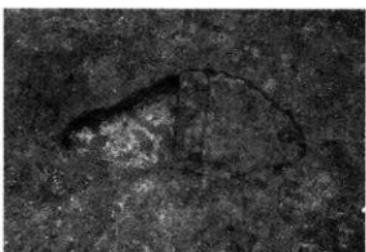
写真図版15 土坑5



IIIC4a燒土 平面



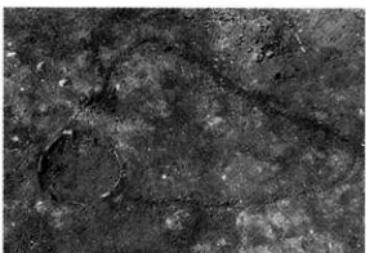
断面



IIIC7e燒土 平面



断面



IIIIC4埋設土器 平面



断面



IIIIDe段状遺構 平面



断面

写真図版16 燒土遺構・土器埋設遺構・段状遺構



IIB6溝 平面（南から）



断面 1



断面 2



IIB6溝 平面（北西から）



断面 3



断面 4

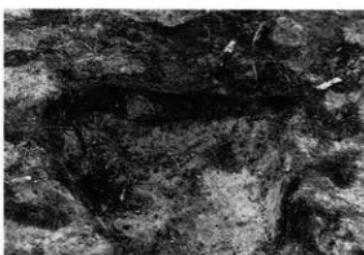
写真図版17 溝跡 1



III D5g溝 平面



断面 1



断面 2

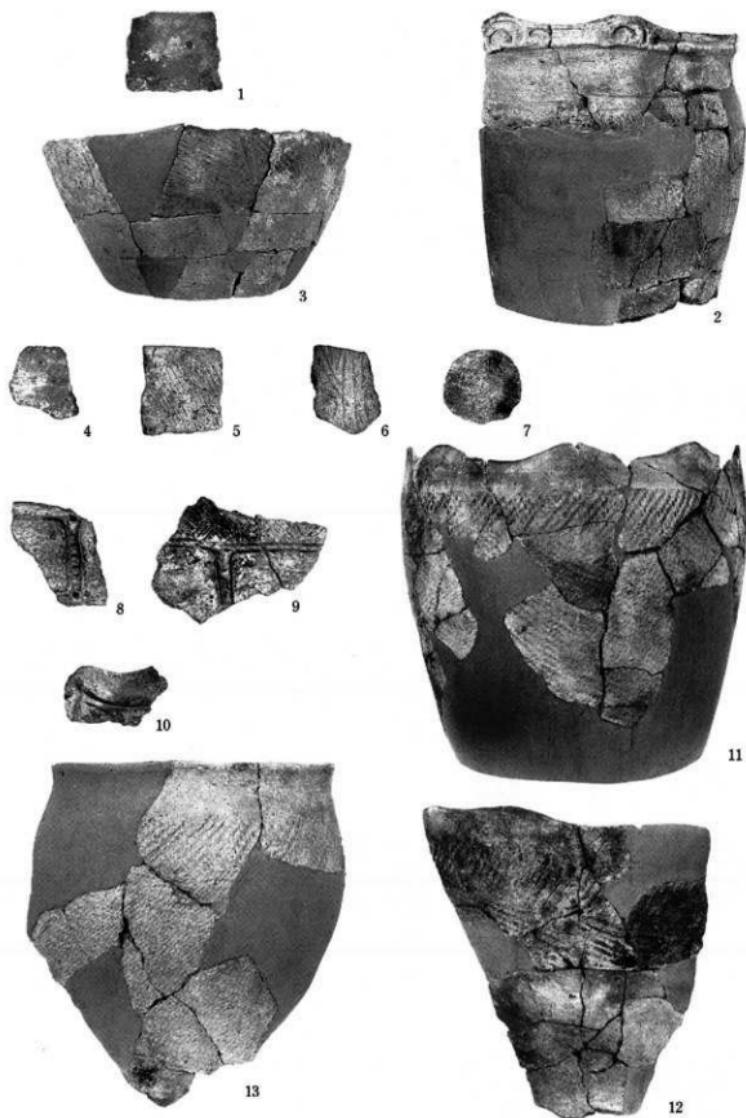


IV C3g溝 平面

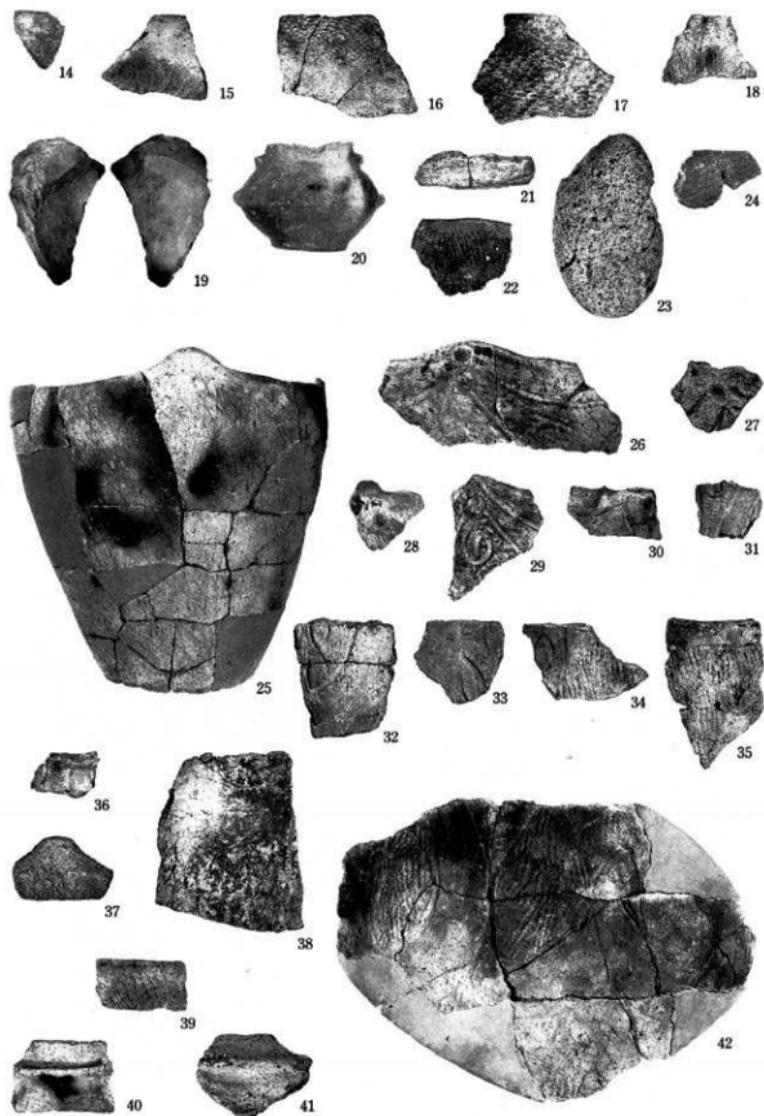


断面

写真図版18 溝跡 2



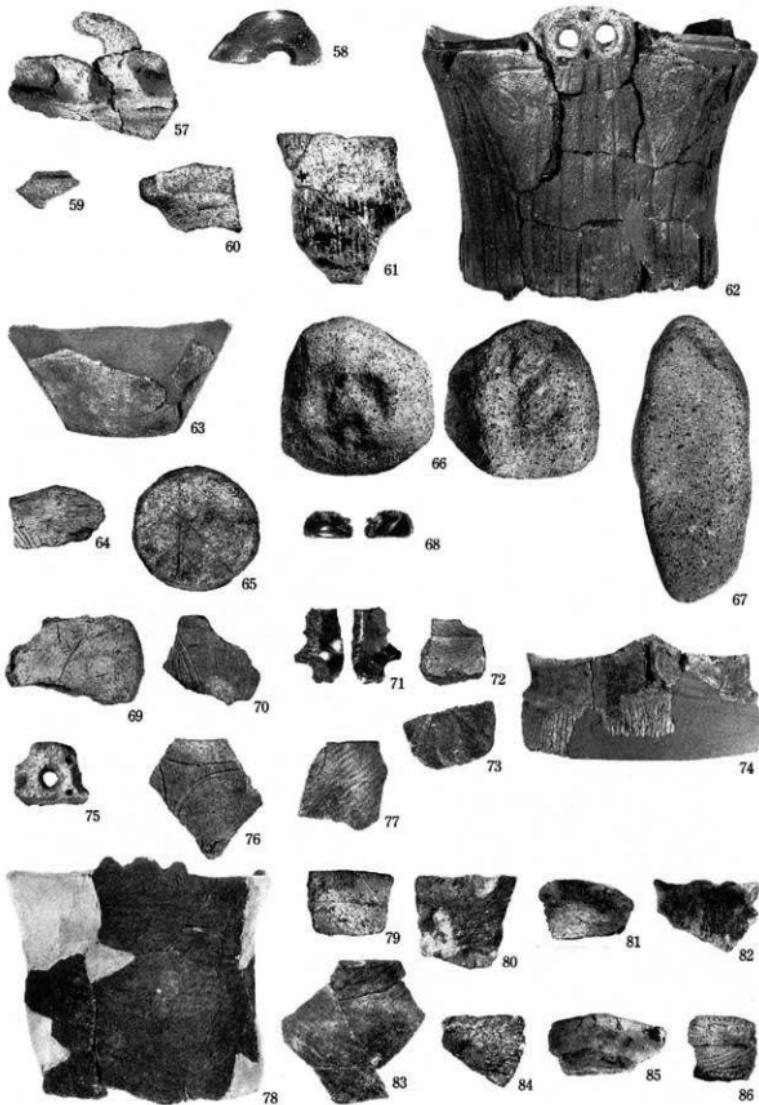
写真図版19 住居内出土遺物 1



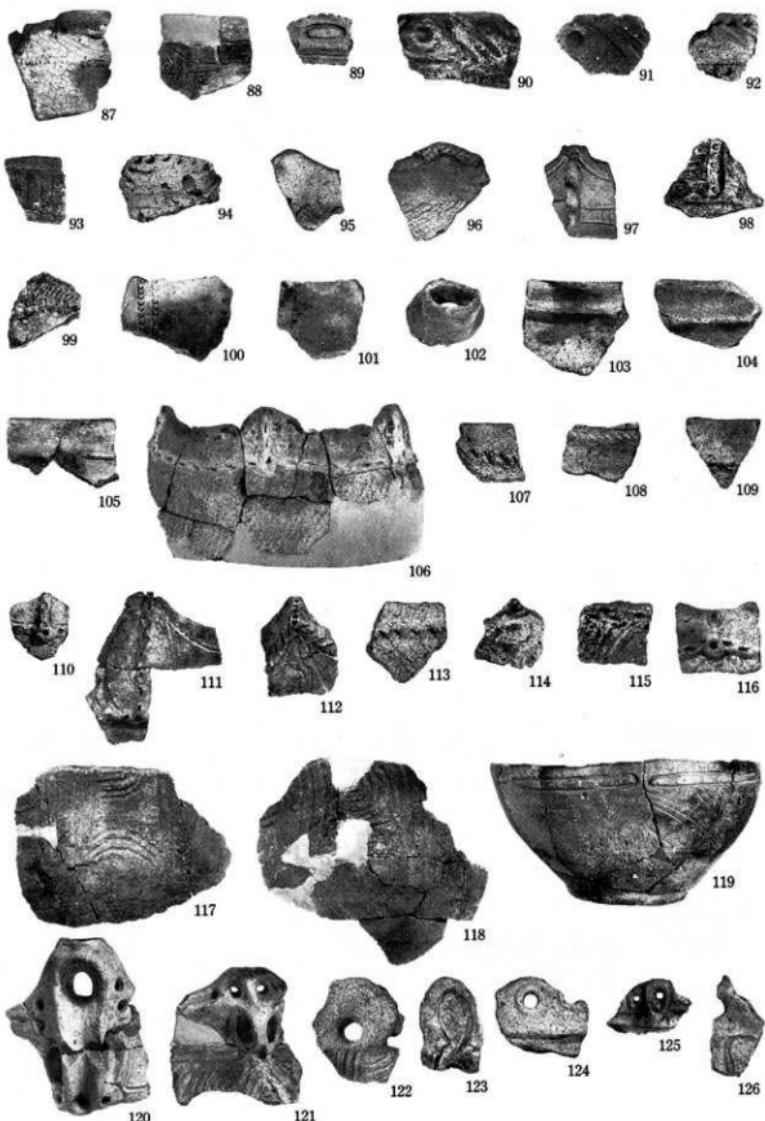
写真図版20 住居内出土遺物2



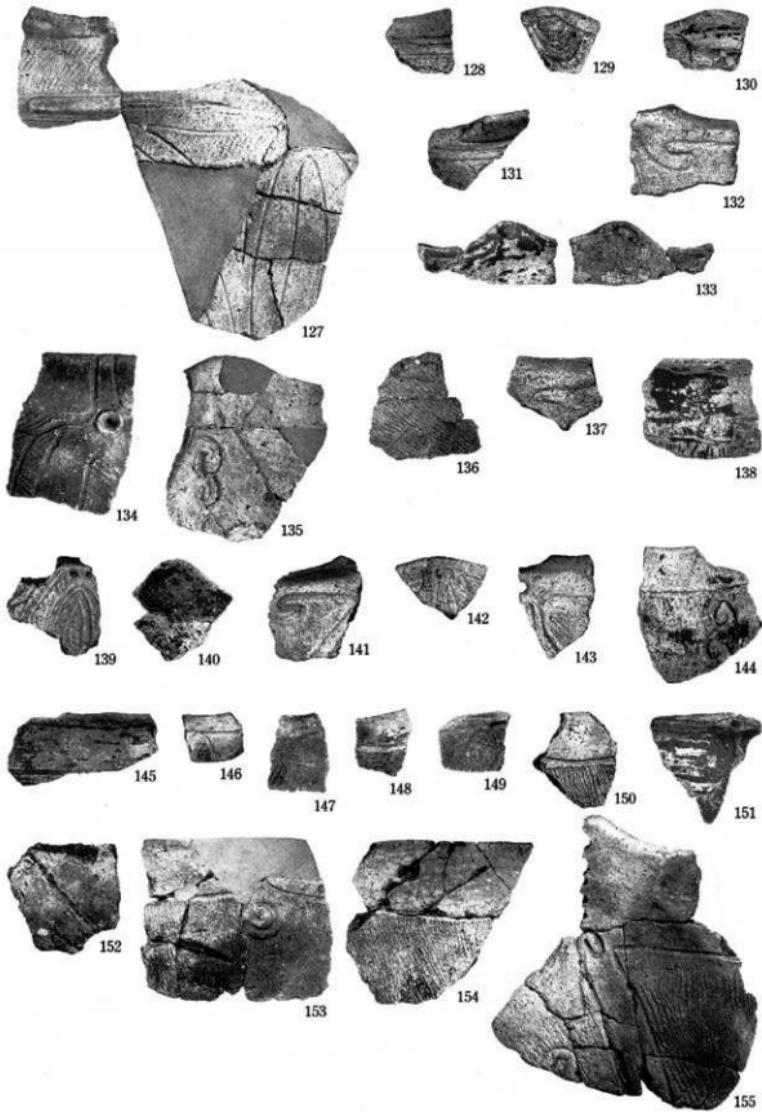
写真図版21 住居内出土遺物3・埋設土器・土坑内出土遺物1



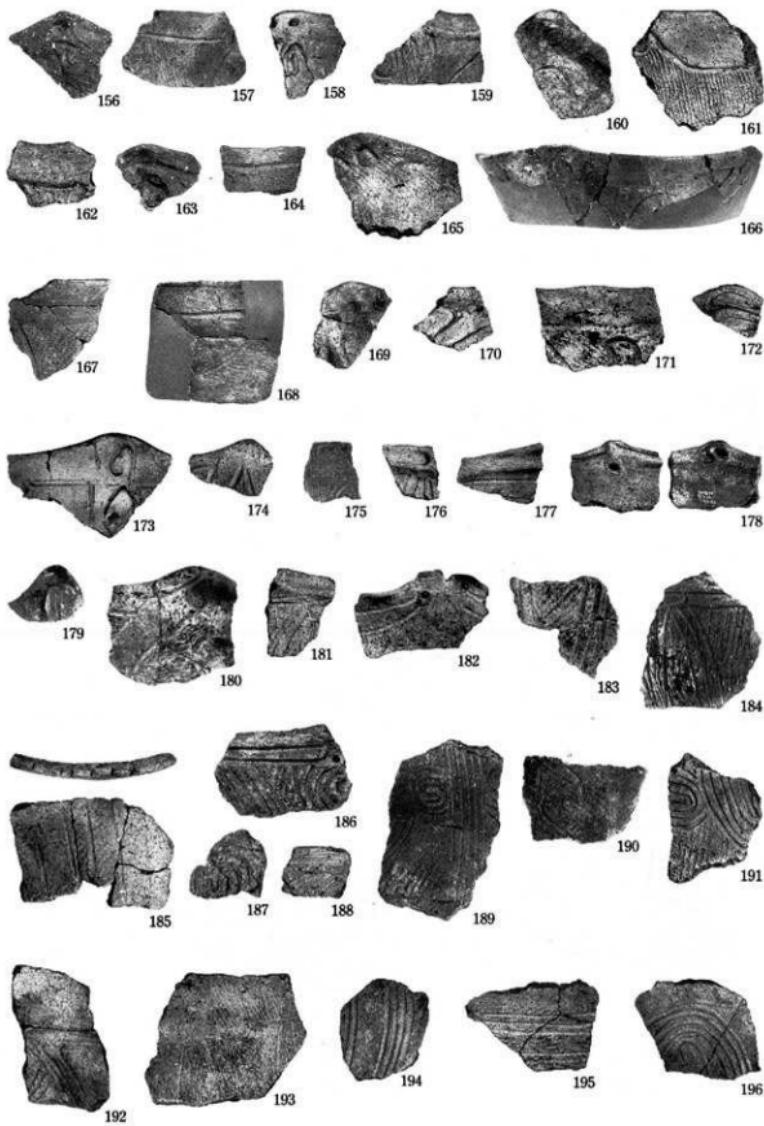
写真図版22 土坑内出土遺物2・溝跡出土遺物・遺構外出土石器1



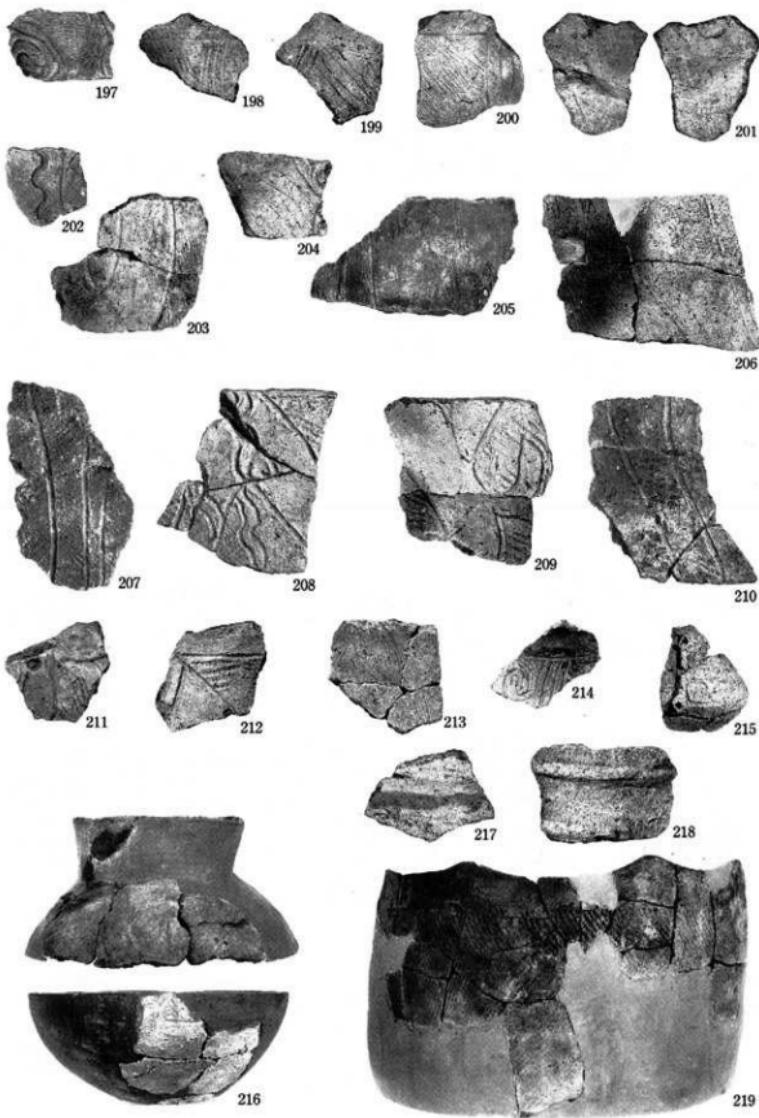
写真図版23 遺構外出土石器 2



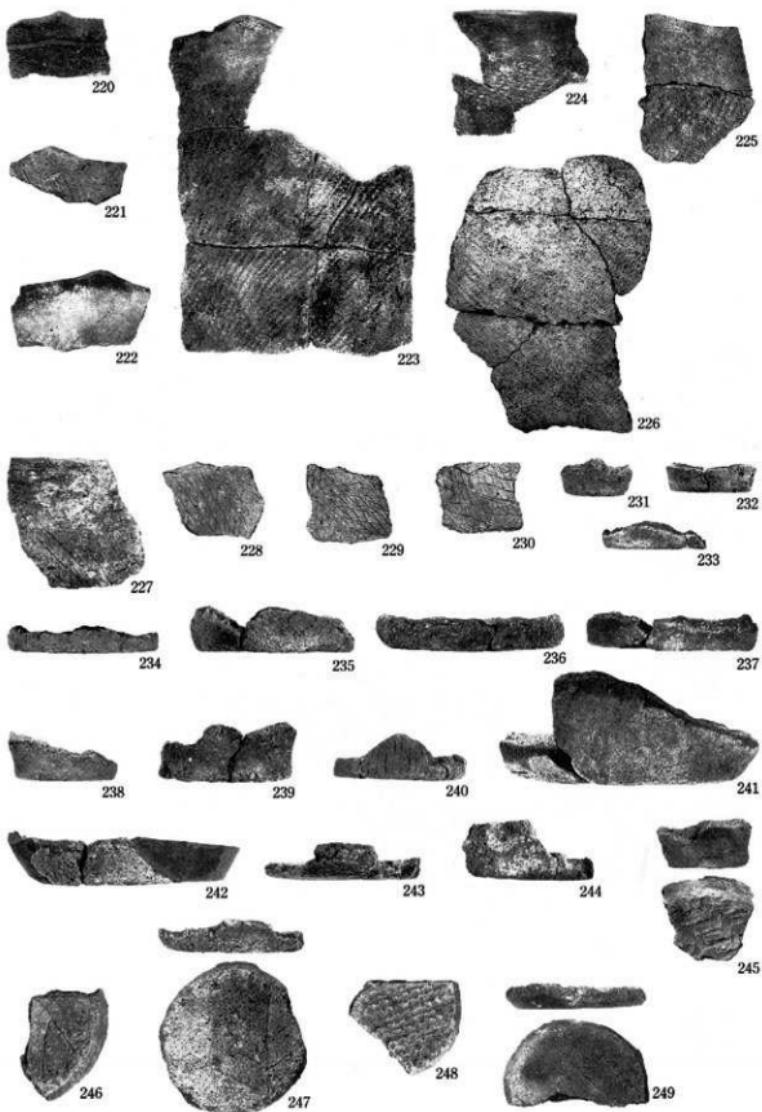
写真図版24 遺構外出土石器 3



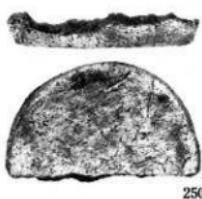
写真図版25 通溝外出土石器4



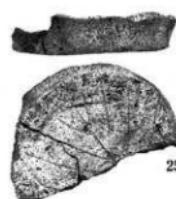
写真図版26 遺構外出土石器 5



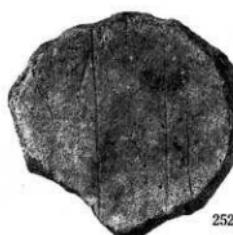
写真図版27 遺構外出土石器 6



250



251



252



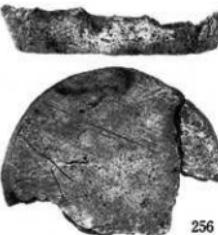
253



254



255



256



257



258



259



260



261



262

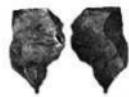
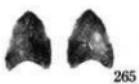


263



264

写真図版28 遺構外出土石器7・土製品



写真図版29 遺構外出土石器 1



279



280



281



282



283



284



285



286

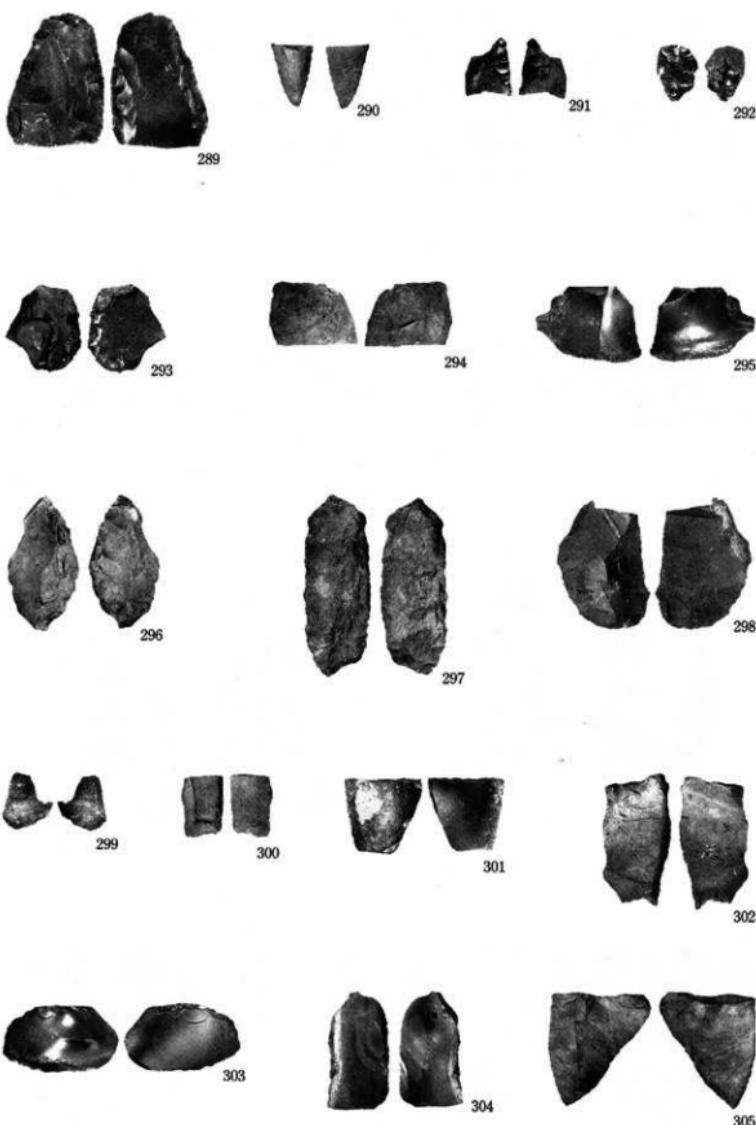


287

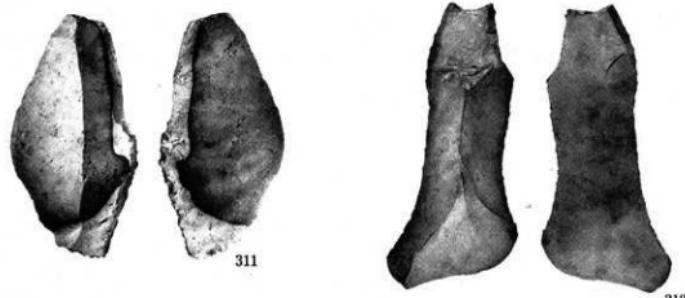
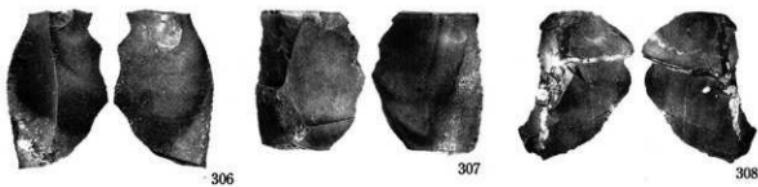


288

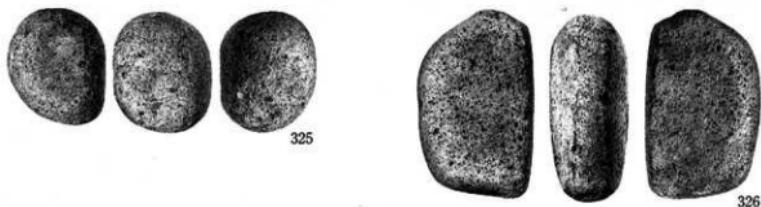
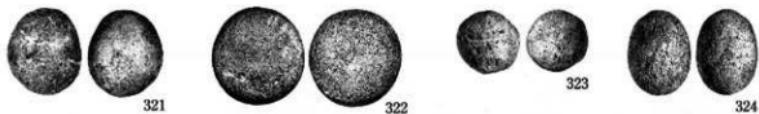
写真図版30 遺構外出土石器 2



写真図版31 遺構外出土石器 3



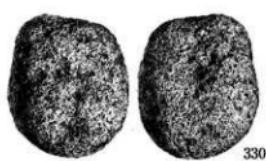
写真図版32 遺構外出土石器4



写真図版33 遺構外出土石器5



329



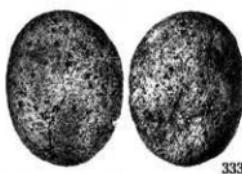
330



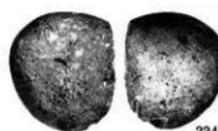
331



332



333



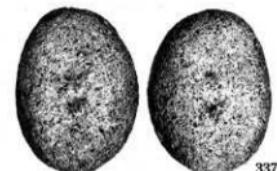
334



335



336



337

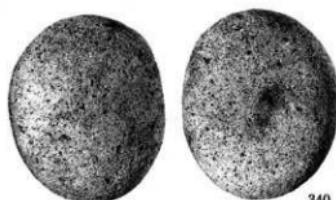
写真図版34 遺構外出土石器 6



338



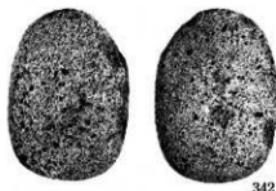
339



340



341



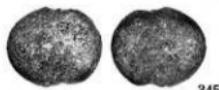
342



343



344



345

写真図版35 遺構外出土石器 7



346



347



348



349



350



351



352



353



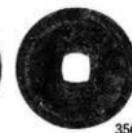
354



355



356



357



358



359



360

写真図版36 遺構外出土石器8・石製品・古錢

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター職員

【職員】

所長

伊藤民也

副所長

橋田次男

【管理課】

管理課長

川浪清徳

嘱託

千葉芳夫

管理課長補佐

山崎善光

"

藤島恵子

主査

立花多加志

"

新田トヨ

主事

日影睦夫

"

佐々木光重

【調査第一課】

調査第一課長

佐々木勝

【調査第二課】

調査第二課長

高橋與右衛門

調査第一課長補佐

佐々木清文

調査第二課長補佐

中川重紀

主任文化財専門調査員

小山内透

主任文化財専門調査員

高橋義介

文化財専門調査員

赤石登

文化財専門調査員

金子佐知子

"

吉田充

"

中田達

"

小原眞一郎

"

工藤道

"

小笠原健一郎

"

古賀貞身

"

金野進

"

阿部真芳

"

鳥居達人

"

松尾幸微

"

金子昭彦

"

工藤誠

"

東海林淳

"

前田和

"

阿部勝則

"

松田信

"

羽柴直人

"

工藤叶悟

"

小野寺正之

"

前田宏

"

菅原靖

"

安藤出紀夫

"

長村克

"

木村晃

"

溜浩

"

木村正彦

"

菊池貴

"

藤澤淳一

"

村上拓

"

杉沢昭太郎

"

本多準

"

中村直美

"

北村忠

"

(星雅之)

"

丸山浩

"

木村聰

"

村木弘

"

黒川徹

期限付専門職員

小林弘

期限付専門職員

鈴木聰

"

江藤淳

"

吉川和

"

藤原賢

"

北田里

"

菊池賢

"

吉原和

"

井上信

"

原美津子

"

川又晋

"

齋藤麻紀子

"

吉田真由美

"

島原弘征

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集

尿前II遺跡B地区発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成12年9月23日

発行 平成12年9月30日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 盛岡市下飯岡11地割185番地

TEL(019)638-9001

印刷 有限会社光文社印刷

〒020-0107 盛岡市松園3-12-1

TEL(019)661-3441

